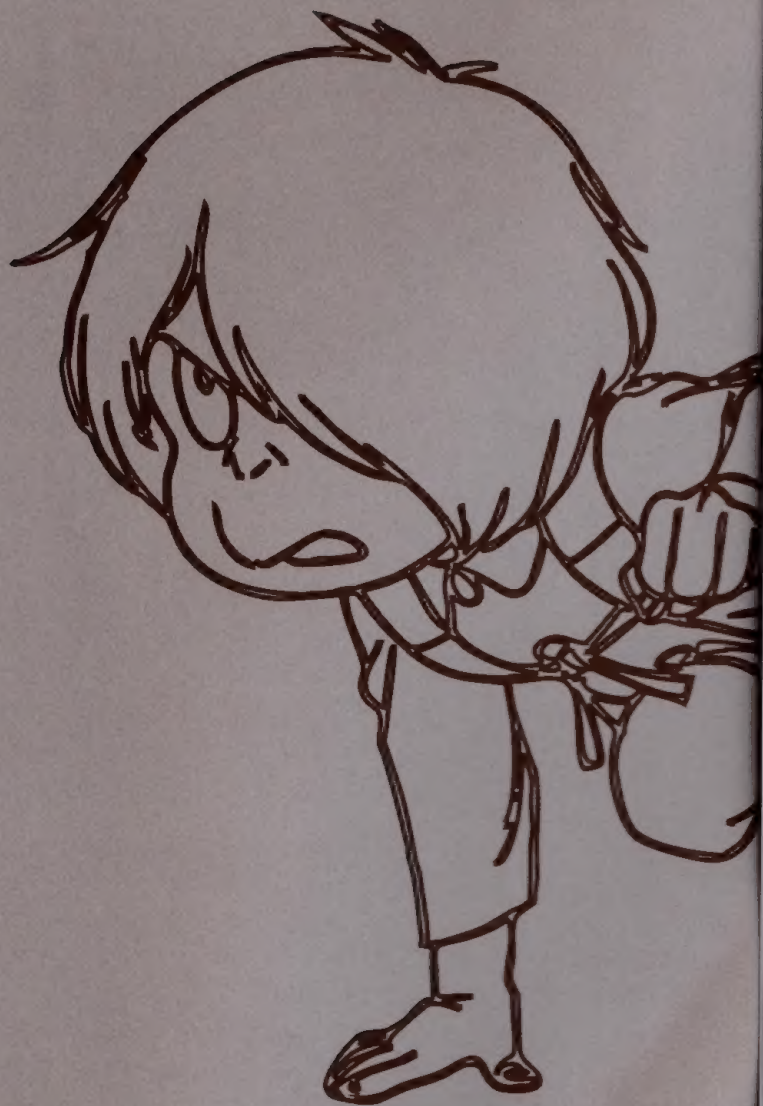
おい!
鬼太郎
アニメ完全設定資料集
甦る
ゲゲゲの鬼太郎
80's
メディアボーイMOOK
劇場版DVD発売記念!
これぞ愛蔵版!!
スタッフ描きおろしイラスト多数掲載!

GEGEGE NO KITA

●この本ができるまで……………………………

1985年10月12日から1988年3月21日に渡って放映された1980年代版『ゲゲゲの鬼太郎』は、平均20%を超える視聴率で、歴代鬼太郎シリーズの中でも最大のヒット作となっています。しかし、放映当時の全編を通じた設定資料などがこれまで一冊の形で編纂されたことはなく、未公開の資料なども数多いまま、約20年の歳月が流れてしまいました。

この度、東映・東映アニメーションから80年代版＋90年代版の劇場版DVD-BOXが発売されるにあたり、同社協力のもと、80年代版鬼太郎ムックの発行を実現できました。

本書制作にあたり、資料収集や取材など、東映アニメーション並びに当時の制作スタッフの方々より数々のご協力をいただきましたことを、心より感謝いたします。

ゲゲゲの鬼太郎 劇場版4作品 完全ガイド

（声の出演）
ゲゲゲの鬼太郎■戸田恵子
目玉おやじ■田の中勇
ネズミ男■富山　敬

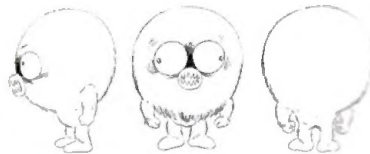
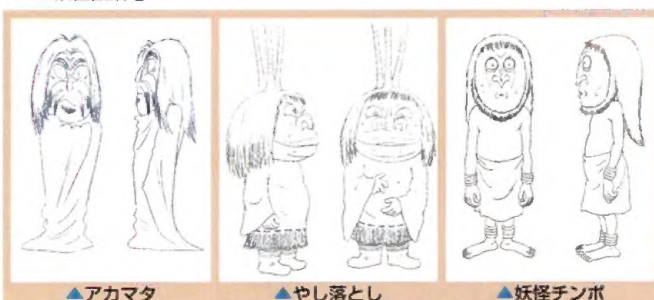
80年代に公開された劇場版「ゲゲゲの鬼太郎」4作品を、キャラクター設定とストーリーで振り返る。劇場版ならではの鬼太郎ワールドがそこにはあるのだ！

劇場版１作目 ゲゲゲの鬼太郎

（1985年12月21日封切）
製作総指揮■今田智憲　プロデューサー■横山賢二
原作■水木しげる　脚本■星山博之
音楽■川崎真弘　作画監督■山口泰弘　美術監督■伊藤岩光
製作担当■松下健吉　監督■白土　武

鬼太郎を倒しにやってきた南方妖怪軍団！

日本の妖怪を支配しようとたくらむ南方妖怪チンポが仲間とともに乗り込んできた。鬼太郎を憎む日本妖怪総大将のぬらりひょんと手を組み、ユメコちゃんを誘拐して鬼太郎をおびきよせる。そこに待ち構える南方妖怪たち。アカマタ、やし落としの攻撃をかわし、巨大な口を持つ妖怪獣・蛟竜の激しい攻撃には絶体絶命のピンチを迎えるが、ねこ娘、砂かけばばあ、子泣きじじい等、仲間の妖怪に助けられ、チンポに監禁されていたユメコちゃんを救うことに成功した鬼太郎は、チンポたちの船を撃破する。船からボートで逃げ出そうとするチンポたちだが、仲間割れを起こしてボートが岩に激突してしまう。チンポは飛んで南方へと逃げ去っていった。

▲妖怪獣蛟竜

▲沖縄妖怪　キジムナー

▲アカマタ　▲やし落とし　▲妖怪チンポ

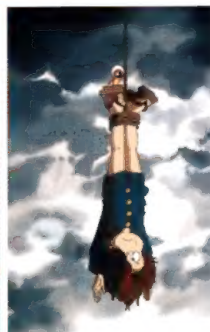
▲三連チンポのホバークラフトは見事、映倫をクリア！

▲ドラキュラ

▲魔女

▲吸血狼

▲狼男

▶フランケン

劇場版２作目

ゲゲゲの鬼太郎

妖怪大戦争

（1986年3月15日封切）

製作総指揮■今田智憲　プロデューサー■横山賢二
原作■水木しげる　脚本■星山博之　音楽■川崎真弘
作画監督■兼森義則　美術監督■土田　勇
製作担当■松下健吉　監督■葛西　治

日本征服をたくらむ西洋妖怪と大激突！

バックベアード率いる西洋妖怪軍団が日本最南端のホウキ星島にやってきた。日本征服を目的にこの島に城を作ろうというのだ。島民を奴隷にして強制的に働かせていた西洋妖怪たち。ただ1人の島からの脱出者アキオが助けを求めたのはもちろん鬼太郎。さっそく島へと向かう鬼太郎たちを手荒く出迎える西洋妖怪軍団。双方入り乱れての大乱戦が始まった！　そしていよいよ敵の総大将バックベアードがその姿を見せる。その巨大な目から出る怪光線に苦境にたたされる鬼太郎だったが、髪の毛針で反撃を開始する。その時突然、海がうずまきを起こし戦いを飲み込み、水柱になって空へと上昇していく。間一髪、鬼太郎は脱出に成功したのだ。

劇場版３作目

ゲゲゲの鬼太郎

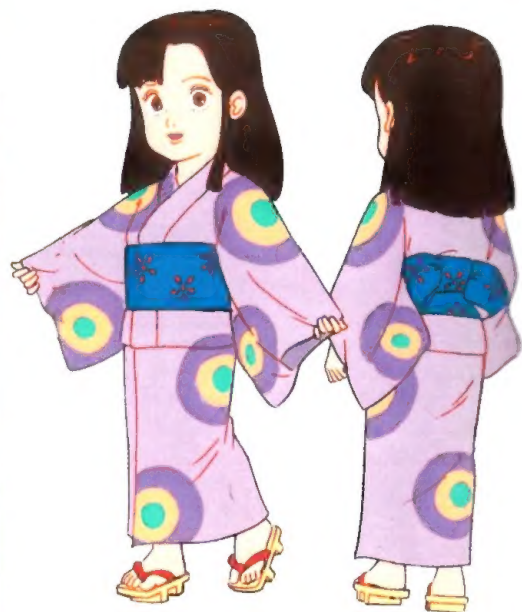
最強妖怪軍団！日本上陸!!

（1986年7月12日封切）

製作総指揮■今田智憲　プロデューサー■横山賢二
原作■水木しげる　脚本■星山博之　音楽■川崎真弘
作画監督■山口泰弘　美術監督■内川文広
製作担当■松下健吉　監督■芹川有吾

最強の中国妖怪相手に鬼太郎危機一髪！

人間と妖怪の友好盆踊り大会の準備に大忙しの鬼太郎たち。しかし、仲間のぬりかべや砂かけばばあがやってこない。なんと中国妖怪のボス、チーに反物にかえられていたのだ。チーは日本の妖怪を反物にして、その布地で作った服を着た人間をあやつり、日本を支配しようとしていた。それを知った鬼太郎は中国妖怪のいる妖怪城に向かうが、なんとそこで反物にかえられてしまう。メタンガスだけを吸って生きている井戸仙人に助けられ、なんとか元の姿に戻った鬼太郎はいよいよ反撃を開始する。仲間の日本妖怪たちとともに中国妖怪たちと大決戦に。その時、遂にチーが正体を現わし、九尾の狐となって鬼太郎に襲いかかる！

作画監督／山口泰弘氏によるパッケージイラスト

▲チーの売る妖怪反物でつくった着物を着るユメコ

兼森義則氏によるイメージイラスト

▲井戸仙人

▲中国妖怪のボス、チー

▲チー（劇画バージョン）

カロリーヌちゃん

水木しげる先生

がしゃどくろ

妖怪皇帝

高僧チンポ様

妖怪辻神

土グモ

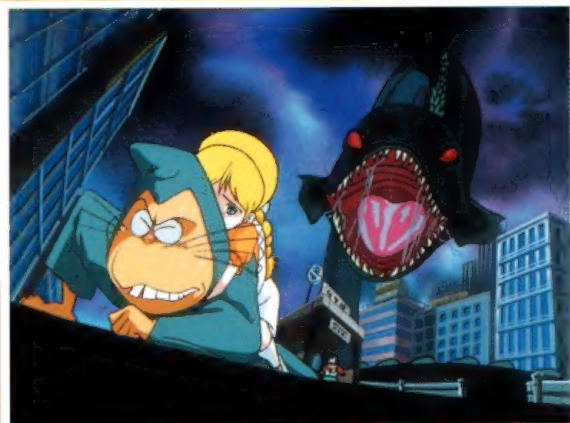
山童

火車

あやかし

妖怪戦車

朧車

白うねり

劇場版4作目 ゲゲゲの鬼太郎

激突!! 異次元妖怪の大反乱

(1986年12月20日封切)

製作総指揮■今田智憲　プロデューサー■横山賢二
原作■水木しげる　脚本■武上純希　音楽■川崎真弘
作画監督■入好さとる　美術監督■田中資幸
製作担当■松下健吉　監督■芝田浩樹

鬼太郎を救うためにネズミ男が一大決心!

突然発生した謎の台風が日本に迫り、妖怪たちが人間を襲いだす。幼い少女カロリーヌを巡って鬼太郎は敵妖怪たちと大乱戦を繰り広げるも、朧車の怪光線でかためられてしまう。ミサイルで東京を爆破する事を決めた日本政府。発射まであと30分だ。そんな危機一髪の状況を救ったのはカロリーヌちゃんだった。朧車の涙で元の体に戻った鬼太郎が仲間たちと反撃を開始、そして遂に謎の妖怪皇帝と一騎討ちに。怒りをこめた鬼太郎の杖が振り落とされると、妖怪皇帝の正体があきらかになる…!? ネズミ男の恋や原作者の水木先生も登場するなど、エンターテイメント性の高い傑作!

おかえり鬼太郎 ★アニメ完全設定資料集★
甦る ゲゲゲの鬼太郎 80's
メディアボーイMOOK
劇場版DVD発売記念!

CONTENTS

※ポスターは番組制作時に作成された番組宣伝用です。

■巻頭特集～劇場版紹介～ 003

劇場版 DVD-BOX 発売記念!

■■■■4作品を巻頭にて紹介!■■■■

スタッフ・インタビュー &作画スタッフ特別描きおろし! 008

設定資料+各話資料ガイド 035

キャラクター設定・美術設定・各話資料
未公開資料にいたるまで徹底掲載!

特別掲載

◎横山賢二プロデューサーの
鬼太郎コラムを完全再録!
◎放映当時の『アニメージュ』(徳間書店)
約3年分の掲載を丸ごとお届け!

【第08話／だるま妖怪相談所】

▲計算されたコミカルなテンポが心地よい西沢氏による演出

Staff Long Interview

●監督／Director

葛西 治

Osamu Kasai

鬼太郎という作品は、ぜひやりたいという人が集まってくれていたんです

ゲゲゲの鬼太郎・第3シリーズにおいてシリーズディレクターをつとめた葛西治氏。シリーズ全体に目を通すという重要な役回りを担っていた氏について、まずは参加の経緯から語ってもらった

葛西「鬼太郎は、ずっと『やりたい』って会社に言い続けてたんですよ。それでテレビシリーズが作られるってことになった時、横山賢二プロデューサーから話をいただき、やるやる！　やります！と、即決でやることを決めました」

──新しい鬼太郎シリーズのイメージは、どのようにして固まっていきましたか？

葛西「まず最初に固まっていたのが、主な視聴者である子供達と同世代の代表となるようなキャラクターを作るという事です。これが、『ユメコ』ですね。『可愛い普通の女の子が、鬼太郎とからんでいく』というイメージです。また、子供と一緒に見ているファミリー層を取り込む、というイメージで、ユメコの家族も細かく設定しました。それに伴い、レギュラー妖怪を『鬼太郎ファミリー』として機能させる。そんな事を、横山さんが最初から決めていました。

僕はそのことにはまるで異論はありませんでした。ただ、最初は水木先生が『あまり、妖怪に色々と付加させないでほしい』。あと、今の社会情勢を入れないでほしい』と言われていたんですね。あまりアレンジしないでほしいと。それを鑑みて、『大丈夫かな〜』ということが頭をよぎったりもしました。しかし、原作をそのまま踏襲するには、時代的にちょっと無理があるので、ファミリー路線は多いに賛成しました」

──いざスタートするにあたって苦労された部分は？

葛西「アニメーションというのは、アニメーター、美術デザイナーのアイデアが大事なんですよ。上がってきたシナリオをそのまま表現するだけではダメなんです。

特に鬼太郎は、なんだかつかみどころの無い世界観ですよね。そもそも妖怪が主人公なんだし（笑）。アイデア次第で、『なんだかよくわからないんだけど、おもしろい』という世界を作れるはずだと思ったんです。だから、絵コンテの段階でアイデアを盛り込むことは、鬼太郎にとって大変に重要だったと思うんです。だけど、今振り返ると『もっともっとアイデアを盛り込みたかった』って思いが残っちゃいますね。進行の問題などがあって、シナリオや絵コンテがあがってくるのが遅くて、そういうアイデアを盛り込む時間が無かった…。そういう悔しい思いがあるんです。ただ鬼太郎という作品は、演出などぜひ鬼太郎をやりたいというスタッフが集まってくれていたんですね。だから、厳しいスケジュールでも、みんな頑張ってやってくれました。鬼太郎というシリーズは、毎回自然とそういう人が集まってくる作品なんです」

──それでは、演出についてのエピソードはありますでしょうか？

葛西「うーん。僕は全体を見ていたからなぁ。自分の作品に関しては、これが良かったとかダメだとかの記憶は無いんですよ、あんまり。他人の回だと、西沢信孝さんが演出した8話『だるま妖怪相談所』は印象的ですね。彼は、水木先生の作品ならではのカメラアングルがわかっているんです。フレームの中に、キャラクターがどのように写るか、とかサイズがどういう風になっているのか、とかがきちんとイメージできているんです。それに、絵の動き、セリフやテンポなど、見ている人が心地よくなるような繋がり方をしていますしね」

──当時、高視聴率も出していて、人気ぶりはスタッフにも伝わっていましたか？

葛西「人気ぶりについてはあまり感じなかったかな？　視聴率は確かに気になるし、良いにこしたことは無いんですけどね。でもスタッフ側からしたら、作品を作り続けながら、クオリティーも保たなければならないので、そこまで意識していられないんです。そりゃプロデューサ

葛西　治
OSAMU KASAI

●1941年11月11日生まれ。北海道出身。64年に東映動画（現・東映アニメーション）に入社。演出、監督として歴代の東映アニメ作品を数多く手掛ける。代表作は『銀河鉄道999』（78年）『とんがり帽子のメモル』（84年）『ドラゴンボールGT』（96年）など多数に及ぶ。

ーは、全部見ていますから、『がんばれ！がんばれ！』って叱咤激励をしますけど（笑）そんなプロデューサーの横山さんは、制作サイドにとても気をつかっていましたね。交流会は意識的にやっていました。鬼太郎ほど、スタッフに気をつかった作品は無いと思います。それこそ演出助手とかに『仕事なんかいいから』なんていいながら飲みに連れて行ったりして。本当に当時は楽しかったですね」

――あと最終回候補作がいくつかあったという話がありますが。

葛西「局などのカラミがあって、企画の方にあった思惑なんじゃないかと思います。僕のところには、正式に来ていないですね。

実際、あれだけの人気を誇った作品ですからね。最終回をきちんと作らないで、舌足らずになってしまったらまずいでしょ？　情熱や、思い入れを持ってくれたファン対して、きちんと決着をつけてあげられる内容じゃないといけないんです。中には、前後編に分けて作るなんてアイデアもあったような気もします」

――映画についての思い出はありますか？

葛西「『妖怪大戦争』ですよね。原作に関しては、横山プロデューサーの中で80％は決まっていたんです。ただ凄いハードスケジュールで（笑）。当時、『ハレー彗星』が話題になっていたので、それを入れ込んでいこうというアイデアは準備段階からありましたね。ユメコちゃんを絡めていないのは、長さが足りないという事で、最初の段階から外したんです。どちらかというと鬼太郎ファミリープラスねずみ男で、七人の侍ならぬ、八人の侍という感じにして、アクションのおもしろさにポイントを置いたんです。

本音をいうとね、もっとアニメーターの方からアイデアを持ってきて欲しかったんですよ。この台本なら、アニメーターの工夫次第で、もっともっと凝ったアクションや、見せ場もたっぷり作れたはずなんですよ。だから、絵コンテも自分でコツコツと進めてはいたんですけれど、誰にも見せなかった。でも誰もアイデアを持ってきてくれなかった（笑）。それで、仕方なく、僕の絵コンテを使わざるを得なかったんですよ。スタジオ・バードの稲野君をせっついてね、彼の原画担当パートは、自分でコンテを切って自由に遊んでみろ！なんて言ってね、描かせたりもしましたね。でも全体的に忙しかったあの時期に、アイデアを出せっていうのは不可能な状況だったんでしょうね。アニメーターのアイデアを引き出せなかったというのが、本当に残念でしたね」

――ところで、葛西さんの好きなキャラクターって何かありますか？

葛西「『まくらがえし』だね！　僕は、まずビジュアルから入るんだけど、まくらがえしはとてもキャラクターの形が良い（笑）。なんか仁王様みたいで（笑）。いくらでも別のストーリーやアイデアが沸き上がってくるような造形なんだよね。それと『穴ぐら入道』。あれは良い妖怪なんですよ、本当は。人間に住処を奪われた上に、見せ物にされて…なんか守ってやりたくなるキャラでしょ？　それから…ジニヤーも可愛いのに不良っぽくていいな～。出身地がアラビアの魔女っていうのも良い。これら3妖怪を使って、新しいストーリーを作ってみたいなぁ。現代と昔、異世界や異空間を行ったり来たりするようなストーリーで、大長編を作ってみたいね！　水木さんの世界観って大人向けとも子供向けともつかない不思議な世界観じゃないですか。それがすばらしいんです。その世界観をちゃんと踏襲しながら、妖怪同士のオリジナルの組み合わせでドラマを作ってみたいんですよ。是非やってみたい。あと、やってみたいといえば、鬼太郎では無いんだけど、水木先生原作の『ヒットラー』をやってみたいな！」

情熱や、思い入れを持ってくれたファンに対して、きちんと決着をつけてあげられる内容じゃないといけないんです

――そのオリジナル長編、ぜひ見てみたいです。それでは、葛西さんにとっての80年代鬼太郎はなんだったんでしょうか？

葛西「自分自身の生き様が固まった時期です。それまでテレビに関わらず、東映アニメーションという会社の中で、僕は色々とやっていたんですよ。そういう自分があって、会社員として、また職業人として、自分の人生を見ていた時期だったと思います。鬼太郎を通じて、横山さんが、本当ならば会わないような外の人たちにあわせてくれたりしたんですよ。そういう経験を経て、自分自身の世界が開いた時期ですね。

あと細かい話だと、『妖怪大戦争』の時期は、確か自宅を建てた時期だったりもするんです（笑）。ホントに色々と研究して大変だったんです！　悪徳不動産屋にだまされないようにしないとって一生懸命だったんですよ（笑）」

――だからでしょうか？『妖怪大戦争』って建築シーンが多いような…？

葛西「あれ？　そうだね！　その大変さが無意識のうちに出ちゃったのかもしれない（笑）」

――それでは、鬼太郎を好きなファンの方々へメッセージをお願いします。

葛西「今という時代は明る過ぎるでしょ？　もっと暗いところを見て欲しい。今の時代って、光だらけじゃないですか。そうじゃないんです。光のあたっていない、暗い部分にこそ、真実の姿が写っているんです！　それを大人の方々は子供へ伝えて欲しいんです。自分が子供だった時には見ていたはず、見えていたはずの、暗い部分に見えている本当の姿っていうのを」◆

[第19話／ゆめ妖怪まくらがえし]

[第64話／妖怪穴ぐら入道]

[第102話／おてんば魔女ジニヤー]

▲魔女ジニヤー、穴ぐら入道、まくらがえし　この3妖怪を使ってオリジナル作品を作りたいという葛西氏の新新なアイデアに脱帽！　この独創性が不動の鬼太郎人気を支えていたのだ！

Staff Long Interview

●監督／Director

芝田浩樹

Hiroki Shibata

絵心あふれる絵コンテで鬼太郎世界を表現した芝田浩樹氏。斬新で遊び心溢れる演出は、三代目鬼太郎の代名詞でもある

芝田「子供の時から、絵を描くのは好きでしたね。映画（実写）の仕事をやりたかったんですが、当時、就職の募集などなく、たまたま『キネマ旬報』で見た、東映動画（現：東映アニメーション）の入社試験の告知を見て、なぜかピンとくるものがあったんです（笑）。ところがその試験を知り合いも受けるという。『おい！　お前が受けて、俺が落ちたらどうするんだ！』という感じ（笑）。100人以上受けたと思うんですが、僕も知り合いも受かった。アニメという世界にたまたま入った感じでしたが、その最初のインスピレーションが正しかったんじゃないでしょうか（笑）」

――鬼太郎第3シリーズに参加した経緯を教えて下さい。

芝田「当時、『Dr.スランプ　アラレちゃん』で、助手から、演出を何本かやるようになっていました。そんな時に鬼太郎の新シリーズが始まるということを聞きまして、横山賢二プロデューサーに呼び出されました。『次の鬼太郎は、若手スタッフを使っていこうと思う』といわれて、自分から入っていったと思います。作品の世界観には惹かれるものがありました。ただ鬼太郎シリーズをきちんと読んだり見たりはしていなかったので、入ることが決まったときに、原作をドサリと渡されました。自分はササッと読むことができないタイプなので、じっくり読むと、背景に関してはもの凄くきっちり描いてあるのに、アクションシーンはナレーションの説明だけであっさり終わっていたりしてウーン…？という感じで（笑）。でも、これを元にして、自分なりの作品を作りたい！　と思いました。水木漫画の独特な世界観には引き込まれましたからね。それに、水木しげる先生からも、『好きにやってください』という様なことを人づてに言われていました。鬼太郎は『これは絶対にこうしなければダメ』というような束縛があまり無いので、自由にやらせてもらいましたね」

――『夢工場87　ニューメディア探検隊ゲゲゲの鬼太郎館』での映像なども、今見る限りではかなり自由だなぁと感じますが？

芝田「全てがおおらかな時代だったんですよ（笑）。『フジミテレビ』は当時のフジテレビを朝から晩まで見て、そのままダジャレで構成しちゃいました。『3時のあなた』だから『惨事のあなた』だとか。今だったら、権利関係など様々な問題があるはずですが、絵コンテをざっと書き上げて、作画を担当した、入好さんと、新岡さんに見てもらった時も、『カッパがかっぱらいだって。おもしろいじゃん！』といった風で。何も問題にならず、スーッと進みましたね。ただ、全部自分でやったものですから、水木先生の家にカメラかついでいって、自分で先生の映像を撮影したりしたのを覚えています。『ハイ！　カット！』とか言って（笑）」

――芝田さんの個性的な演出は、どのようにして生まれてきたんですか？

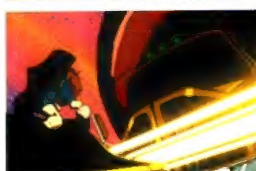
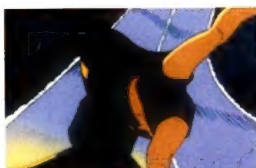
芝田「たとえば、ジャンプカットですが、あれはヒッチ・コックからブライアン・デ・パルマにつながる実写映画の手法を参考にしたんです。そういう、『斬新だな』と感じた演出や動きは、どうすれば効果的に見えるのか細かく研究しましたね。何コマ、何コマでつなげていけば、ああいう動きで見える、必要なコマ数は6コマか、という風に。当時は、演出同士が席を並べていたので、日常的に実写映画の話とか、この前の動きはカッコよかったとか、色々と話していました。34話『ばけ猫国道0号線』はスピルバーグの『激突！』を意識しているというのは、当時から色んな方に指摘されたりしましたね（笑）。自分で見て、カッコいいと思ったものは、積極的に取り入れていきました。ただ強引に使うのではなくて、演出的に、このシナリオだったら効果的に使えるかななど、いつも考えていましたね」

――印象に残っている回はありますか？

芝田「初めて演出を担当した2話『鏡じじい』などですね。例えばミラーハウスの場面などは、実際に鏡越しではどういう風に人間は写るんだろうと思って、豊島園に行って、ミラーハウスに入ってみて、カメラで撮影した写真を元にしながら動きを決めていったものです。でも、係員から見たら不思議な光景だったでしょうね。若い兄ちゃんがミラーハウスに入ってカメラをバシッバシ撮ってる。今だったらどうなるんでしょうね。怒られるかな（笑）

若かったのもありますけど、当時は全てに必死でしたから、思いついたら自分でやっていましたね。オープニングでの話なんですが、上がってきた時に、自分の思っていた色合いになっていなかった

心を描きたい。
人間的心情を描きたいんです
妖怪をキャラクターにしていても、
それは変わりません

[第2話／鏡じじい]

[第34話／ばけ猫国道0号線]

●ダイナミックな演出と迫力のある作画が見事に融合した初期の傑作の一つ（右／『ばけ猫国道0号線』）
●「燃えよドラゴン」を意識したというミラーハウスの詳細な描写には圧巻（左上／『鏡じじい』）

芝田浩樹
HIROKI SHIBATA

んです「でも、時間無いし、まあいいか…」と言った時に、OPの作画監督の兼森義則さんが隣にいて『それで良いの？』って言われて、ハッとなって。確か日曜日に出てきて、自分で色を塗り直した覚えがあります。箇所としては、ねずみ男の使っているマイクの隙間の質感とかその辺りの映像です。

本来ならば、こういう修正は仕上げが行なうものなので、越権行為としてやってはいけないんですが、本当に当時は必死だったので、自分でやってしまっていた部分が多々ありました」

――演出的な部分で、ポイントとしていた部分はどんなところでしょうか？

芝田「今でもそうなんですが、自分は人間を描きたい。人間的心情を描きたいんです。妖怪をキャラクターにしていても、それは変わりません。『大草原の小さな家』が大好きだったんですね。ああいう心が温かくなるストーリー。だから自分でも、心情的に訴えるハートウォーミングなものにしていきたいと考えています」

――映画第4作『激突!!異次元妖怪の大反乱』でもカロリーヌちゃんとねずみ男のエピソードなど、泣かせシーンが多いですよね。

芝田「カロリーヌちゃんの昇天シーンなど、自分でも気に入ってます。それにカロリーヌちゃんの声優を、ぜひ子供の声でお願いしますと頼みました。これは『大草原の小さな家』のアフレコが子供を使っていたので、あの雰囲気を出したいなと思ったからです。アフレコ現場も、子供さんがいるので、いつもよりもなごやかだった印象があります。ぬりかべをあてられていた屋良有作さんが、いつもの調子で『ぬりかべ～』と演じた後に、その子に向かって、『おじさん、これだけなんだよ』とか言ってたことを覚えています

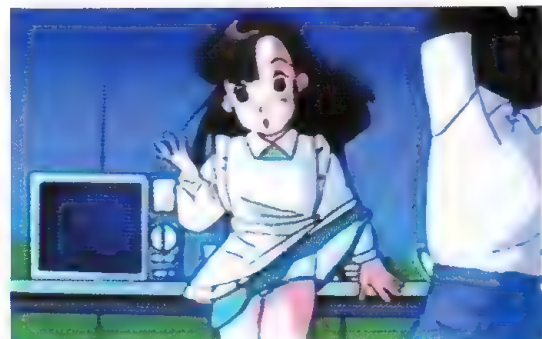
ただ、作品としてみると、スペクタクルシーンは苦手というのもあり、エンディングの崩壊シーンを変更してしまい、あっさりとあっけなく終わらせてしまった。クライマックスであるのに、盛り上がりに欠けるかなとか、色々な要素を盛り込み過ぎてしまったのが反省する点ではあります。作画監督を入好さんと新岡さんにお願いするにあたり、テレビシリーズ時、外注プロダクション作業だったおふたりに、東映アニメに詰めてもらってコミュニケーションを常にとりながら仕事出来たのは良い経験でした。

原作をエッセンスとして活かしつつ、入好さんデザインのカロリーヌちゃんのキャラで目新しいアレンジを加え、ねずみ男を主人公に配置して、小芝居など、泣きの部分をこだわれたのが楽しかったです。ずるくて弱くてダメそうな男に、本当は優しくて暖かい心があるのだというところを描けたかなと思っています」

――最後に、芝田さんにとって『80年代ゲゲゲの鬼太郎』とは何だったんでしょうか。

芝田「自分自身のその後に続く、素晴らしいスタッフとの人脈が作れた、土台作りができたというところでも素敵な作品だったと思います。たくさんの才能あふれる人たちから刺激を受けました。

僕にとって鬼太郎という作品は『思い出がたくさん詰まった宝箱』です。その頃の自分が若かったということもあるのですが、それ以上に、やってみたいこと、パッと思いついたことなど、演出の色々な部分での新しいチャレンジを受け入れてくれる作品でした。そして作品の持つ世界観やたくさんの妖怪たちが、とても魅力的で、今見ても楽しい作品です。

放映当時、毎週楽しんでくれていた子供たち、ファンといってくれていた方々、そんな数多くの仲間たちと、今またこうして一緒に懐かしむことができて、とてもうれしく思っています」◆

●夢工場87…1987年7月18日～8月30日に東京・大阪で開催されたフジサンケイグループ主催の一大イベント。中でも妖怪テレビで流れた『フジミテレビ』は、コアな人気を呼んだ。

Staff Long Interview

●キャラクターデザイン／Character Design

兼森義則
YOSHINORI KANEMORI

貸本の頃からゲゲゲの鬼太郎は好きでした だから、一も二もなく「ハイ」ということで（笑）

兼森義則氏が生み出した、新しい鬼太郎のキャラクターデザインは、当時の少年少女たちのハートをがっちりとつかみ、最高視聴率29.6％の快進撃につながった

兼森「貸本の頃からゲゲゲの鬼太郎は好きでした。だから、横山プロデューサーから呼ばれまして、仕事の依頼を受けた時は一も二もなく『ハイ』ということで（笑）。

僕自身、最初のアニメの仕事が第2シリーズ（70's）のオープニング動画だったんです。だから縁も感じたし、好きということもあったし、あぁ、鬼太郎がやれるなって嬉しかったですね」

――キャラクターデザインについて、横山プロデューサーから注文などは？

兼森「特別無かったと思います。忘れているのかもしれませんが（笑）。実際、横山さんという方は、細かいところまであれこれというタイプでは無かったので、そんなに苦労をした覚えはありません。今だったら、もっと悩んだりしたかもしれませんが、当時は若かった…って今と比べてですが（笑）、悩まずやっていたと思います」

――初期には各話、兼森さんが総作画監督として、原画に修正を入れてますね？

兼森「そうですね。ただ、当時の東映アニメには総作監制というのは無く、1つの作品で、約5～6班体制を組んでおり、そのローテーションで一巡すると、徐々に僕の確認作業は無くなっていったんです。それに修正した記憶もあまりありませんね。もし直していたとしても、鬼太郎の顔ぐらいじゃないかなあ？

最近のアニメーションはキャラについてかなりチェックが入りますが、当時はあまり細かくは無いし、僕自身も『絶対にこうじゃなくちゃダメ！』と言って、グリグリと描き直してまで修正するタイプでは無いので（笑）。

ただ僕は20話ぐらいで鬼太郎から離れて、他社の仕事に移ってしまいましたか

【第16話／妖怪のっぺらぼう】

あっ！この顔だ110番

空き巣
宝石泥棒
万引き
ひったくり
犯人

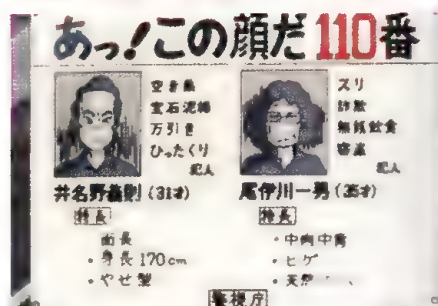
井名野義則（31才）

特長
面長
・身長170cm
・やせ型

スリ
詐欺
無銭飲食
犯人

特長
・中肉中背
・ヒゲ

警視庁

▲なじられた記憶があるという、兼森氏によるスタジオ・バードのゲストキャラ設定。指名手配される稲野義信氏（左）と及川博史氏（右）。これはフィクションです！

二人になじられた覚えはあるんですよね だからまあ、描いたんだろうな（笑）

ら、鬼太郎はあとの二人（稲野義信、及川博史）に任せてしまいました。うち（スタジオ・バード）の二人に任せておけば大丈夫だろうと（笑）。それで当時は…確か二人からは、人非人扱いされたような気もしますが（笑）」

──離れたとはいえ『シーサー』などは描かれていましたよね。

兼森「何話かに渡って出るキャラクターについては、描いてくれと言われていましたから、描きましたね。多分、横山さんか、製作担当の松下健吉さんから電話があったんだと思います。

だけど『地獄編』などは、もう全くノータッチで。『地獄編』のキャラクターはDVDBOX用に去年初めて描いたんです。地獄童子とか、キャラ設定を見て初めて描きました」

──映画「妖怪大戦争」用に鬼太郎のキャラ設定を新たに描きおこしもされましたね？

兼森「劇場版は、動きがテレビシリーズより激しいシーンが多いので、原画マンや動画マンが描きやすいように設定しました。鬼太郎の首や頭身を長く伸ばして、スマートな感じにしましたね」

──その劇場用のスマートな鬼太郎のキャラ設定は、テレビシリーズでも使われて、中盤以降、すっかり定着した印象でしたね。

兼森「あれは劇場用だけだよって描いたんだけどなぁ（笑）。使っちゃいけないよって言った覚えもあります（笑）。

あとキャラ設定表についてですが、妖怪のキャラクター設定については、最初から僕じゃなくて、宮本貞夫さんが描かれていました。メインとゲストキャラが僕、妖怪のキャラが宮本さんと分けていたのは、横山さんや松下さんがご判断されていらっしゃったんだと思います。

ただ、劇場版『妖怪大戦争』の狼男とかフランケン、ドラキュラは描いた覚えがあるんだけど、詳しいことは…忘れちゃいました（笑）。ごめんなさい。僕が離れた以降は、各スタジオの作画監督が、それぞれ妖怪やキャラの設定を作っていたようですね」

──横山プロデューサーの当時の印象は？

兼森「池袋にたくさん飲みに連れて行ってもらいました（笑）。朝まで続くんですよね、横山さんのお酒は」

──16話『妖怪のっぺらぼう』でスタジオ・バードのお二人を指名手配犯シーンでキャラ化したのは？

兼森「前も同じ質問をされたことがあって…実際覚えていないんですよね（笑）。ただ二人になじられた覚えはあるんですよね。だからまあ、描いたんだろうな（笑）」

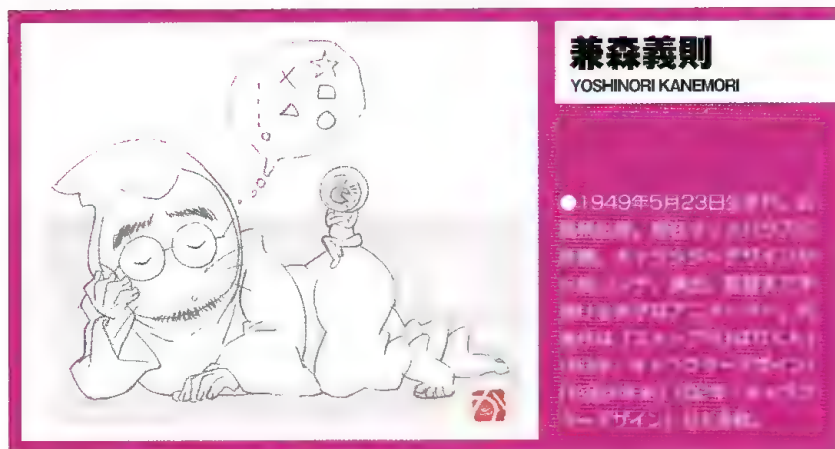
──その復讐かどうかはわかりませんが（笑）、映画『妖怪大戦争』のモブシーンや、90話『妖精ニクスの青い涙』の公園で寝ているオジさんとして、兼森さんが出られてるんですけどご存知ですか？

兼森「本当に？　初めて聞きました。稲野がやったんだろうな～。その回の演出は誰ですか？　芝田さん？　彼はそんな冗談をするタイプじゃないし。稲野に押し切られたんじゃないでしょうか（笑）。今日問いつめてやる（笑）」

──（笑）。そのお互いをキャラ化して作品に出すバトル以外に、当時のスタジオ・バード内でのエピソードは？

兼森「あの頃は、よく映画を観に行ってましたね。これが印象に残るって感じではないんですが、とにかく時間ができると映画。バードの3人ともお酒が大好きってタイプでは無いので、時間ができると飲み、じゃなくて映画を（笑）本当によく観に行ってました。洋画が多かったかなあ」

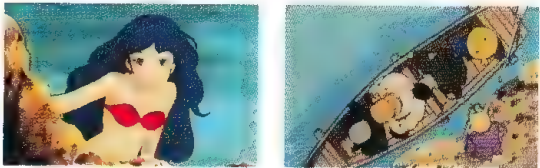
──それでは、話変わりまして、絵を描かれるようになったきっかけというのは？

兼森「幼稚園の頃に親の会社の慰安会に連れて行かれた時に描いた船の絵が、先生に褒められたんです。それ以来、船の絵は好きで描いていました。海も好きだし。釣りも好きだし」

──そうなんですか。兼森さんが作画監督を担当されている回では、海を舞台にしたものが多いと感じていたのですが、あれは自ら望まれたことだったんですか？

兼森「いや～、違いますね。海を描くのは大嫌いです。面倒くさい（笑）。海が舞台なんて大変なことですから。波を全部描かなきゃいけないんですよ。避けて通れるならその方がいい（笑）。それに自分で選んだり、あえて決めたなんてありえない（笑）」

兼森義則
YOSHINORI KANEMORI

●1949年5月23日

●兼森氏の作画監督担当回は『磯女』に『さざえ鬼』と海が舞台の話ばかり。細部に渡る見事な海の描写にてっきりご本人の趣味かと思いきや、偶然の一致だったとは！

――それは偶然でしたか（笑）。ではアニメーターになられたきっかけはなんだったんでしょうか？

兼森「絵を描く事は好きだったので、ずっと船とか飛行機とか描いてましたね。高校生になると、将来はどうしようと漠然と考え始めましたけど、絵で食べていこうなんてことは全然考えてませんでした。子供の時には、『アニメって楽しいし、おもしろいな』とは思ってましたけど、当時の僕の環境（広島県）では、美大とか考えていなかったし、当時の美大にはアニメ科なんてなかったし。とりあえず、東京に出て専門学校に入った。それが今に至っている感じです。

最初、朝日フィルムに入社して、絵を教わりながら仕事をしてました。最初の3カ月は窪詔之さんに教わりました。その後、窪さんが退社してしまい、次に森利夫さんに教わりました。当時、森さんは下駄をはいて会社に来られていたんですけど、鬼太郎ばりにカランコロンと下駄の音がすると動画マンが全員ビビるんですよ（笑）。背筋ピーンとなって。もう怖くて怖くて（笑）。その二人が最初の師匠です」

――それでは鬼太郎に戻りまして、印象に残っている回は？

兼森「やはり劇場版『妖怪大戦争』ですね。自分でびっちりやった作品ですし。キャラの描きかえもやったし。あと当時の仕事は、東映でやっていたんですけど、離れた部屋でポツンとひとりでやっていた記憶があります。孤独だったんですよ、実際（笑）」

――『妖怪大戦争』用のキャラ設定表の中で鬼太郎の指が6本あるものがありますね。

兼森「えっ！（絵を見る）あっ、本当だ（笑）。初めて気がつきました。いや～恥ずかしい。まぁ鬼太郎は妖怪っていうことで、勘弁してもらえますか（笑）。でも、これは恥ずかしいなぁ」

――では、好きなキャラクターは何になりますか？

兼森「ねずみ男ですかね。実際、ねずみ男は自由に動かせるということで好きです。あと目玉おやじですね。『おい！鬼太郎』の声を聞けば、世界観が全て成立しますからね。この二人さえいれば、大丈夫ですから」

――今でも兼森さんキャラデザの鬼太郎は大人気ですが、兼森さんにとっての鬼太郎とは、何なのでしょうか？

兼森「もう一度やってみたい作品ですね。どういう設定になるのかはわかりませんが、また時代にあった物にはなると思います。

こうやって昔を思い出すと、当時は作画監督の自由や個性があって良かったと思います。キャラが毎回微妙に違っていたりして、そのおおらかさがかえって良かったんだと。忙しかったのは事実ですが、やっていて苦にならなかったですから。身内の話でいうと、稲野なんか、キャラ設定を見ないんですから（笑）。あいつは対比表だけ確認して描いちゃう（笑）。ちゃんと見て描けっていつも言ってましたから。でもそれで、作画の個性は際立ちましたしね。

忘れないでいて欲しい 鬼太郎を、死ぬまで 好きでいてください

スケジュールの話をいうと、今の方が凄いタイトですね。発注からギリギリというのもありますし。現像所を通さないっていうのが大きいですよね。今だとPCで本当にギリギリでも直せちゃうということがありますので」

――それでは、ファンにメッセージをお願いします。

兼森「多分、鬼太郎が好きという方は、一生好きなんだと思います。だからこそ、10年に一度のペースでアニメ化されているんでしょう。見ているメインの層は変わっていくんでしょうけど、10年ごとに上積みされていってるんですね。ディズニーなども10年周期でリバイバルされたりしてますよね。だからこそ、みなさん、忘れないでいて欲しい。鬼太郎を、死ぬまで好きでいてください。今また新シリーズが始まっていて、若い人が作る新しい鬼太郎があります。全てを含めて好きでいてくれたら良いと思います」

――最後に、原作はお好きと言われておりましたが、原作の通りの作品ってやってみたいとかありますか？

兼森「機会があったらやってみたいですね。ただあの絵をアニメにするとなったら作画が大変だとは思いますが（笑）」◆

▲兼森氏赤面の指が6本のキャラ設定表。妖怪だから何でもアリ!?

Staff Long Interview

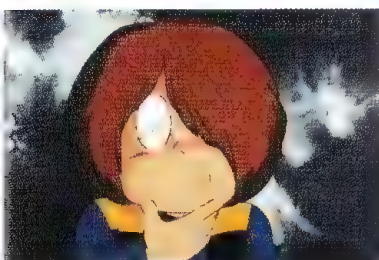
●作画監督／Director of Picture Work

山口泰弘

Yasuhiro Yamaguchi

好きな妖怪はのっぺらぼうかな。顔を描かなくていいから

[第30話／妖怪見上げ入道]

▲劇画調タッチの見上げ入道…怖い！体の輪郭線が太いお遊びの作画も楽しい

鼻ちょうちん出しながら寝てたりするようなのんびりとした鬼太郎が好きだね

飄々とした自然体な雰囲気が、水木しげる先生を思い起こさせる山口泰弘氏。山口氏は、歴代の東映看板作品を支え続けている

山口　「『ゲゲゲの鬼太郎』は、パート2（70's）の時に1本だけ作画に名前が載っているんだけど、本当はやってないの。当時、東映を退社する時だったのね、自分が。それなのにデスクに絵コンテが置いてあって『なんで辞める人間のデスクに、絵コンテが置いてあるんだ』と言ったら『辞めないで描いてよ』とか言われた覚えがあるなぁ。それで作品をたまたま見たら俺の名前があるじゃない！『なんで？』って思ったことがあるよね」

――それでは「鬼太郎」作品の参加は、パート3（80's）からなんですね？

山口　「そう。当時、別の作品をやっていたんだけど、鬼太郎の新シリーズがあるって聞いて、それはおもしろそうだなって思って、自分から売り込みに行ったんですよ。僕はそういうこと、普段は滅多に言わないんだけどね。

それで最初にやったのが5話『ダイヤ妖怪輪入道』の回。あれは演出が葛西治さんなんだけど、しんどかった（笑）。葛西さんはシリーズディレクターだし。演出にこだわりがあってね。作画的に、難易度の高い指示が多くて大変だった（笑）。その次にやったのが16話『妖怪のっぺらぼう』なんだけどこれは楽だったね。だってのっぺらぼうだから、顔を描かなくていいじゃない（笑）」

――山口さんの作画担当の回は絵の細かい部分にいたずらがあって楽しいですね。

山口　「車のナンバープレートに『へ・931』（へ・くさい）とかでしょ？　あれは車を描いたらナンバープレートがあるじゃない。でも、何も描かないって訳にはいかないでしょ？　だから描いてあるの。赤塚不二夫さんの『おそ松くん』のギャグだったと思うんだけど、宝くじかなんかの番号でネタにしていたのを使ったんじゃないかな？」

――当時、『テレビマガジン』（講談社）でも毎月連載を描かれていたと思うんですが。

山口　「うん、描いてたね。テレビの仕事がしんどくなると、こっちの方がいいやとか思ったりしてた（笑）。あれは、描き下ろしで、講談社の人から、こうして下さいみたいなラフ画を毎月もらってね。それを元に描いてたんだ。後半、座円洞の松本くんにも何度か手伝ってもらったりしてね。最後の方は、雑誌に付いている付録とかあるでしょ？　あれまで僕、描かされていた（笑）。テレビの仕事が減ってたからその分なのかなって感じ（笑）」

――一番最初に鬼太郎と出会ったのは、なんだったんですか？

山口　「最初は、マンガの貸本から。現物もどこかに持ってると思う。今あれ、そうとう良い値段がするらしいよ（笑）。アニメに関してはパート1の鬼太郎は見てた。パート2は、実はほとんど見ていないんだよね」

――それではアニメーターになられたきっかけは？

山口　「大学浪人中に、たまたま新聞の求人欄を見たら『アニメーター募集』が目に入って。募集要項に絵を描いて送ってそしたら受かっちゃった（笑）。親は大学はどうするんだって怒ったけど。『大丈夫。2、3カ月働いたら辞めるから』とかいってごまかしたんだけど、いつの間にか今まで働いてるんだよね。なんとなくアニメーターになっちゃったんだ。でも、絵が好きだったからね。僕はアニメというものにはそれほど執着してないんだけど、それは就職の経緯がこんな感じだからなのかもしれないね（笑）」

――やっぱり昔から、絵は描かれていたんですか？

山口　「中学の時に、1週間だけ美術部には入っていただけ。でも、マンガは描いていたな。出版社に送ったりしてた。当時好きだったのは白土三平。劇画が好きだったんだよね。アニメーターになってからも好きで、よく模写したりしてた」

――そういえば30話『妖怪見上げ入道』の時に、劇画調な線の太い見上げ入道が出てきましたね。

山口　「そう。たまにやるの僕は。なんか

山口泰弘
YASUHIRO YAMAGUCHI

忙しかったりすると逆にやりたくなっちゃうんだよね。映画『最強妖怪軍団！日本上陸!!』の妖怪チーとか、カットによっては原作にないぐらいに劇画調に描いたんだけど、その時も同じ。忙しいからこそ、細かいところまで描いて、刺激を作りたくなるんだろうね。でも体力が無いから、途中で息切れしちゃうの（笑）。後はなんとか仕上げようって事ばっかり考えてた。このまま自分のペースで描き込み続けると終わらないなと思って。でも、鬼太郎に関しては、あまり苦しいっていうことは無かったな」

――山口さんの描かれる鬼太郎は初期の兼森さんのキャラ設定に忠実な作画でしたね。ご自身こだわって描いてらしたんですか？

山口「あの頃、『テレビマガジン』を描いているうちに、顔を大きく描く癖がついちゃったんだね。あと当時、自分自身が太っていたのがあって、丸く描いちゃうようになってたんだ。それで丸く可愛く描いちゃうんだよ。だから他の人の回を見ていると『なんだかやせていてカッコいいな』とか思ったりしてた。でも、丸いのも可愛くていいでしょ？」

――（笑）可愛いです。じゃあ他の人の回もチェックされていたんですね？

山口「うん。みんな上手いなとか思ってた。清山滋崇さんが作画の回で恐竜が出たりするでしょ？（17話『古代妖怪・毛羽毛現）恐竜なんか描いて大変だなって思って（笑）。僕はのっぺらぼうで良かったとか思ったよ（笑）」

――それでは、好きな妖怪や印象に残っている回などお聞かせください。

山口「好きな妖怪は…やっぱりのっぺらぼうかな。顔を描かなくていいから（笑）。だって妖怪ってオッサンが多いでしょ？ヒゲがはえていたりして、大変なんだよ。オッサン描くの。同じ妖怪でも、ネコ娘とかなら許してあげてもいいけど（笑）」

――じゃあ人間のユメコちゃんは描きやすかったですか？

山口「ユメコちゃんはずいぶん描いたな。だけど似づらいんだよね、ユメコちゃん（笑）。自分の絵や、線の個性が出ちゃって難しかったなぁ。彼女で印象に残っているのは、映画3作目だったと思うんだけど、ユメコちゃんが浴衣を脱ぐシーンがあって、それを見たねずみ男が鼻血をブーっと出して（笑）。初号試写の時に、スタッフ全員が大爆笑（笑）。原画の人が遊びでやったシーンなんだけど、そこを監督の芹川さんがあえて修正しないで残したんだよね。だから良かった。ああいうとこを切っちゃうと面白く無いんだよ。

他にも、16話で指名手配犯にスタジオ・バードの稲野義信、及川博史が出てくるとか。しかもあれは兼森さんのキャラ表に既にあったんだよ。彼（兼森氏）は僕に似たキャラも描いていたような気がするなぁ（笑）。でも、いいじゃない！鬼太郎の場合、やられそうになって、溶けちゃったりしても、最終的にはどうにか助かるんだから（笑）」

――他に当時のエピソードがあったら教えていただければと思うんですが。

山口「よく横山プロデューサーにお酒をごちそうになったなぁって（笑）。打ち合わせ行くじゃない？　でもなぜか場所が居酒屋だったりするんだよ。それで朝までずっと付き合わされたりして。しかも途中から人格が変わる。帰ろうとすると機嫌は悪くなる（笑）。いつも新宿で飲んで、最後は池袋まで行く。『家に泊まれ！』っていうんだけど、朝になると『お前なんでここにいるんだ』なんて言われた人がいるらしいよ（笑）。

あの当時は本当にごちそうになっていたな。我々の仕事っていうのは、切れ目なくスタジオに籠って描き続けているんだよね。だから刺激が無い。だからこそ、横山プロデューサーにごちそうになったりして、飲みに連れて行ってもらったりすると、本当に楽しいんだよね。うん、やっぱり、鬼太郎は楽しかった思い出ばかりだよね」

80'sはターニングポイントだったんじゃないかな？とても楽しくやっていたね

――あの時代を振り返ると、山口さんにとって80'年代鬼太郎とはどんな作品だったんでしょうか？

山口「ターニングポイントだったんじゃないかな？　とても楽しくやっていた。だけど楽しくやりすぎて、楽をしちゃっていたかもしれない。

途中、僕は鬼太郎から離されそうになったことがあったんだよ。だけど自分で続けたいって言ったんだよね。それで続けていたな。101話『妖怪捕物帖　猫騒動』で離れるんだけど、あれも別の作品をやらなければならなかったからなんだよね。でもあの回は設定とか色々と調べたね。時代劇なんで時代考証とか、小道具とか色々と。演出の明比さんが凝ってやっていたっけなあ。

やはり仕事で見ても、お酒をごちそうになっていたっていうことを思っても、僕自身のポイントになったと思う作品だね、鬼太郎っていうのは」

――それでは鬼太郎ファンにひと言お願いします。

山口「僕は鬼太郎っていうのは、すっとぼけたのが好きなんだね。今また新しいシリーズが始まっているけど、カッコいい鬼太郎を期待しているでしょ、みんなは？　それはそれで良いと思うけど、僕はボーッとした感じが好きだな。鼻ちょうちん出しながら寝ていたりするような、のんびりとした鬼太郎。ファンから見ると楽しい妖怪たちも、作画的に見ると大変っていうのがあったり。今なんか、僕がやっていた当時よりも設定が細かくて大変だなって思ったりするよね。でも、鬼太郎ってなんでもありだったりするから、それが良いのかもしれない。色々な解釈があるからいいんじゃないかな。

そういえば、当時女の子から可愛いファンレターとか届いたりしてたんだよ。へぇ〜こんなファンもいるんだなって思った覚えがあるね。最近、お酒を飲んだりしている時にでも、色んな年齢の人が『鬼太郎のファンだったんですよ』って言われたりして。やはり続いているからなんだよね。

うちの会社とか、アニメーターになった人にも、影響を受けたって人がたくさんいるよ。あのエンディングの『わっ！』って妖怪が飛び出すのが怖かったとか。

本当に、たくさんのファンがいる作品なんだなって思うよね」◆

【第16話／妖怪のっぺらぼう】

▲▼山口氏にこよなく愛された妖怪のっぺらぼう！

▲これぞナンバープレート「へ・931」！

●作画監督／Director of Picture Work

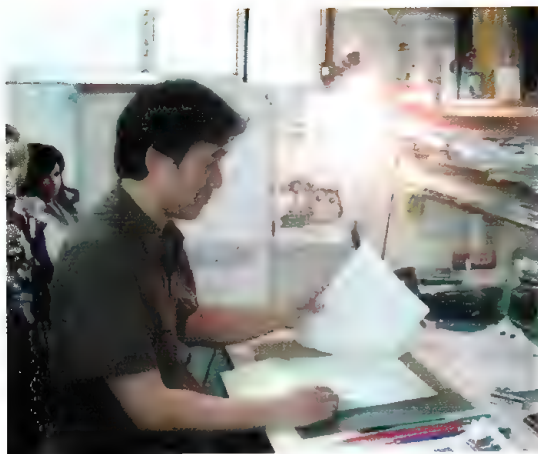
松本朋之

Tomoyuki Matsumoto

48話『妖怪いやみ』を久々に見ましたが…
あれは今見ても面白いですね

描きおろしIllust●松本朋之

土を喰らう」など良質な自主アニメの制作でも知られるスタジオ座円洞。'80鬼太郎制作班の中でも最多の担当話数をこなした松本朋之氏は、高クオリティなアクション作画で「闘う鬼太郎」を前面に打ち出した

松本「子供の頃から絵を描くのは好きでした。マンガも好きだし、アニメも好きでしたね。僕の学生の頃というのは、アニメが世間に認知され始めた時期だったんですね。『宇宙戦艦ヤマト』を始めとする松本零士作品はもちろん、『機動戦士ガンダム』なんかも見ていました。マンガ家にも憧れたんですけど、僕はストーリーを考えるのが難しくて（笑）」

●動画チェック中の松本氏。
今回の取材用に特別に、放映当時に描かれていた'80鬼太郎の秘蔵イラストやラフ画、スケッチの数々をご提供いただきました。

——アニメーターになるまでにはどんな経緯だったんでしょうか？

松本「工業高校時代から在学中もずっと絵ばっかり描いていて、アニメをやるんだ！って覚悟を決めて、大阪にある『大阪デザイナー専門学校』に進みました。あまり当時はアニメに関する学校って無かったので、選択肢としてはそのぐらいしかなかったんですよ。それで、二年目の夏休みに上京して、アニメスタジオを何件か訪ねあるいて『スタジオ座円洞』を訪問した際、座円洞の社長・向中野義雄さんにスカウトされたんです。座円洞での初仕事は『忍者ハットリくん』の動画でしたね」

——松本さんの鬼太郎体験というのは、どんな形だったのでしょうか？

松本「初めて見たということでいえば、やはり1、2期のアニメということになります。当時は、姉がマンガをよく買っていたので、それも読んでいた覚えはあります」

——それでは、鬼太郎に参加された経緯をお願いします。

松本「当時は東映作品の『Drスランプアラレちゃん』で作画監督をしていたんです。それが作画監督としては初めての作品ですね。その頃に確か一回だけという話で、22話の『いじわる妖怪天邪鬼』を担当しました。結局そのままローテーションに入りしちゃいましたね。あ、実は僕、映画2作目の『妖怪大戦争』でも原画を描いているんですよ。クレジットに名前は入っていないんですが」

——『妖怪大戦争』に参加されてたんですか！　担当パートなどは覚えていらっしゃいますか？

松本「ねずみ男がスープ作ってる所とか…あと、ねずみ男が金塊を洞窟で見つけた所かな？」

——ねずみ男ばっかりですね（笑）。

松本「葛西さんに呼ばれてね、ニコニコしながら「やんない？」って言われて参加した覚えがありますよ（笑）。で、正式に鬼太郎に参加する事が決まった時には、原作の鬼太郎を全て揃えました。貸本の復刻版から『少年マガジン』版、『週刊実話』の大人の鬼太郎編も全てですね。僕は、作画で参加する作品に、原作がある場合は、必ず原作を揃える事に決めているんです。

キャラクターデザインが、スタジオ・バードの兼森さんだと聞いて実は凄く嬉しかったんですよ。兼森さんは、高校時代に一連の松本零士作品を観た時から憧れの人だったんです。アニメーターになる前から僕はスタジオ・バードの兼森さんや稲野さんの絵が大好きでしたから。その頃の座円洞に所属していた磯光雄君も、稲野さんのことがすごい好きだったんで、いろいろ影響を受けていたみたいですね」

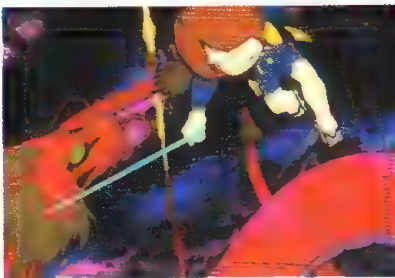
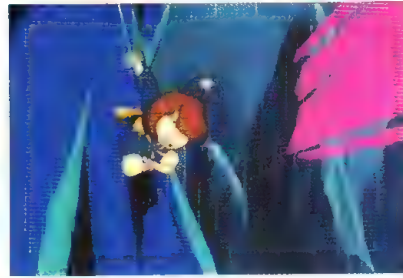
——松本さん自身、他の方が作画監督を

松本朋之
TOMOYUKI MATSUMOTO

●1961年5月16日生まれ。山口県出身。代表作は『Drスランプアラレちゃん』（84年／作画監督）『クレヨンしんちゃん』（98年／作画監督）座円洞の自主制作アニメ『土を喰らう』（00年／キャラクターデザイン）など多数に及ぶ。

キャラクターデザインが兼森さんだと聞いて実は凄く嬉しかったんですよ

[第72話／ケ・け・毛！妖怪大髪様]

[第79話／妖怪やまたのおろち]

[第85話／河童一族とたくろう火]

▲左から72話『ケ・け・毛！妖怪大髪様』／79話『妖怪やまたのおろち』／85話『河童一族とたくろう火』。松本氏の描く躍動感あふれる鬼太郎が画面狭しと大暴れ！

した鬼太郎をご覧になったりしました?

松本「テレビのＯＡは毎週見てましたね。ただ自分の回はあまり見たくないです(笑)。初号試写というのがあるんですが、ダメな部分しか見えてこないんですね。それと、東映から呼び出されるって聞くと『どこがダメだったんだろうなぁ』とブルーになるんです(笑)。なんでもそうだと思うんですが、良い時って呼ばれませんよね(笑)。

あの頃の鬼太郎というと、僕も含めて、原画マンとか若い人が多かったんです。まだ経験などが無かった人間が、テクニックを研究しながら実践して、上達していった感じだったんですね。

鬼太郎は、各話ごとに作画が違っていたんですが、当時の東映作品というのは、今と違ってレイアウトと原画を直接描いて、演出に出すという順番だったんですね。それで最後作画監督のところにいくという形をとっていたんです。だから、なおさらそれぞれの原画マンの動きやタイミング、カメラワークといった癖が出やすかったんだと思います。その頃は僕も毎回50、60カット描いていました」

――担当するカットはどうやって決めていたんですか?

松本「確かアミダくじで」

――アミダですか!?

松本「アミダです(笑)。座円洞内で、毎月アミダ。基本的に彼はこれが得意だろうとか、そういうことはあんまり考えないで決めていましたね。だから、不得意なカットでもやる必要があったんで、とても勉強になりましたよ」

――一作品にかかる日数はどのぐらいなんですか?

松本「動画込みで、だいたいひと月とちょっと。うち(座円洞)はわりとスケジュールを守る会社なんですよ。社長はひと月であげろといいますが、それだとちょっと辛いかもしれない(笑)。

動画で書くセルの枚数も上限があるので、少ない動画の枚数でいかに見せるかというのにこだわってやってました。当時座円洞で一緒にやっていた妖怪絵の得意な山崎君や、絵がかわいい鈴木君ともそういうこだわりで、競いあってやってたので、とても刺激にもなりましたし、技術がとても身につきましたね。

絵を描かない演出家の方もいらしたので、絵コンテも担当回によっては座円洞で清書したりしていたんです」

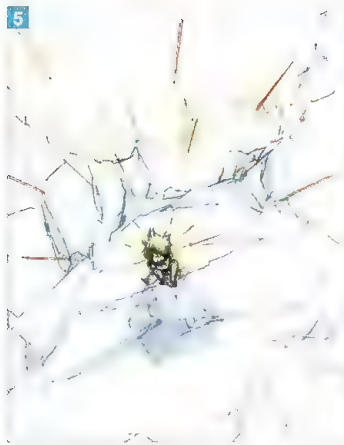
――演出家のお話しもお聞きしたいのですが、既にお亡くなりになっていらっしゃる石田昌久さんは、松本さんとよく組まれていた印象があるんですが、どんな思い出がありますでしょうか?

松本「石田さんは、わりと座円洞のことを買ってくれていたんじゃないでしょうか。たまに飲みに呼ばれたりもしてました。鬼太郎を終わった後も、座円洞とは仕事をしてたりしていましたね。アクションシーンも原画マンに自由にやらしてもらったので、細かい打ち合わせをしなかったと思います。当時のことなので忘れてしまったりしているんですが、絵コンテには指示があったものを、こっちが自由奔放にやらしていただいたんだと思います。自由奔放という言葉でいうと、鬼太郎は楽しくやっていた覚えがありますね。最後の方がスケジュールがきついように見えるんですが、描けば描く程、自分の思い通りに動かせるようになっていったので、本当に楽しくやっていましたね」

――最初の頃は、濃い影を多様していましたよね?

松本「鬼太郎なので、やはりその世界観を出したいと考えていたんじゃないでしょうか。それと、当時のアニメのトレンドだったんだと思います。この頃から凝った影を入れて作るのが出てきたんです。

それと、演出を担当される方によっても、影を入れたり入れなかったりしましたね。石田さんは、影が嫌いであまり入

1＝躍動感あふれるシーサー。
2＝仲睦まじい鬼太郎とシーサー。
3＝ねずみ男と骨女のかけあいが絶妙だった松本作画を思わせる一枚。

4=61話『まぼろしの汽車』イラスト
5=ダイナミックな構図のレイアウト

たくろう火のアクションシーンは今思い出しても「上手くいったな」って（笑）

れてないと思います。理由はわからないのですが、あまり入れたがらないタイプでした。技術的な話をすると、影っていうのは下手な絵でも上手に見えたりするんですね。それがイヤだったのかなぁ？　その辺についての話はしたことがないので、今となってはわからないですね。逆に芹川さんは入れていく。芹川さんは『いかに止め絵で格好良く見せるか』というこだわりを持った方だったので、影を多く入れて止め絵に雰囲気を持たせたりしましたね」

――当時の苦労話などはありますでしょうか？　アクションシーンとか。

松本「特に鬼太郎については無いですね。アクションシーンなんかも描いていると楽しいんですよ、どちらかというと（笑）。あまり苦痛だったという記憶が無いんです。むしろ、座円洞の中で仲間と競い合って原画を描いたり、こっちで色々と研究していたテクニックをそのまま作画に使う事が出来たので、充実してました。そういった動きの部分でいえば、『たくろう火』のアクションシーンは、今思いだしても『うまくいったな』って（笑）。あれは、まず先にキャラの動きを描いて、その後に背景を描いていくという、いわばレイアウト無視の手法なんですね。だけど、全体としての流れやテンポ、カメラワーク的には面白いものに仕上がりました」

――作画といえば、放映当時、61話「まぼろしの汽車」、62話「妖怪火車　逆モチ殺し!!」と2回連続で作画監督をされていた回がありましたよね？

松本「ありました、ありました（笑）。普通は、いくつかのスタジオローテーションを組んでやるから、6～7話ごとなんですけどね。あれは…どこかのスタジオがやるはずだったのが流れちゃったみたいですね。急遽葛西さんに呼ばれて東映に行ったら、また葛西さんがニコニコ笑いながら『やらない？』って言って、やる事になったんですよ（笑）。しかもその話が来た時に書いていたのが、妖怪火車だったんです（笑）。なのに、後から取り掛かったはずのまぼろしの汽車が先に放映されたんですよね（笑）。だから東映サイドに、作画のストックが結構あったのかもしれませんね。今見比べてみると、後に書いたまぼろしの汽車の回の方が、火車に比べてよくできていますよね」

――そうだったんですか！　描いた順と放映順が逆になるなんて事があるんですね。他にも、鬼太郎には最終回候補がいくつか存在したという噂があるんですが。

松本「そうですね。あれは制作の問題だったんじゃないでしょうか？　詳しい経緯とかは聞かされていません。とりあえず、最終回の予定なんだと聞かされて僕がやったのは、102話『おてんば魔女ジニヤー』ですね　この時キャラデザインをしたジニヤーは、原作から思いきりデザインを変えて、アラビアの神秘的な雰囲気が出るように書いたんですけど、それが一発でOKを貰えたのが嬉しかったですね。葛西さんにも『僕のイメージにピッタリだよ！』って言ってもらえましたから（笑）。61話『まぼろしの汽車』の時に描いたモンローなんかは、何回もリテイクを繰り返しましたからね。『もっと髪の毛をふわふわにして、色気を出してほしい』っていわれまして、それで写真集買ってきて、それを見ながら描き直した覚えがあります」

――キャラクターデザインというと、62話『妖怪火車　逆モチ殺し』に出て来たヤクザなんかも面白かったですね。

松本「あれは明比さんから『東映の俳優をキャラクターにしてくれ』って指示が入りまして。成田三樹夫とか、高倉健とか菅原文太とか（笑）。子供にわかるのかなとか言いながら（笑）。この回は絵コンテの清書も座円洞のメンバーでやっていて、清書しているうちに徹夜して朝になっちゃって『朝日がきれいだな』って言

鬼太郎という作品に関われたことは財産です 大変にラッキーだったと思っています

っていた覚えがあります（笑）。そのせいか、この回はテンションが変ですね（笑）」

――当時は徹夜の作業も多かったんですか？

松本「僕は基本的にしません。座円洞が徹夜をしないということになってますから。異例の事態だったから記憶にあるんでしょうね（笑）」

――他に、印象に残っている回はありますでしょうか？

松本「88話『不思議な妖犬タロー』ですね。原作読んで『当たらなければ良いな』って思ってたら、当たっちゃった。犬とか動物の動きって描くの大変なんですよ（笑）。

あと、ユメコちゃんなんかも、ウチでは79話『妖怪やまたのおろち』以降から特に目をキラキラさせていたんですよね。それで確か地獄編1話の初号試写の時に、入好さんと新岡さんがいらしてて、『わ！ユメコの目がキラキラしてる！』ってお二人してのけぞっていらしたのを覚えてます（笑）。

色々思い出しても、やはり印象的なのは初めてやった22話『いじわる妖怪天邪鬼』かな。やはり最初だったし、緊張したし。でも評判がよくてホッとしました。

あと、今回の描きおろし用に48話『妖怪いやみ』を久々に見ましたが…あれは今見ても面白いですね（笑）」

――それでは今なお鬼太郎を好きでいるファンの方々へ、メッセージをお願いします。

松本「当時、ファンレターをもらって、『アニメ描いていて、ファンレターをもらったよ！』みたいな感じで凄く感動した覚えがあります。色々な思い出が残っていますね。今でも時々『あの時の鬼太郎は良かったですよ。見てましたよ』とお声をかけて頂くこともあって、とても嬉しく思います。

振り返って作品を見ると、作画的には、アクションとか、作品の中で上手くいったのは自分の中では10%ぐらいだと思うんですが、本当に熱が入っていたなと。鬼太郎という作品に関われたことは財産です。大変にラッキーだったと思っています」◆

6＝家鳴りとユメコちゃんという謎のコラボレーション
7＝お遊びの一枚　当時のおおらかさがうかがえる楽しいラフ画
8＝家鳴りと鬼太郎のアクションが見事な一枚。家鳴りが好き？

●作画監督／Director of Picture Work

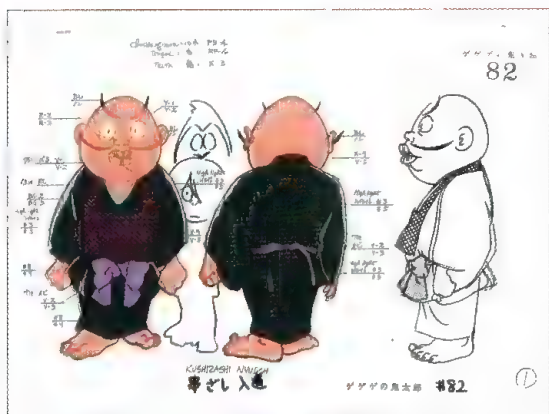
稲野義信

好きでしたね。
動きとかタイミングを
どういう風に
見せるかということが

現在はCGアニメーション分野で活躍中の稲野義信氏。流動的な動きとポージングで80'sの中でも独特の存在感を放った

――まずは稲野さんがアニメ業界に入った経緯をお聞かせください。

稲野「アニメをやるきっかけは…親父なんですよ。中学1年の時は、マンガを描いていたんです。ケント紙とか買ってきて。だけど、ストーリーが作れなくて（笑）。そんな頃に、父親の知人が、アニメの動画とセル画をおみやげに持って来てくれて、見せてくれたんですよ。それで、これはナンだ！って。調べてみるとアニメーションなんだこれはって。それで、絵が描けて生活ができるなら、これがいいやってなったんです。

それから高校生ぐらいに、当時の東映が作っていたアニメの教則本を取り寄せて、それでせっせと勉強しまして。その後、『東京デザイナー学院』に入りました。そこでは似顔絵描きとかバイトをし過ぎまして、卒業制作ができなくて卒業させてもらえなかったんです（笑）。そして、『朝日フィルム』に入社するんですが、その時の先輩が兼森義則さんと、及川博史さんだったんです」

▲『妖怪串刺し入道』の色見本セル画。細部まで設定がされている

――そして兼森さんを中心に、後に作画スタジオ『スタジオ・バード』（兼森義則、及川博史、稲野義信）が設立される訳ですね。

稲野「ええと、時期的には『洋燈社』に移って『勇者ライディーン』の動画をやっていたくらいの時ですね。そうそう、スタジオ・バードの名前の由来は、確かその時やってたライディーンに『ゴッドバード』って出てくるんですが、そこから取ったんですよ」

――アニメの絵を作る上で、影響を受けた方などはいましたか？

稲野「絵についていうと、タツノコプロの三羽烏といわれていた須田正己さん、二宮常雄さん、湖川友謙さんという今でもご活躍のアニメーターの方がいらして、その3人の原画を集めて、一所懸命模写して勉強していました。特に須田さんの絵には影響を受けました。動きとか、流れるような線の引き方とかですね。当時の原画は今でも、家のどこかに大事にしまってあります（笑）」

――稲野さんというと『鬼太郎』でもよく動きがクローズアップされますが、当時から動きに重点を置いて作画されてましたね。

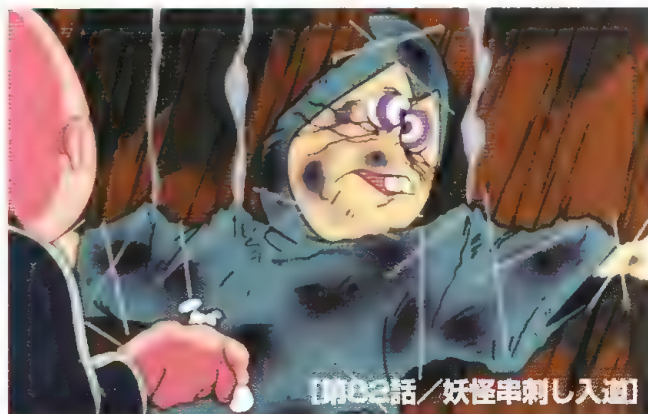
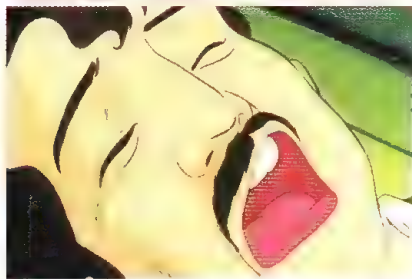
稲野「好きでしたね。動きとかタイミングをどういう風に見せるかということが。ただ、兼森さんには『お前、ちゃんとキャラクターをよく見て描け！』って怒られてました（笑）。お前の絵は似てないって（笑）。本来的な意味では、僕は作画監督はできないタイプなんです。理由はキャラクターがコロコロと気分で変わってしまう人間なので（笑）。兼森さんが苦労していたようです（笑）。

よく見て勉強していたのは、ディズニーなどで活躍していたドン・ブルースです。メリハリのついた動きをさせる人なんです。あの人の動きを見て、気絶するシーンなどで、目が広がるシーンとか、『あっ、これおもしろい』って真似したりしてました。当時はビデオが無かったので、作品の記憶を元に『こんな感じかな』って描いたり、あと当時はアニメが8ミリフィルムの形で売られていたんですよ。1枚1枚トレースしたりしましたね。自作のトレース台を使って描き写していたんですけど、当時の8ミリフィルムは、熱を持つと燃えちゃったりするんで、注意しながら（笑）。それで、『ディズニーっていうのは、こうやって動物を動かしてるんだ』って確認してました」

――あと、稲野さんというとモブシーンを得意とする印象がありますが。

稲野「アニメ業界って、一度やってしまうと『あいつが得意らしい』ってことになってやらされるんです（笑）。そうやってお声かけしてもらえると『そんなにい

▼ドン・ブルースを彷彿とさせるねずみ男の気絶シーン！▲更に一反もめんも痙攣！

稲野さんの画は、手を見るとすぐにわかりますって言われるんです（笑）

われるならやっちゃえ！』って思って、徹底的にやっちゃうんですよ」

——90話『妖精ニクスの青い涙』の公園でのモブシーンなど、まさに徹底的でしたね。

稲野「今回久しぶりに見直したら、我ながらやり過ぎでしたね。枚数もかなり割いてますし、モブシーンには兼森さんを出したり（笑）。まああれは先に兼森さんがやってますので、復讐ってことで（笑）。この本の取材がきっかけで兼森さんにバレちゃったみたいですけど（笑）。67話『密林の大海獣』でも、冒頭の会議シーンで演出の西沢さんを出したり、ちょこちょことやってます。教授の中の一人が実は西沢さんなんですよ。忙しい中でもお遊びを忘れないってことで」

——（笑）。それでは、当時の鬼太郎のお話などお聞かせ下さい。兼森さんから作画監督を引き継いだのは38話『タタリだ～!?妖怪土ころび』からですね。

稲野「そうですね。正式に『稲野、今後はお前に任せたから、よろしく頼むぞ』みたいな感じで引き継いだのでは無かったと思うけど…。その頃は及川さんと半パートぐらいずつやっていました。82話『妖怪串刺し入道』は完全に1人ですね。兼森さんから『お前、これ1人でやったら』っていわれてやったというような記憶があります（笑）。

過去のシリーズのドロドロした感じとは違うというのは意識してましたね、ヒロイン役にユメコちゃんとか出ていたり。他にも、とにかく面白ければいいなって感じでお遊びを入れたりしてましたね。ただ、今見直してみると、やり過ぎた感もあるような…（笑）。ハチャメチャやってますよね（笑）。今振り返ると恥ずかしい。クセを思いっきり出してますよね」

——映画3作目『最強妖怪軍団！日本上陸!!』ラスト、盆踊りのシーンでも異彩を放っていましたね。参加された経緯は？

稲野「なんで参加したんでしょう…多分、この映画の助監督が芝田さんだったので、僕のところに直で発注が来たのかもしれませんね。多分、僕だと思うんですが、記憶が無くて（笑）。でも見てみると、やっぱり僕が描いているっぽいですね。確かに、あのシーンだけは異質だなぁって感じます（笑）。盆踊りの演出の仕方は、監督をやっていらした芹川有吾さんの演出の仕方とは明らかに違いますし（笑）」

——（笑）。でも、あの手の動きは稲野さんだとわかりますよ。

稲野「僕の絵って、『稲野さんの回は、手を見るとすぐにわかります』って沢山の人に言われるんです（笑）」

——手首の返しも独特なんですが、あれはどうやって思いついたんでしょうか？

稲野「あれはひもの動きを意識しているんです。柔らかさを出すためですね。ムチとかと同じようにしなやかに動かすためなんですよ」

——ほかにご覧になっただけで、ご自身の作画だとわかった理由は？

稲野「子供の動かし方を見るとわかるんです。『あ、俺だ！』って（笑）」

——芹川さんというと、『串刺し～』でご一緒に仕事をされてますが、あの串のやたらと光っている描写というのは、稲野さんの作画指示なんでしょうか？

稲野「いや、あれは芹川さんが特殊効果として、撮影指定を入れているんだと思います。あの回は先ほどもお話しした通り、原画も1人でやっていたので、芹川さんが気を使ってレイアウトや、動きの取りやすい絵コンテを切ってくれていた記憶があります。でも、自分の作画を今見てみると、目の動きとか『まずいなぁ』って（笑）。つながりや動物の動きとか、かたっぱしから修正したいって思いますよ（笑）」

——では印象に残っているキャラクターは？

稲野「一反もめんやぬりかべ、子泣きじじいが感情を入れやすくて好きです。でも、苦手な方が印象に残りますよね。大海獣とか。あれは全身が毛ですからね。ディテールが細かくて、今見ても、『大変なことやってるなぁ』って思っちゃいますね（笑）。もうひとり、ユメコちゃんも印象に残ってます。彼女は頭身をとらえるのがすごくむずかしいんですよ。苦労しました。僕のユメコちゃんはコロコロ変わってたでしょ？　そういう理由だったんです（笑）」

——それでは、稲野さんにとって、80年代鬼太郎とはなんだったのでしょうか？

稲野「あの当時は、描くことが楽しくて楽しくて、実はほとんど覚えてないんです。本当にノっている時期だったんです。それに夏は海、冬はスキーと週末ごとに遊びに行ってました。『スケジュールなん

【第90話／妖精ニクスの青い涙】

▲公園で寝ている兼森氏!?16話での復讐か！

▲子供の流れる様な走り！

●ニューギニア調査隊に加わった鬼太郎は、大学院生山田の謀略で大海獣の血液を注射され、大海獣へと変わり果てる。前後編で作られた一大スペクタクル！西沢氏や及川氏もどこかに出演中！

て関係ないや』ぐらいの勢いで（笑）。当時は、そういう人が多かったんですよ。

鬼太郎に話を戻すと、その前に参加した『1000年女王』とか『銀河鉄道999』とかで培っていったノウハウが、『鬼太郎』で爆発したという感じです。ハイカラな鬼太郎、自由奔放な鬼太郎をやれてすごく楽しかったです。あの当時、鬼太郎の作画をする際、僕は後半になるに従って一発描きに近い描き方をしているんです。まず動きの「うねり」を描いて、そこに直接キャラを一発で描いて乗せていくといった様な。好きにやらせてもらいましたね。好きにやり過ぎた部分も無きにしもあらずとは思いますが（笑）。

ただ、僕自身の話をすると、この後を境にアニメーターとしてのテンションが落ちてった時期でもありました。そんな時にCGグラフィックをやっている方にお会いしまして、簡単なのを作ったんです。それが現在の自分につながっていますね。本音を言えば、動きやタイミングの作画研究を積み重ねて現在のアニメの土壌を培ってくれた先人方に、どんどんCG分野に来てほしい。

スタジオバードでは、3人で海外の映画を見たりして研究していました。動きとかタイミングというのは、肉体に、まず準備があり、そして動いていく。動かさずに動いている様に見せるにはどうすれば良いか、止め絵なんだけど動いている様に見せるためのポージングとは、なんていう研究を、本当に楽しんでやっていたんです」

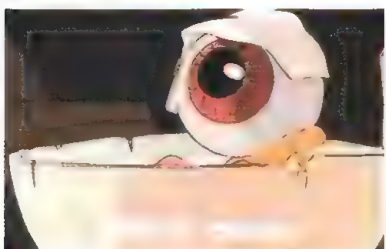
――動きやタイミングといえば、『鬼太郎』のオープニングでの鬼太郎が寝ているカットから目玉おやじへの回り込むカメラワークのテンポが絶妙ですね。

稲野「あれは…実は鬼太郎の寝ている葉っぱをカット割に合わせて描くのがイヤだったんですよ（笑）。夜にひとりでやっていて、『もうイヤだ！ じゃあ回り込んじゃえ！』って感じです（笑）。本質は面倒くさがり屋なんです。それが色々な方に印象に残っているんだとしたら…みなさんも無精すれば良いのにってことでしょうか（笑）」

――他にOPやEDで描かれたカットは覚えてますか？ シリーズ後半のアイキャッチも稲野さんですよね。

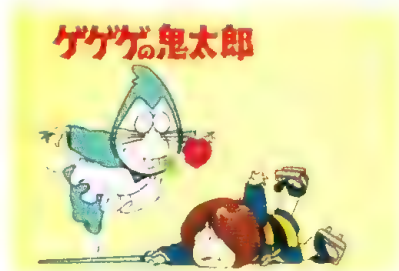
稲野「後半からのアイキャッチは僕ですね。OPはラストシーンの戦闘シーンとか。EDは…まくらがえしとか描いた記憶があります」

――最後に質問がありまして、当時放映されていた『マルハの鬼太郎ソーセージ』CMを覚えてらっしゃいますか？ 多分、稲野さんの作画だと思うんですが？

稲野「そのCM、今回送ってもらって見たんですが、僕自身には記憶が無くて…。だから兼森さんにも見てもらったんですよ。そしたら『これはお前の絵だ』って言われたんですが…。確かにレイアウトの取り方とか、鬼太郎の頭の形とか、僕だなァって思うんですが…すいません！ 僕自身の記憶がありませんので、確信はもてません。ごめんなさい。これで許してくれませんでしょうか（笑）」◆

▲80's鬼太郎オープニング（作画監督／兼森義則）。稲野氏による原画での見事な回り込みの秘訣は葉っぱを描くのが面倒だったから!?

▲稲野氏作画か否か!?謎を呼んだマルハの鬼太郎ソーセージCM

実は鬼太郎の寝ている葉っぱをカット割に合わせて描くのがイヤだったんです（笑）

[第73話～第108話／アイキャッチ]

▲73話からの稲野氏作画によるアイキャッチ　デフォルメがとても可愛らしい

[第103話／純愛ヌリカベとおしろい娘]

アニメ業界屈指のプロフェッショナル・入好さとると新岡浩美夫妻。鬼太郎シリーズに参加した経緯から語ってもらった

入好「その頃に所属していた『スタジオジャイアンツ』で、東映アニメから鬼太郎の新シリーズをやらないかって打診があったんです。それで、『鬼太郎か。子供の頃見てたなあ。面白そうだな』って当時のスタッフで盛り上がったんですよ。それで後日、スタッフの顔合わせでジャイアンツのみんなで行ったんですよ。そうしたら、横山プロデューサーが第一声に『まず今回の鬼太郎は近未来の設定。そして怪奇な表現を抑えた明るいファミリー路線で行きます』って言うんですよ！『はぁ？　近未来？　何言ってるんだ？』って。『近未来ってエアカーでも出すの？　鬼太郎に』って（笑）。僕らの世代からしたら、怪奇を抑えた明るい鬼太郎なんて『ハァ!?』って感じでしたね。」

新岡「帰りがけにみんなでもう悪口ばっかり（笑）」

入好「でも、いざ始まってみると、近未来の設定は無くなっていてホッとしました（笑）。それに、後のヒットによってファミリー路線を目指したプロデューサーの先見の明が証明されましたね」

――何はともあれ、現在の形で鬼太郎がスタートする訳ですね。最初に入好さんが参加されたのは、2話『鏡じじい』の原画ですね？

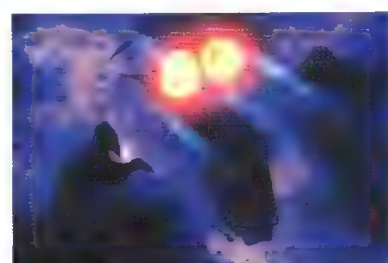
入好「実は、最初にやったのは、1話『謎の妖怪城出現!!』の原画なんです。クレジットには入っていないんですけど。鬼太郎がスタートして手が足りないってことで、ジャイアンツで手伝ったんです。Bパート後半の妖怪城の中から子供が助かったシーン辺りを描いてると思います」

――それでは、シリーズに本格的に参加してからのエピソードはありますか？

入好「絵に関しては、兼森義則さんが抜群に上手だったです。『スタジオバード』の3人（兼森義則、及川博史、稲野義信）はすごい技術だったんですよ。よくどうやるのかなって真似したりしました」

新岡「稲野さんの原画は、中割が均等でも（普通は前後に絵をつめる）そう見えない原画になっているんです。おそらく、構図とタイムシートにポイントがあった

▲漫画家・寿限無（新岡氏のPN）ワールド全開の傑作は新岡浩美氏の初作画監督回である

「鬼太郎か。子供の頃見てたなあ。面白そうだな」って当時のスタッフで盛り上がったんですよ。そしたら…

●本編最終回 ちなみに妖怪足洗いの本体（真ん中）は、原画時の一発描きで決定とのこと

Staff Long Interview

●作画監督／Director of Picture Work

入好さとる
新岡浩美

Satoru Iriyoshi／Hiromi Niioka

[第108話／鬼太郎ファミリーは永遠に]

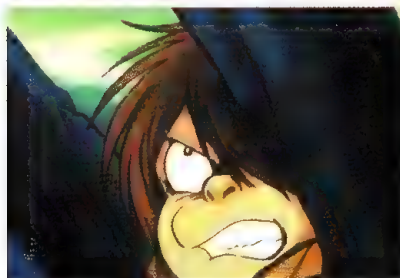
のかなって思います」
入好「あと、俺は背景の田中資幸さんに、影響を受けました。『止めの時は、止めって書いておいてくれ』って言われて、なぜですかって聞くと『キャラに隠れて見えない背景は、描かなくてもいいじゃないか』っていわれて。あぁそうか、そうだよなってわかったんです。アニメっていうのは、絶対に描かなければならないこと、やらなければならないことがいっぱいある。ならば、描かなくてもいいところは、ドンドン略していった方が、効率的でいいじゃないかってことです。
　レイアウトも田中さんに『どうせこっちで描き直すんだから、パースさえわかればいいんだよ』って言われたり。その頃の過酷な作業状況をやった結果、良い意味での手の抜き方がわかった感じです」
――新岡さんが初作画監督をされたのは、どのような経緯だったのでしょうか？
新岡「私が初めて作画監督をやらせていただいた103話『純愛ヌリカベとおしろい娘』っていうのは、この人（入好）が『女の子を描きたくない』っていうから回ってきたんです！（笑）」
入好「いやいやそうじゃなくて（笑）、この人（新岡）が可愛い女の子が上手だからやったらいいんじゃないって言っただけ（笑）。当時は製作担当が、アニメーターの得手を見つつ、東映側で振り分けたりしていたんですよ」
――新岡さんの原画といえば、80話の『妖怪吹消婆　プロレス地獄』のラリアートシーンとか、とても印象が強いんですよね。
新岡「元々はギャグがやりたかったんですよね。だからプロレスシーンとか、動かすのは好きなんですよね」
――入好さんの作画と言うと、地獄編の力の入り方はスゴかったですね。
入好「地獄編は、いかに作画の密度を上げるかって事にこだわってやってましたね。三途の川に出てくる蛇のウロコを細かく描いたり。でも、動画が上がってきたのを見たら、タイムシートに『この原画かいたヤツ、死ね!!』って書かれててショボ～ンってなりました（笑）。少しでも中割りを減らそうと、ストロボにしたんですけどねぇ」
――それでは、お二人方がアニメ業界に入った経緯を教えていただけますか。
入好「若い頃には、倉庫番や、花屋さん、漬け物屋さんとか色々なバイトをしながら、お金が貯まると遊んでを繰り返していたんです。でも、このままじゃいけない、手に職をつけないと食べていけないと思ってた頃、日本のアニメ展を見に行きまして。そこで彩色のパンフレットもらって、これだと思ったんですよ。自宅でできるって書いてあるし（笑）。それがアニメ業界に入るきっかけです。子供の頃も、マンガ家に憧れて、『石ノ森章太郎のマンガ家入門』を読んだりしていましたしね」
新岡「私は、マンガ家になりたくて、北海道から『東京デザイナー学院』に入るために高校を卒業して、東京に出てきました」
入好「俺も東京デザイナー学院に入ろうと思ったんだけど、入学金が高くて無理でした（笑）。他にはどっかないかなって調べたら、『国際アニメーション学院』ってところが入学金安かったんです。しかも、勉強をしながら、動画の仕事をして収入を得られるって書いてあって、「ココだ！」って入ったんです。
　それで入学してすぐ、動画の仕事を目一杯していたら、ある日呼び出されて

▲動画マンが殺意を覚えたウロコの描き込み！110話『血戦三途の川』より

入好さとる
SATORU IRIYOSHI

新岡浩美
HIROMI NIIOKA

タイムシートに「この原画かいたヤツ、死ね!!」って書かれてて（笑）

【第80話／妖怪吹消婆プロレス地獄】

▲線の太さの作画実験とド迫力の作画でファンの度肝をぬいたプロレス地獄！太い!!そして唾液!!

2007.6/28
H.N

『君、下手だから描かないで』って言われちゃった（笑）。その後、学校は辞めちゃったんですが、知り合いのつてで、アニメ制作会社に就職したんです。

当時は、朝一で出勤すると、動画のカット袋が山のようにあるんですね。だからそれをガッと200枚分位掴んで持っていくんですよ。その中から、難しくて時間のかかりそうな動画を会社でやって、残った簡単そうなヤツを自宅に持って帰って、自作のトレース台を使って、徹夜で描き続けましたね。この頃があるからかなり作業の手が早くなったんじゃないかな。

その描く早さが評価されたのか分からないけど、ある日会社に呼ばれて『お前、描くの早いから、動画チェックやらないか？』って言われて。行った先は『日本アニメーション』。そこで会ったのが森康二さんだったんですけど、僕は、この人が偉い人だって知らなかったんですよ。隣の机で動画チェックをやっていると、そのおじいちゃん（森氏）のことをみんなが『先生、先生』って呼んでるんだよ。それで『森さんって偉いんだ』『別に偉くないよ』なんて会話したりして（笑）」

新岡「まさにその頃、私は東京デザイナー学院で森さんに習ってる最中だったんですよ。なので、私にとっては、本当に先生でしたけど（笑）」

入好「それで森さんに、『僕はアニメの勉強って本格的にしたことがないから、教えてください』ってお願いしたら、『これをやればいい』って学院で実際に課題で使ってるコピーを山ほど持ってきてくれて。まぁそれも全然やらなかったんだけど（笑）

ある日、森さんにレイアウトの取り方を聞いたら、『レイアウトはとれる人は、最初からとれる。とれない人は一生とれない』って言われて。『それじゃ俺はダメじゃん！』って（笑）。でも森さん、『そんなこと無いよ』っていってくれたんだよね。だけど、後で知ったんだけど、俺が初めて描いたレイアウトに修正を入れていたのも森さんだったんだよね（笑）」

――そんな下積みを積まれてきた入好さんにとって、アニメーターに必要なことはなんだと思われますか？

入好「特殊な才能を必要とするような作品で無い限りは、普通の人でも出来ると思います。実際、僕自身の絵も『アニメーターの絵じゃない』って言われてますから（笑）。アニメーションには沢山の人が関わっているから、確かにこの人（新岡）みたいな凄い才能の持ち主もいるんですが、全員が凄い才能の持ち主である必要は無いんです。なまじ絵が上手くても、仕事となると続かなくて、辞めていく人も多いんですよ。とにかく手を動かして、上手に力を抜いて継続していくことが重要なんです。ルーティーンワークの中で技術は蓄積されていくんです。単調な仕事を継続する事が大事なんですね。これはどんな仕事でも同じことでしょう？だからアニメーターに必要なことは、ずーっと机の前に座っていられることですかねぇ。

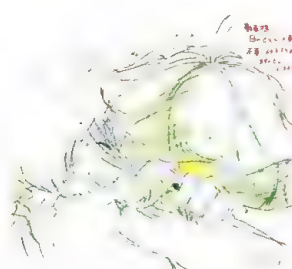
あと、特に声を大にしていいたい事があるんですが、よくアニメーターは儲からないって言われてますよね？　それは大きな誤解なんです。全然そんな事ないんですよ。そりゃあ大儲けは出来ませんが、技術を身につければ、食うに困るという事はありません。才能とチャンスに恵まれれば、シャパニーズドリームだってあり得るんですよ！だから、若い人に、どんどんこの業界に入って来てほしいですね。そして、出来れば若くて才能のある人たちが、子供向けのアニメで活躍してくれるといいなぁ」

――それでは最後に80年代シリーズの印象をお願いします。

入好「好きな鬼太郎で、好きなことをやって、勉強させてもらったって感じですかね。なんといっても当時のアニメは、テレビアニメでも劇場でも、アニメーターの自己主張が絵にはっきりと出ています。『俺の爆発シーンの描写はこうだ！』みたいな。原画、動画問わずエネルギーが充分にみなぎっていたと思います」

新岡「ファンのみなさんが見て『良かった』と言っていただける作品なので、ぜひDVDで見てもらいたいと思います。映画だったらカロリーヌちゃんのシーンで『泣け！　このシーンで号泣！』って感じでしょうか（笑）。あと、このシリーズといったら、エンディングじゃないかな？　ラストで妖怪が飛び出すところがトラウマになってるっていう話をよく聞くんで。子供の頃に怖がった思いをもう一度思い出してもらえれば…とか（笑）」

入好「お前、良いこと言って締めようとしてるのに（爆笑）。ということで子供時代を思い出して、子供さんと一緒に、もう一度楽しんでもらいたいです」◆

よくアニメーターは儲からない、って言われてますよね？それは大きな誤解なんです

80's MEMORIAL
【第27話／妖怪ふくろさげ】

新岡浩美氏による原画（左／白紙）と入好さとる氏による作監修正（右／黄紙）。両氏には今回の取材用に特別に、当時の貴重な資料や原画を数多くご提供いただきました。

▲1・妖怪エネルギーを吸い取ろうと襲いかかる。

▲2・飛び散る鬼太郎の血は透過光での処理指示。

▲3・鬼太郎を凶悪な表情へと作監修正を入れる。

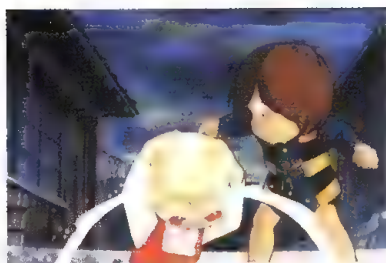
▲4・どちらが悪役か分からない！もっと吸え！

Staff Long Interview

●製作担当／Production Manager

松下健吉

Kenkichi Matsushita

鬼太郎だからこそ、演出、作画、美術、声優など全てのスタッフを含めて本当に素晴らしいスタッフが集まったんだなと思います

「80年代鬼太郎」を介した20年ぶりの同窓会のような一面も見せた今回の取材。最後は、各スタッフの統括をしていた、当時の製作担当のお一人、松下健吉さんにお話をお伺いした。妖怪なみに有象無象としていた強烈な個性のスタッフをどのようにコントロールしていたのだろうか

松下「『ゲゲゲの鬼太郎』は順調に製作が進み、たいしたトラブルも無く納品できていた事を思い出します。当時、僕は『北斗の拳』の製作も手伝っていましたが、こちらはアクション主体の作品であった為、上げるのに苦労しました」

――テレビシリーズ以外に劇場作品が4つなので、とてもそうは思えないのですが？

松下「そのために、鬼太郎の作画班は、通常6班体制で作っていくのを8～9班体制をひいてやっていました。余力の2～3班に劇場作品をお願いする。こんな感じです。休みごとに上映していたので、そうやって映画を作っていました。

ただ、兼森さんはテレビシリーズでキャラクターデザインなど、重要な仕事をお願いしていたので、劇場版2作目『妖怪大戦争』の時は、とても大変だったと思う。稲野さんが作画監督になったのも、兼森さんが映画に行ってしまった結果、お願いしました。当時スタジオバードは3人でやっていたので、兼森さんの代わりは稲野さんにぜひという感じでした。

映画について言えるのは、一つ終わる頃には、次の作品のシナリオは上げてもらっていました。そういうペースじゃないとテレビと劇場の両立は難しい。だからこそ8、9班という体制でした。

製作の仕事は主に、作画や美術などのスタッフ編成や割り振りなどがメインなんだけど、鬼太郎は『作画に参加したいのだけど』と言ってきてくれたり、とにかくアニメーターに人気のある作品だったので、スタッフ集めには苦労しませんでした。

山口泰弘さんの場合、当時他作品の作画監督をされていたのですが『鬼太郎だったらいいよ』と掛け持ちで参加してもらいました。

スタジオ座円洞の松本朋之さんも、映画をやるためにスタッフを増やした時にお願いしました」

――シナリオについても同様でしたか？

松下「星山博之さん、武上純希さん、大橋志吉さんがメインで参加されていました。半年前にはシナリオは上げてもらっていて大変助かりました。（東映アニメーションではシナリオまでは企画プロデューサーの業務範囲）

シナリオっていうのは、第一稿でOKが出ることは無いんだけど、いつもスケジュール通りか、それ以上でした」

――そうなんですか。葛西さんは、『上がりが遅かった』とぼやかれていましたが？

松下「葛西さんの場合、原画のチェックが厳しく原画マンが苦労していました。リテークも多かったと記憶しています」

――もっともっと良いものができるはずだったとおっしゃっていました（笑）。

松下「確かに劇場版も、葛西さんが監督した『妖怪大戦争』は今みても作画・背景のクオリティーの高い作品と思います。但し製作工程の最終段階ではリテークカットが中々OKにならず、葛西さんに注文をつけた覚えがあります」

――（笑）松下さんの実感では、進行はかなりスムーズだったんですか？

松下「遅れる、上がらないで困った作画班はなかった。あるアニメーターから『私の描いた回が、まだ放映されないんですけど、どうなっているのでしょうか？』って質問された。つまり、原画を描き上げてから2、3カ月立たないと放映されていなかったんだ。ゆったり製作していた良き時代でした。そういう質問をされると『ちょっとまってね。えーと、その

松下健吉
KENKICHI MATSUSHITA

●東映アニメーション取締役製作本部長。『スラムダンク』（93年）劇場作品『遠い海から来たＣｏｏ』（93年）など数多くの作品の製作担当を務める。『ゲゲゲの鬼太郎80S』では1話から67話までを担当。

回は…あと3週後にO．A．だね』って調べなくちゃいけなくて。それはよく覚えている。土曜日の夕方6時半から放映されていたので、時々特番でナイター中継が入り、製作は週1話ペースを変えなかったので、段々ストックが貯まっていった。

僕は会社の事情で、テレビシリーズの途中から鬼太郎には関わらなくなってしまった。最後に製作した地獄編は作風がガラリと変わり、アクション主体のハードな作品になったのでスタッフは大変苦労したようです。その時の作品内容とかはプロデューサーの横山賢二さんが詳しいと思うけど」

——では話が変わるんですが、当初、妖怪のキャラクターデザインを宮本貞夫さんに発注されていたそうなんですが、その事情というのは？

松下「まず、メインは兼森さんにお願いしていた。それで、全部という訳ではなく、妖怪は宮本さんにお願いしていたということ。すごく厳密にそれを決めたということではなくて、分担して描いてもらっていたということですよ。

さっきもいったように、鬼太郎は、映画制作の関係上、多数の外部スタッフが関わっているし。作画監督もインタビューに出てこられた方々以外にも、タイガープロの清水明さん。きのプロの松本勝次さんとか。グラスキャットの清山滋崇さん、フリーだった演出の生頼昭憲さん、石田昌久さんなどもいました。スタジオジュニオの山本福雄さんは同スタジオ演出の今沢哲男さんと組んでいたね。途中からは平田かほるさんに変わったりしてた。入好さとるさんと新岡浩美さんは、演出の芝田浩樹さんとは気が合って、よく組んでいた。この時代は社内演出も多数参加していた。葛西さん芝田さん以外にも芹川有吾さん、明比正行さん、西沢信孝さんなどです。

他にもたくさんのスタッフが関わった作品だね。今でも付き合っている人もいるし、音信不通になった人もいるし、亡くなってしまった人もいる。…20年経ったんだね、あの頃から」

——今とはまったく違っていますか？

松下「今のアニメーションは、原画マンに先ずレイアウトを描いてもらい、それを演出、作画監督がチェックし、OKになったカットだけを原画マンに戻してから原画を描くといった完全に1工程増えた作業になっている。鬼太郎の頃はレイアウトチェックなど無く原画を直接上げてもらっていた。1工程少ない分、上がりも早かった。作画リテークが出た際の効率の問題で徐々に今の形になって来たのだけれど。

それにあの頃のアニメーターは自信満々の人が多かった。『俺の絵に修正？理由は！』みたいな感じでね」

——それでは、今振り返っていただいて、松下さんにとっての80年代鬼太郎とはなんだったのでしょうか。

松下「かなりスムーズに作品を作れた時期だし、またそういう作品だった。視聴率も高かったし、アニメーターにも人気があって、スタッフを探すよりも向こうから来てくれて、とても楽しく製作できた作品でした。

この時の鬼太郎は、今でもそうだと思うのだけど女子のファンが多くて、『鬼太郎カッコいい！』という感じ。だからだと思うんだけど、そういう女の子ファンにはユメコちゃんが不評でね（笑）。そんなことも覚えているね。

あと、セル画を欲しいという子供達（高校生くらいまで）が来た時や、見学に来た人達のおみやげに、わりと平気であげたりしていました。勿論メインキャラのアップカットなど、販売用を除いてなんだけれど。おおらかな時代でした。そのうち高値で取引されるといった変な方向に行ってしまったので、あげる事は一切しなくなりました」

——信じられないお話ですね！　今も持っていたらお宝ですよ！

松下「でもハンドトレースじゃないセル画っていうのは、時間が立つと線が消えていっちゃうんだ。だからちゃんと残ってはいないんじゃないかな」

——確かに（笑）。そのほかに、この作品の制作スタッフはよく懇親会をやっていたと伺いました。

松下「節目節目でよく開いていました。水木先生もいらっしゃっていたし、声優さんたちも来ていた。それで覚えているのは、田の中勇さん（目玉おやじ）が、あの声でしゃべるもんだから、他にいたお客さんたちがこっちを振り返るんだよ（笑）。『え！　まさかこの人、目玉おやじ？』みたいな好奇心に満ちた目でみられたんだ（笑）。その時のお店の雰囲気をすごく覚えているなぁ。

改めて思うと、鬼太郎だからこそ、演出、作画、美術、声優など全てのスタッフを含めて、本当に素晴らしいスタッフが集まったんだなと思います。

今5作目をやっていますが、鬼太郎はずっと続く作品かもしれない。当時見ていた方々は、子供たちに素晴らしさを伝えてぜひとも見せてやってください」◆

今でも付き合っている人もいるし、音信普通になった人もいるし、亡くなってしまった人もいる。…20年経ったんだね、あの頃から

80's制作班

作画に大きな特徴が見られるのも、鬼太郎80'sの魅力の一つ。名実ともに実力揃いの8つのスタジオそれぞれが、個性を存分に発揮して、こだわりの作画で競い合っていたのだ！

スタジオ・ジャイアンツ
（作画監督／入好さとる・[illegible]）

■担当回抜粋
08話『だるま妖怪相談所』
34話『ばけ猫国道0号線』
80話『妖怪吹消婆プロレス地獄』
91話『妖怪ハンター　ヒー族！』
103話『純愛ヌリカベとおしろい娘』
108話『鬼太郎ファミリーは永遠に』
115話『鬼太郎最後の出会い!!』
劇場版『激突!!異次元妖怪の大反乱』

【補足】91話以降は両名ともにスタジオを離れ、フリーとして80's鬼太郎に参加。

スタジオ・カーペンター
（作画監督／山口[illegible]）

■担当回抜粋
05話『ダイヤ妖怪輪入道』
16話『妖怪のっぺらぼう』
30話『妖怪見上げ入道』
57話『タヌキ軍団日本征服!!（後編）』
73話『シーサー登場!!沖縄大決戦』
101話『妖怪捕物帖　猫騒動』
劇場版『ゲゲゲの鬼太郎』
劇場版『最強妖怪軍団！日本上陸!!』

スタジオ・ジュニオ
（作画監督／山本[illegible]・平田かほる）

■担当回抜粋
04話『妖怪ぬらりひょん』
33話『妖怪あかなめ哀しみの逆襲』
47話『妖怪のびあがりと吸血木』
71話『妖花の森のがしゃどくろ』
89話『木の子と妖怪山天狗』
95話『笑い妖怪ヘンラヘラヘラ』
100話『鬼巫女の鬼太郎抹殺作戦』

【補足】107話以降の作画監督は宮澤康紀。

[illegible]のプロ
（作画監督／[illegible]）

■担当回
31話『オベベ沼の妖怪』
37話『妖怪おどろおどろ』
44話『あの世からの使者死神』
53話『皿屋敷の妖怪モウリョウ』
60話『巨人妖怪ダイダラボッチ』
70話『鏡地獄！妖怪うんがい鏡』
83話『雨神ユムチャック伝説』

タイガープロ
（作画監督／[illegible]）

■担当回抜粋
21話『コマ妖怪あまめはぎ』
36話『異次元妖怪かまなり』
51話『世界妖怪ラリー』
66話『韓国妖怪ぬっぺらぼう』
74話『妖怪万年竹』
84話『地獄一周!!妖怪マラソン』
112話『二大妖怪の罠』

【補足】98話以降の作画監督は高田耕一。

グラスキャット
（作画監督／[illegible]）

■担当回抜粋
01話『謎の妖怪城出現!!』
24話『子供が消える!?妖怪うぶめ』
32話『鬼太郎危うし！妖怪大裁判』
41話『激戦！妖怪関ヶ原』
77話『妖怪手の目と地獄の餓鬼』
78話『マンモスフラワーと山男』
86話『妖怪香炉　悪夢の軍団』

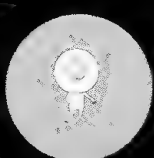
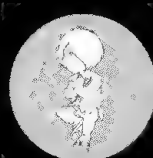
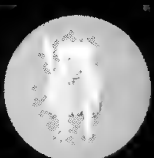
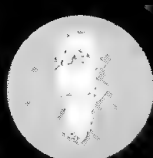
スタジオ・ハード
（作画監督／[illegible]）

■担当回抜粋
07話『子連れ妖怪磯女』
14話『不老不死!?妖怪さざえ鬼』
38話『タタリだ〜!?妖怪土ころび』
67話『密林の大海獣』
75話『妖怪小豆連合軍』
82話『妖怪串刺し入道』
90話『妖精ニクスの青い涙』
劇場版『妖怪大戦争』

【補足】38話以降の作画監督は稲野義信。

スタジオ[illegible]
（作画監督／松本[illegible]之）

■担当回抜粋
22話『いじわる妖怪天邪鬼』
48話『妖怪いやみ』
61話『まぼろしの汽車』
62話『妖怪火車逆モチ殺し!!』
79話『妖怪やまたのおろち』
102話『おてんば魔女ジニヤー』
109話『母を求めて地獄旅』

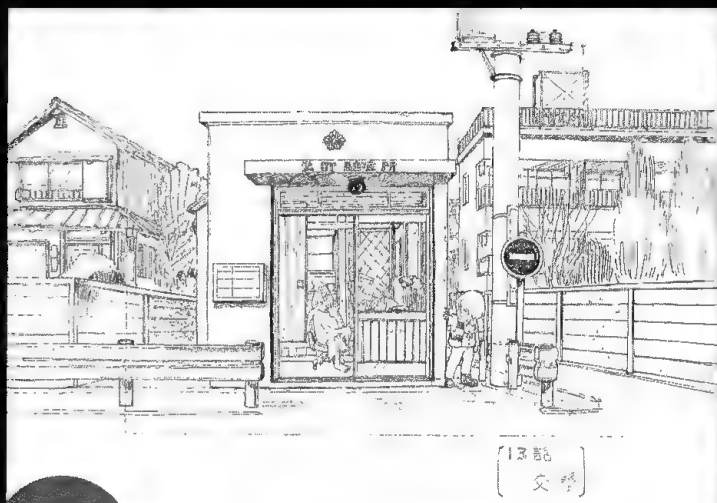
鬼太郎、子泣き爺、砂かけ婆、ネコ娘、ねずみ男、天童家、etc

「設定資料」

●●A great number of material is here.●●

兼森義則氏の手によって、新たな命を吹き込まれた鬼太郎ファミリー。その貴重な設定資料の数々を大公開！テレビシリーズだけでなく、映画用に描き起こされた、鬼太郎の後期デザインもお蔵出ししちゃいます！

ゲゲゲの鬼太郎（きたろう）

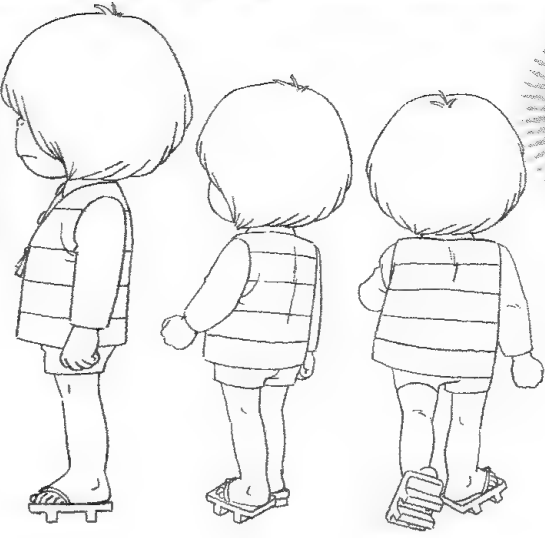
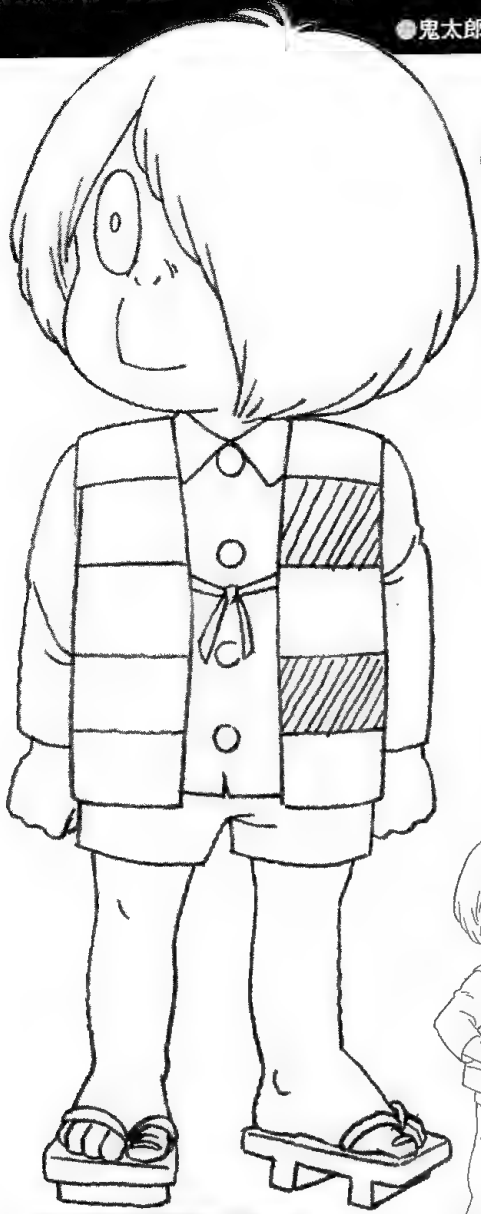
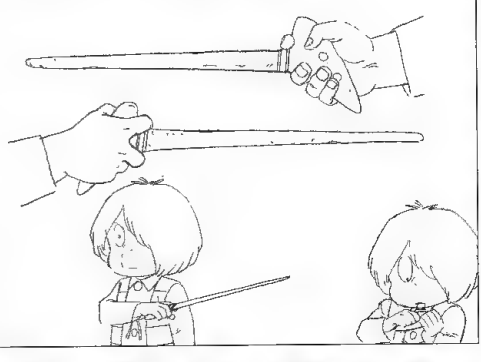
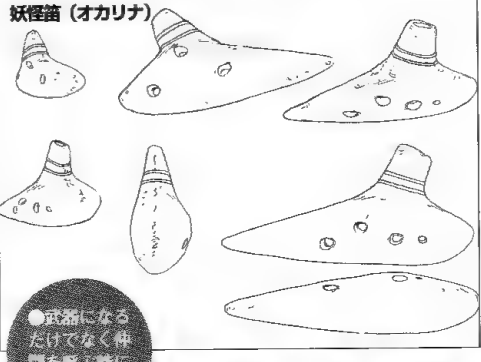
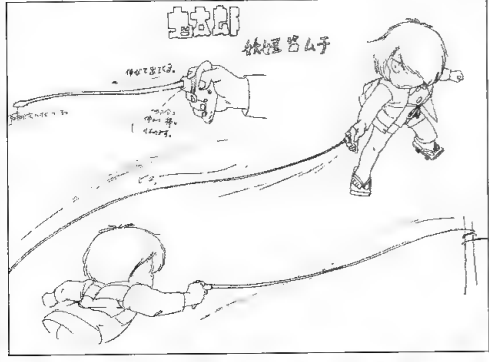
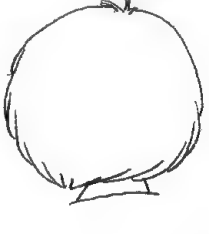
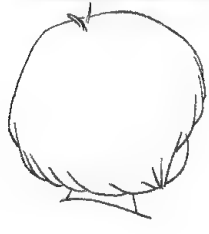
キャラクター

●80's鬼太郎タイトルロゴ

●エンディング用に設定された2等身の鬼太郎たち

●13話美術資料「交番」

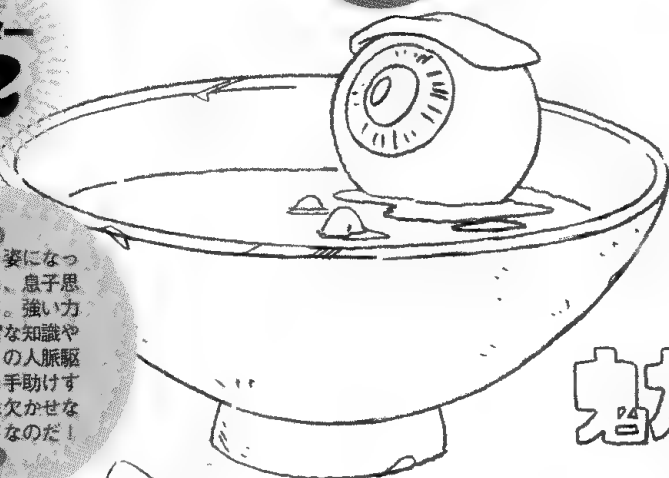
鬼太郎 比較表

ヌリカベは別項（P.46）に有り

●比較表 キャラの大きさ等の[illegible]

Character
キャラクター 01
鬼太郎
KITARO
●声優名／戸田恵子
幽霊族の末裔。80年代版では明朗快活な正義の味方としての部分が強調される。武器はオカリナ、ちゃんちゃんこ、リモコン下駄など。ちなみに妖怪と人間のハーフという設定は、『地獄編』のみの設定。
●ほとんど2頭身で、後期に比べ丸っこいのが特徴。
●「正義のヒーロー」というコンセプトに伴い、鬼太郎の顔立ちも引き締まり、正義の情熱溢れるキャラクターにふさわしい物となった。
初期設定ver
妖怪笛（オカリナ）
●武器になるだけでなく仲間を呼ぶ時にも使われた。

●鬼太郎表情集

●劇場版に向けて再デザインされた鬼太郎。後にテレビシリーズにも生かされ、頭身が伸び、スラリとした体型になった。

後期設定ver

Character
キャラクター
02
●目玉おやじ
MEDAMA OYAJI
●声優名／田の中勇
目玉だけという姿になっても生き続ける、息子思いの目玉おやじ。強い力は無いが、豊富な知識やエンマ大王等との人脈駆使して鬼太郎を手助けする。鬼太郎には欠かせない大事なおやじなのだ！
UP
鬼太郎
オヤジ
Character
キャラクター
03
●ネコ娘
NEKO MUSUME
●声優名／三田ゆう子
目の上下
色トレスで
つなぐ
ねこの性格をそのまま持った、少女の妖怪ネコ娘。ねこ故に、ねずみ男とはそりがあわず、鋭い爪でねずみ男の顔を切り裂くのが定番。ユメコとは、鬼太郎を巡っての、恋のライバル関係にある。

ねずみ男

●NEZUMI OTOKO

Character
キャラクター04

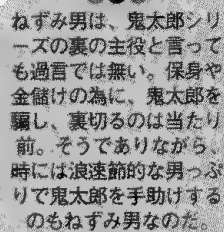
●声優名／富山　敬

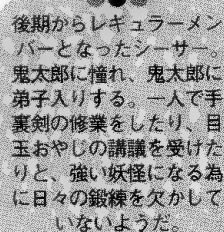
●汚くて臭いねずみ男。その武器も口臭やオナラといった、非人道的なものばかりだ！

鬼太郎
ネズミ男

ねずみ男は、鬼太郎シリーズの裏の主役と言っても過言では無い。保身や金儲けの為に、鬼太郎を騙し、裏切るのは当たり前。そうでありながら、時には浪速節的な男っぷりで鬼太郎を手助けするのもねずみ男なのだ。

シーサー

●SEA SER

Character
キャラクター05

●声優名／山本圭子

●何故かねずみ男に利用される機会が多いシーサー。二人の凸凹コンビっぷりは、後期の定番となった。

セリフは ロビルを別セルで

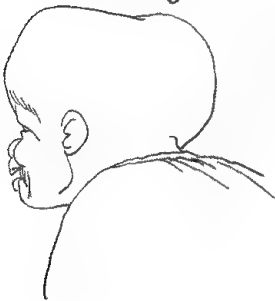
●犬っぽくて、まるで鬼太郎のペットのようだ。

後期からレギュラーメンバーとなったシーサー。鬼太郎に憧れ、鬼太郎に弟子入りする。一人で手裏剣の修業をしたり、目玉おやじの講議を受けたりと、強い妖怪になる為に日々の鍛練を欠かしていないようだ。

Character キャラクター 06

子泣き爺

KONAKI JIJI

●声優名／永井一郎

赤ん坊の様な泣き声をあげまるで石のように硬くなったり重くなったりして敵を攻撃する。107話では、砂かけ婆に愛を告白するなど、外見の子供っぽさに反してなかなかのやり手でもある。

Character キャラクター 07

砂かけ婆

SUNAKAKE BABA

●声優名／江森浩子

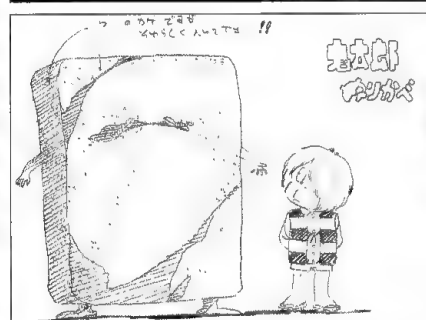
砂を武器にして戦う砂かけ婆。妖怪医学や、妖怪玉を使った占いで、鬼太郎をサポートする。第54話では「妖怪アパート」を完成させ、その経営をするなど、多面的な活動も見せている。

●ITTAN MOMEN

Character キャラクター 08

一反もめん

●声優名／八奈見乗児

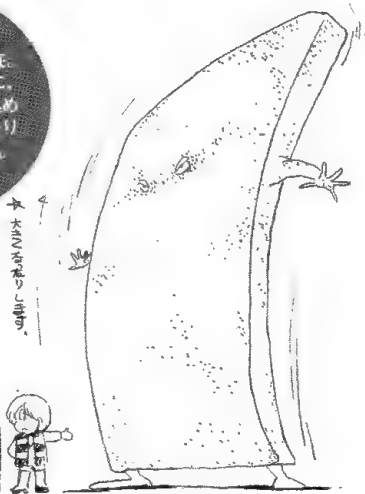
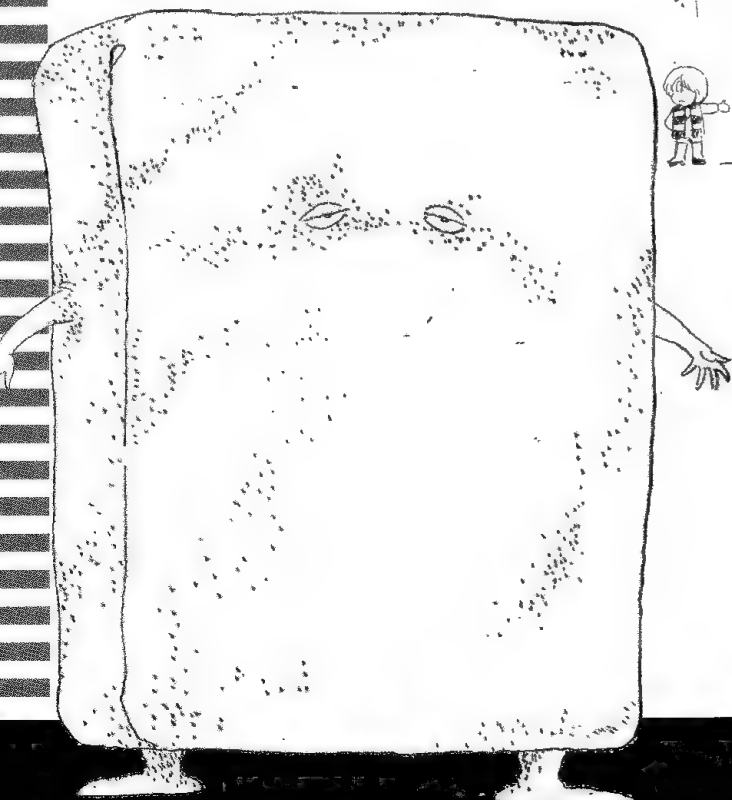
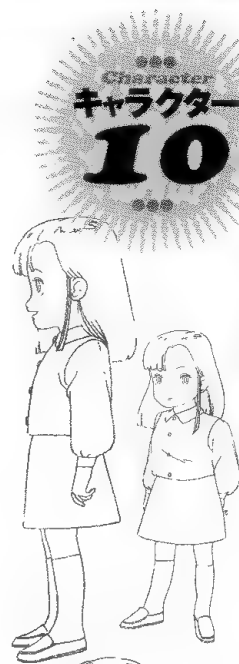
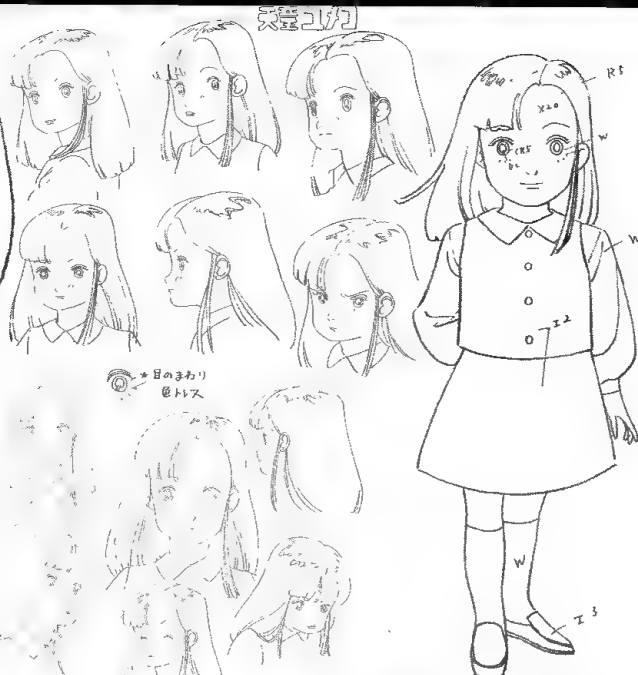
往々にして「いったんもんめ」と誤解されがちだが、正しくは「一反もめん」。薄い身体で空を飛び、鬼太郎達を乗せてどこへでも飛んでいく頼りになる妖怪。いかんせん布なので、火には弱い。

●NURIKABE

Character キャラクター 09

ぬりかべ

●声優名／屋良有作

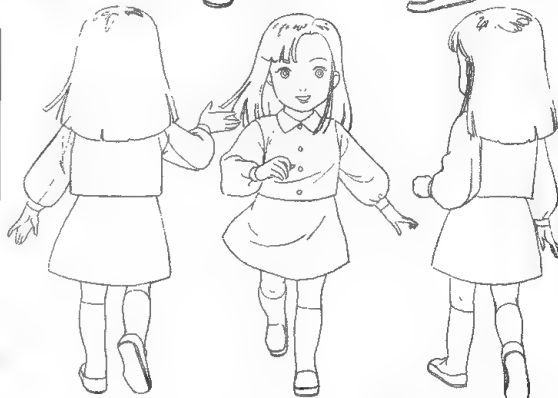
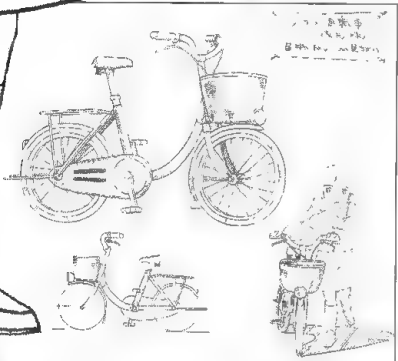
「気は優しくて力持ち」を地で行くキャラクターぬりかべ。大きな身体を盾にして、敵の攻撃から鬼太郎達を守ったり、大地から突然現れ敵の進路を塞ぐ。103話では、紅子の祖父のふりをしたりと、心優しい一面を見せる。

Character キャラクター 10

天童ユメコ

●TENDOU YUMEKO

●声優名／色川京子

原作にはない、オリジナルキャラクター・ユメコ。彼女の存在無しでは80'sは語れない。可愛らしい普通の女の子であるユメコが鬼太郎をはじめとした妖怪達と、人間とを繋ぐ、架け橋となってストーリーが展開していく。

天童家

キャラクター 11

天童正夫

●TENDOU MASAO

●声優名／佐藤正治

ユメコの父。最初は鬼太郎達、妖怪を否定していたが、次第に心を開いていく。

キャラクター 13

天童星郎

●TENDOU HOSHIRO

●声優名／高坂真琴

ユメコの弟。やんちゃで元気なかわいい男の子。85話では、河童の少年と入れ替わったりもする。

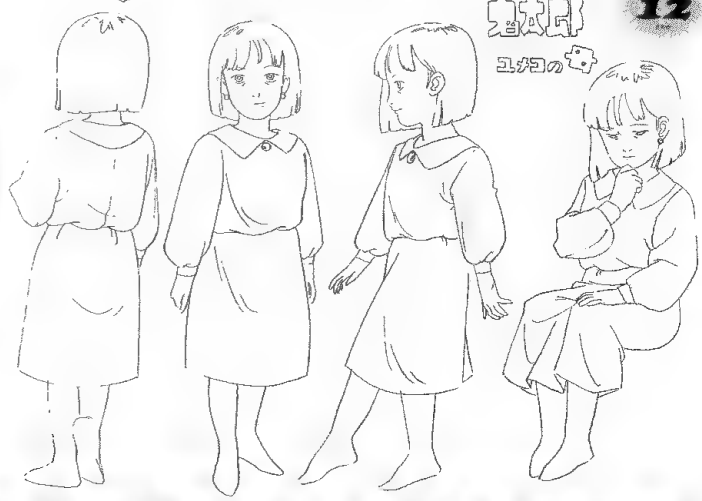
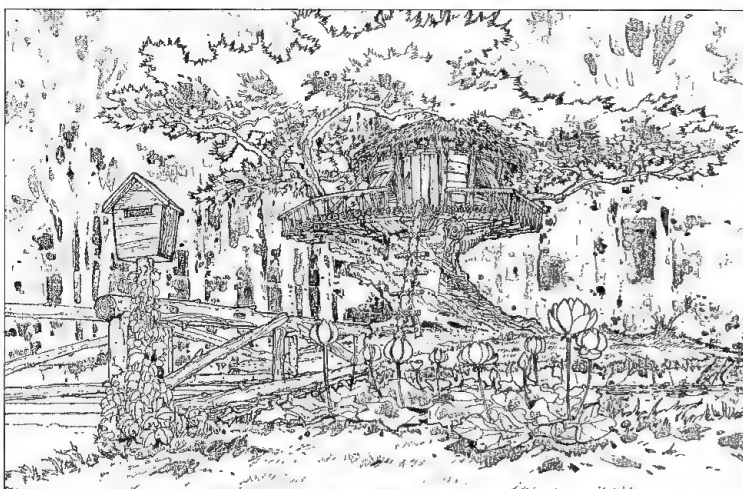
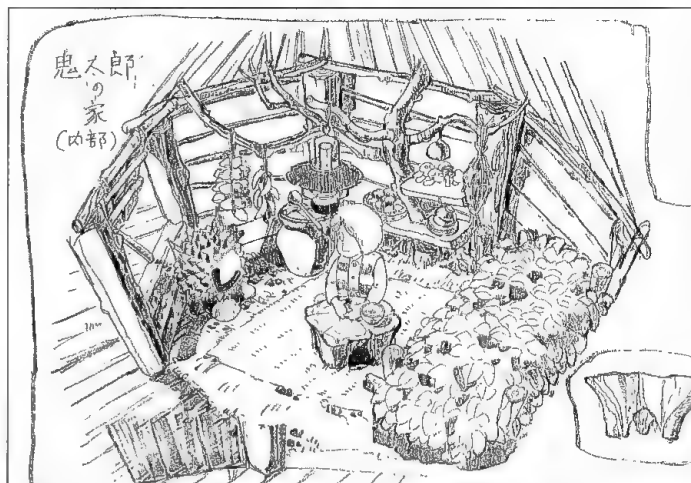
キャラクター 12

天童優子

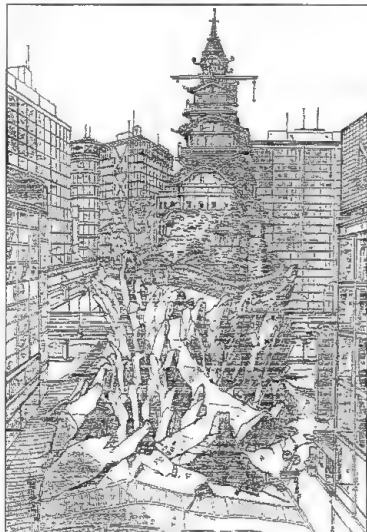
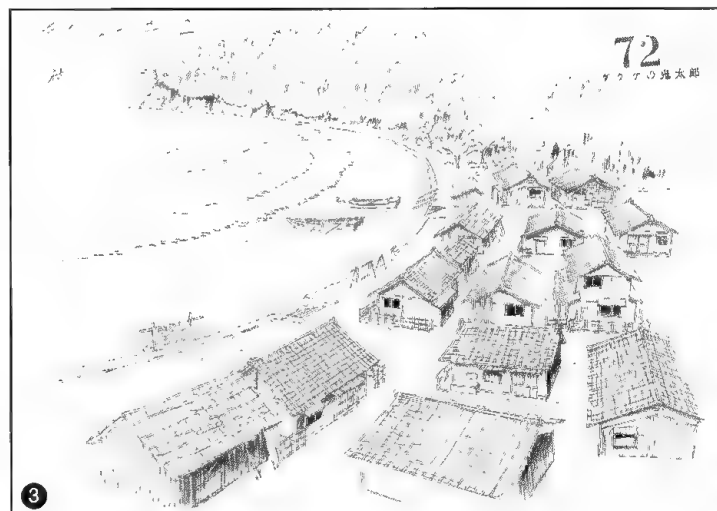
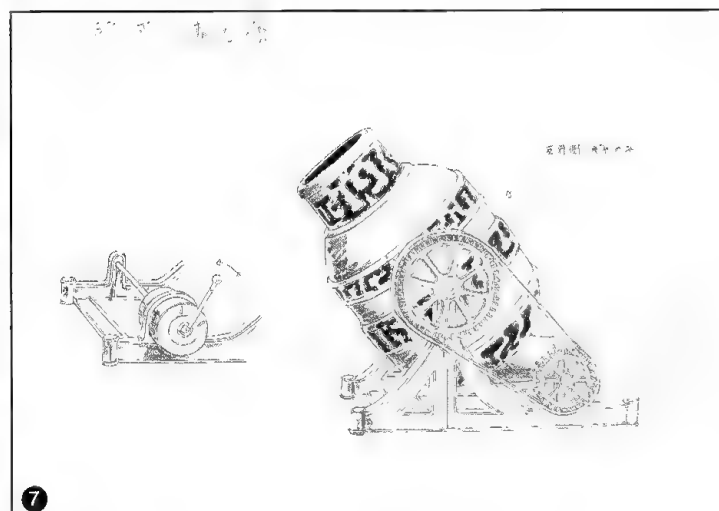
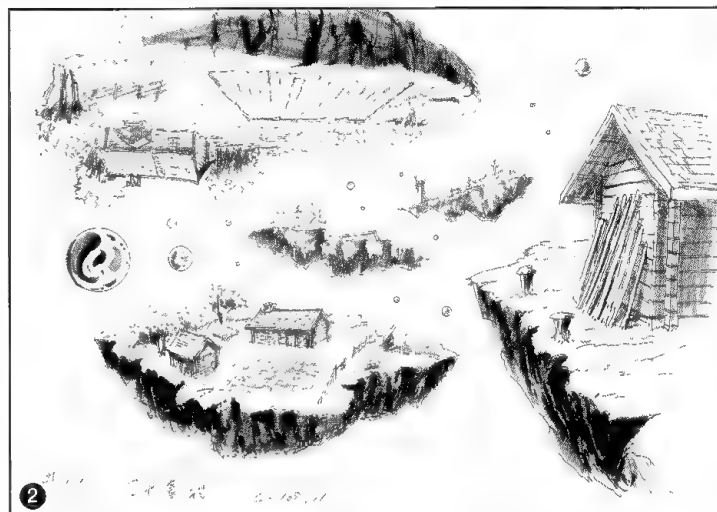
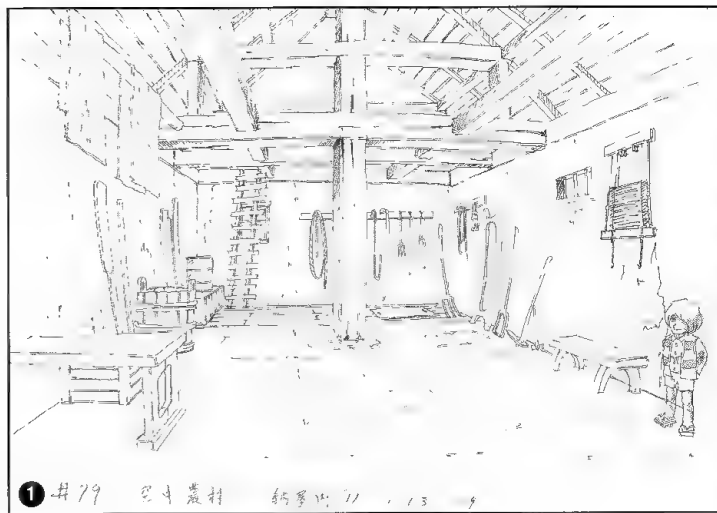
●TENDOU YUKO

●声優名／川浪葉子

ユメコの母。妖怪にも理解があり、未だに少女の様な心を持っている。

鬼太郎世界の舞台は、どこかで見た覚えがあるように感じる、懐かしい情感が詰まったものばかり。そんな世界観を演出した美術設定資料を大放出！

●KIRARO'S HOUSE
鬼太郎の家
原作の設定にアレンジをくわえた鬼太郎の住む家。いつでも蓮の花が出迎えてくれます。

●KIRARO'S HOUSE inside
鬼太郎の家(内部)
鬼太郎ハウス内部。葉っぱのベッドで昼までグーグーだ。

●YOUKAIJYOU…
妖怪城
第1話では、たんたん坊の住処となり、第58話では、ぬらりひょんが根拠地として鬼太郎を苦しめた。

●TENDOU'S HOUSE inside
天童家(内部)
鬼太郎80'sは、ファミリー層も意識していたので、ユメコの家まで細かく設定されていた。

天童家(外観)

❺ ねずみ男おんぼろアパート(13話)
●ねずみ男もアパートで暮らしていた！　小さく描き込まれた鬼太郎もかわいい。

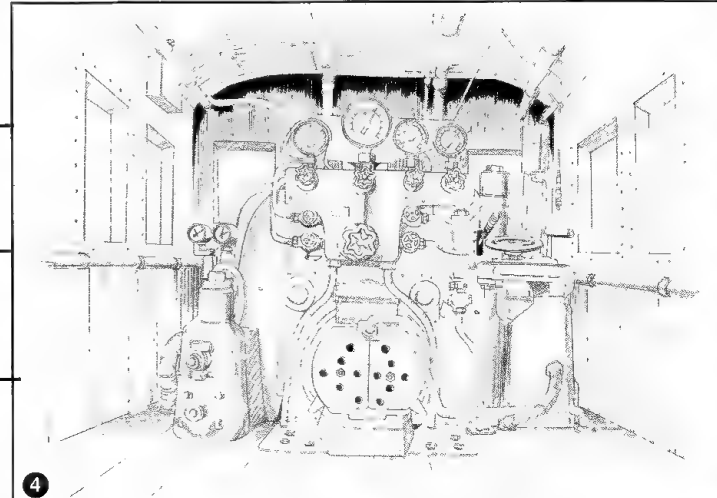
❻ 無人島　(68話)
●大海獣の姿になってしまった鬼太郎が元の姿に戻る島。薄く大海獣も描き込まれている。

❼ 霊界転送機　(37話)
●おどおどろが子供を閉じ込める霊界転送機。歯車を駆使したレトロなデザインが秀逸！

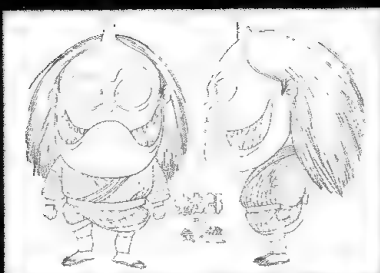
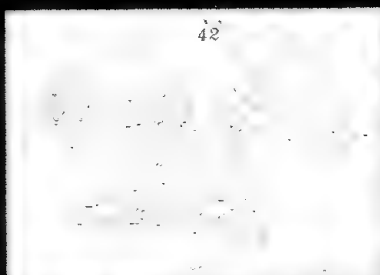
❶ 空中農村　納屋内　(79話)
●ヒロシくんが囚われていた納屋の内部。細かい農具の設定まで、しっかりと描かれている。

❷ 空中農園　全景　(79話)
●空中に浮かんだ島に、家が建っている、幻想的な風景。シュールレアリズムのような一枚。

❸ 髪様の漁村　(72話)
●全国各地が事件の舞台になるが、その中でも、寂れた漁村の美術設定は際立っている。

❹ まぼろしの汽車の機関室(61話)
●本編ではほんのちょっとしか出ない機関室ですら、みっちりと美術設定がされている。

本編108話＋地獄編7話の設定資料大掲載！

「ストーリー設定資料ガイド」

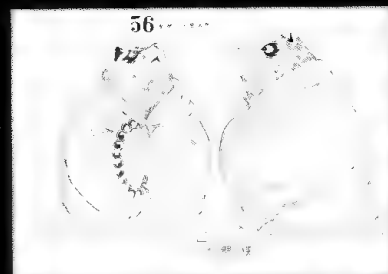
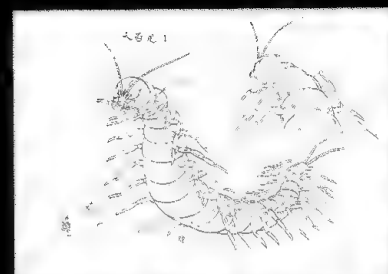
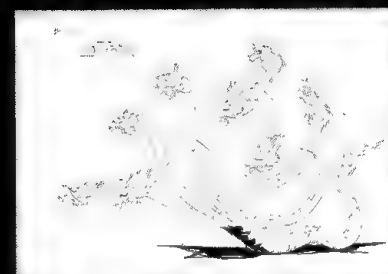
今まで眠っていた鬼太郎シリーズのゲストキャラクター設定を大公開！　更に、インタビュー取材の中から発掘された、超超貴重な資料の数々が本邦初公開です！

●ゲストキャラクター設定については、基本的に初期の20話前後までがキャラクターデザインの兼森義則氏が、その後は各スタジオの作画監督がデザインをしています。

●ぬらりひょん（第4話）

●朱の盤（第4話）

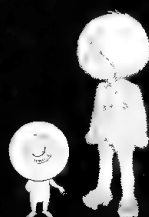
●牛鬼（第42話）

●たくろう火（第85話）

●家鳴（第92話）

●刑部狸（第56話）

●大ムカデ（第73話）

●やまたのおろち（第79話）

●やまたのおろち（第79話）

GEGEGE no KITARO

『アニメージュ』（徳間書店）1985年11月号～1988年4月号にわたって毎月連載されていた横山賢二プロデューサーの鬼太郎コラムを、関係各社の協力により、完・全・再・録！
当時の製作こぼれ話や、エピソードが満載です！
じっくり読んで、放映当時の気分に浸って下さい！

1話　謎の妖怪城出現！！

脚本／星山博之　演出／葛西　治　作画監督／清山滋崇　美術／阿部泰三郎

放映日
85.10.12
16.8%
視聴率

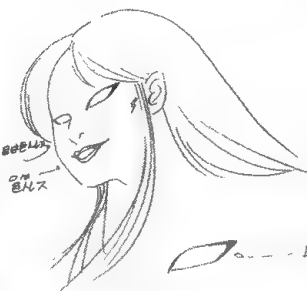
●TANTAN BOU
たんたんぼう
（声優名／田中康郎）

▲石塚

●HUTAKUCHI ONNA
二口女
（声優名／梨羽由記子）

●KAMAITACHI
かまいたち
（声優名／大竹　宏）

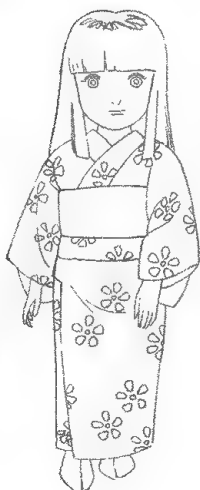
1話／解説

砂かけばばあ、子泣きじじい、ねずみ男といったレギュラー陣の顔見せ的な初回放映。まだ設定が固まっていなかったのか、鬼太郎の言動が、後の鬼太郎とやや違いがあり興味深い。

2話　鏡じじい

脚本／武上純希　演出／芝田浩樹　作画監督／音無竜之介　美術／阿部泰三郎

●KAGAMI JIJI
鏡じじい
（声優名／宮内幸平）

▶優子（ユメコの母）

▶お花（ユメコの祖母）

▼キャラ対比表

放映日
85.10.19
19.5%
視聴率

2話／解説

新たな鬼太郎ファミリーとしてネコ娘とユメコちゃんが初登場。また、扉の隙間から鬼太郎を覗き見して呟くユメコの父・天童正夫の姿に、全国の少年少女は震え上がった！

3話 ネコ仙人

脚本／武上純希　演出／棚沢 隆　作画監督／石黒 育　美術／阿部泰三郎

放映日
85.10.26
21.0%
視聴率

横山Pの鬼太郎コラム

ついに「ゲゲゲの鬼太郎」の3回目のアニメ化が実現。10月12日(土)夜6時30分からスタートします。第1回目が68年（モノクロ）2回目が71年（カラー）の放送ですから、この当時見た人たちはいまや成人。もしかしたらママやパパになっている人もいるでしょう。今回は親子そろってテレビの前に、なんてのはいかがでしょう。第3作の特徴は、前作にとらわれず、スタッフ、キャストを一新し、85年型「鬼太郎」をめざし、明るく、ユーモアあふれるゴーストバスターを作っていきたいと思っています。キャラクターも、レギュラーのなかに新しく天童ユメコ(小学校4年)を加え、日常性をもたせ、学校の生活なども盛りこんでいきます。音楽はOPを熊倉一雄に代わって吉幾三が歌っています。彼は大の鬼太郎ファンで、EDは本人が作詞・作曲・歌と大活躍。ノリにノっています。BGMは竜童組でご存じの川崎真弘が担当。すばらしいでき上がりです。／横山賢二（PD／東映動画）

●NEKO SENNIN
ネコ仙人
（声優名／青野 武）

▼これも猫仙人

▶ねずみ男のタキシード姿

▶ねずみ男の着ぐるみ姿

4話 妖怪ぬらりひょん

脚本／大橋志吉　演出／今沢哲男　作画監督／山本福雄　美術／阿部泰三郎

放映日
85.11.2
23.0%
視聴率

●NURARIHYON
ぬらりひょん
（声優名／青野 武）
〔第4話のみ千葉耕市〕

▲没ぬらりひょんの設定画

●SYU NO BON
朱の盆
（声優名／小林通孝）

●JYAKOTU BABAA
蛇骨ばばあ
（声優名／山本圭子）

4話／解説

スーパーヒール・ぬらりひょん先生が遂に登場！爆弾テロをする上、鬼太郎をコンクリート詰めにするなど悪の華が満開。冒頭の登場シーンだけは原作テイストな顔なのが謎であります。

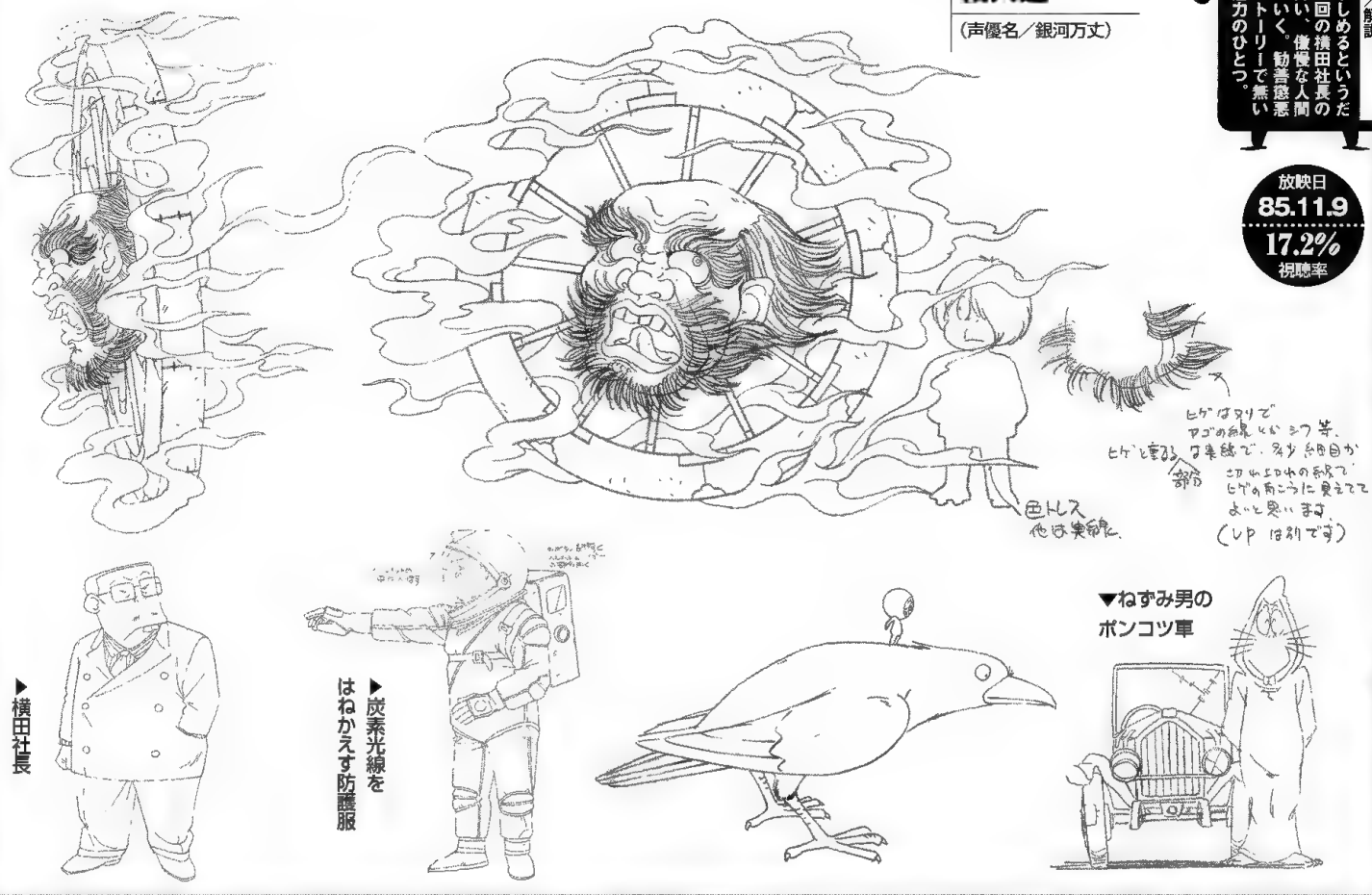
5話 ダイヤ妖怪輪入道

脚本／並木 敏　演出／葛西 治　作画監督／山口泰弘　美術／阿部泰二郎

悪い妖怪を懲らしめるというだけでなく、この回の横田社長のような、金に汚い、傲慢な人間達とも対決していく。勧善懲悪のシンプルなストーリーで無いのが鬼太郎の魅力のひとつ。

5話／解説

放映日 85.11.9　17.2% 視聴率

●WANYUDO
輪入道
（声優名／銀河万丈）

▶横田社長

▶炭素光線をはねかえす防護服

▼ねずみ男のポンコツ車

6話 地獄行！幽霊電車！！

脚本／星山博之　演出／石田昌久　作画監督／柳瀬譲二　美術／伊藤信治、金島邦夫

放映日 85.11.16　20.8% 視聴率

●ABURA SUMASHI
油すまし
（声優名／塩屋浩三）

●NURE ONNA
濡れおんな
（声優名／松井摩味）

●KARAKASA KOZO
からかさ小僧

●HYOUSUBE
ひょうすべ
（声優名／広中雅志）

▶黒川

▶吉永

横山Pの鬼太郎コラム

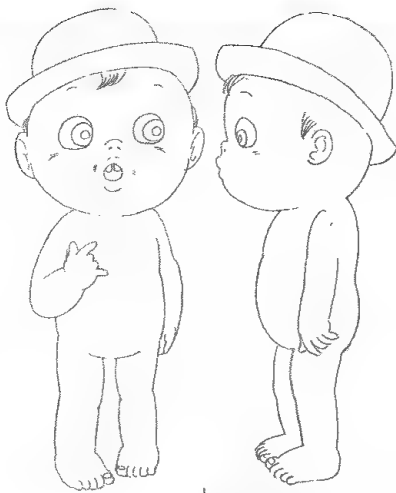
おい、みんな！「ゲゲゲの鬼太郎」見てくれたかな!? すごいできばえに圧倒されたって!? はやくも投書やハガキがジャンジャン舞いこんで、スタッフはテンヤワンヤ。それにしても、放映してまだ日も浅いのに、はやくも劇場用が決まり（テレビのスタッフとは別班）、12月21日の封切りに向かって始動開始。ポスター作りや予告編作りにたいへんです。テレビとひと味ちがった作品になることはもちろんですが、なによりも登場キャラクターの個性の豊かさ、特殊な設定（熱帯植物園や外国船など）、スリルとサスペンス、ユーモアとペーソスが縦横に散りばめられ、一気に観客を作品のなかに引きこんでしまうことでしょう。スタッフは自信作にすべく、テレビ版のスタッフと競いあいながら頑張っています。12月21日の封切りを楽しみにお待ちください。／横山賢二（ＰＤ／東映動画）

7話　子連れ妖怪磯女

脚本／武上純希　演出／芝田浩樹　作画監督／兼森義則　美術／阿部泰三郎

放映日
85.11.23
19.8%
視聴率

▶船頭にふんした鬼太郎

●AKANBOU
赤ん坊
（声優名／三輪勝恵）

▶ワルタ

▶村長

●ISO ONNA
磯女
（声優名／山口奈々）

▶ワルタ観光に就職したねずみ男

▶人魚

▶河童（ワルタや村長の尻子玉を抜く）

7話／解説

開発によって住処を奪われた磯女が仕方なく暴れるといった、開発と自然破壊の問題をモチーフに使った話も鬼太郎には多い。ちなみにワルタ観光の社長は106話でも悪事を働く

8話　だるま妖怪相談所

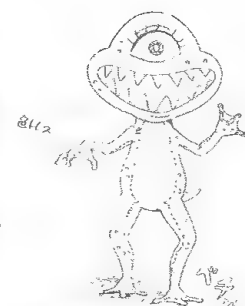
脚本／星山博之　演出／西沢信孝　作画監督／入好さとる　美術／鷲崎　博

放映日
85.11.30
23.3%
視聴率

●DARUMA
だるま
（声優名／滝口順平）

●HUKKESHI BABAA
吹消婆
（声優名／津田延代）

●AKANAME
あかなめ
（声優名／つかせのりこ）

ケケケケケケ

▲だるま商事を訪れる妖怪たち

9話　不死身の妖怪水虎

脚本／並木　敏　演出／石田昌久　作画監督／清山滋崇　美術／藤田　勉

放映日
85.12.7
22.4%
視聴率

●SUIKO
水虎
（声優名／大竹　宏）

▼水虎（霧状）

ブラシ　色トレス

▲トラに変身した水虎

▶祈祷師姿のねずみ男

▲新一

▲コート姿のユメコ

10話　悪魔のメロディー・夜叉

脚本／武上純希　演出／葛西　治、棚沢　隆　作画監督／石黒　育　美術／伊藤信治、金島邦夫

放映日
85.12.14
19.1%
視聴率

▶響ワタル（声優名／古川登志夫）

●YASYA
夜叉
（声優名／槐　柳二）

▶マキ

10話／解説

小学生から熟女教師まで、見境なく見事に口説き落とす響先生。髪の毛が無くても、ギターテクニックと二枚目の顔があればなんとかやっていけるという良いお手本と言っていいのだろうか？

11話　妖怪キツネ白山坊

脚本／大橋志吉　演出／芝田浩樹　作画監督／下田正美　美術／鷲崎　博

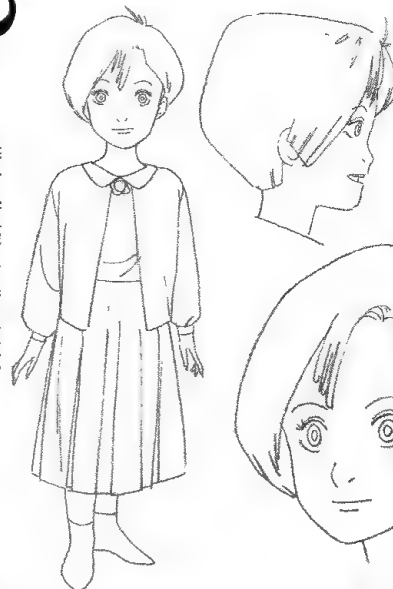
放映日
85.12.21
22.3%
視聴率

11話／解説

物の怪と契約し、富を得るが、理不尽な見返りを要求される…昔話の普遍的な形式の一つではあるのだが、それを取り入れた上、鬼太郎らしい味付けがくわえられているが、ラストは少し物哀しい。

▶春子（声優名／潘　恵子）

●HAKUSAN BOU
白山坊
（声優名／はせさん治）

▼白山坊の身体を乗っ取った蛾

▶正吉（春子の父）

▶愛子（春子の母）

▶16年前の正吉と愛子

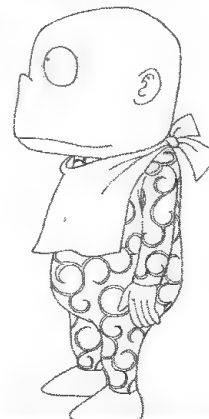
12話　ざしきわらしと笠地蔵

脚本／星山博之　演出／今沢哲男　作画監督／山本福雄　美術／藤田　勉

放映日
85.12.28
24.3%
視聴率

▶呼子

●BINBOUGAMI
貧乏神
（声優名／青野　武）

●ZASHIKIWARASHI
ざしきわらし
（声優名／山本圭子）

横山Pの鬼太郎コラム

や、やりました！「鬼太郎」第1回目の視聴率16・8%、2回目19・5%、3回目21・0%です（いずれもビデオリサーチ）。秋の新番組のなかでは堂々たる第1位にランクされました。スタッフ、キャストの努力はもちろんのこと、関係者各位の応援のおかげ、とただただ感謝！　今回は感謝のついで（？）に、いっしょにプロデューサーをしている木村京太郎氏について。名前からして時代劇に出てくるような人柄を思わせますが、見る人によってはたしかに二枚目。背丈も十分、肉付きも平均的。フットワークよく、紺の背広姿にカバンを肩からかけて歩く姿はバッチリ決まって若い娘をシビレさせる（？）。飲めば酔うほどにロカビリーからロックまでうなって吠える。その間にアニメ論から演劇論までくり広げて、女性たちの気をひく。なんとしても仕事がすきでたまらないらしい。そのへんがスタッフから信頼されている一因でもあるのですが……。念のため、木村氏には奥さまも、かわいい子どももいるのです。／横山賢二（PD／東映動画）

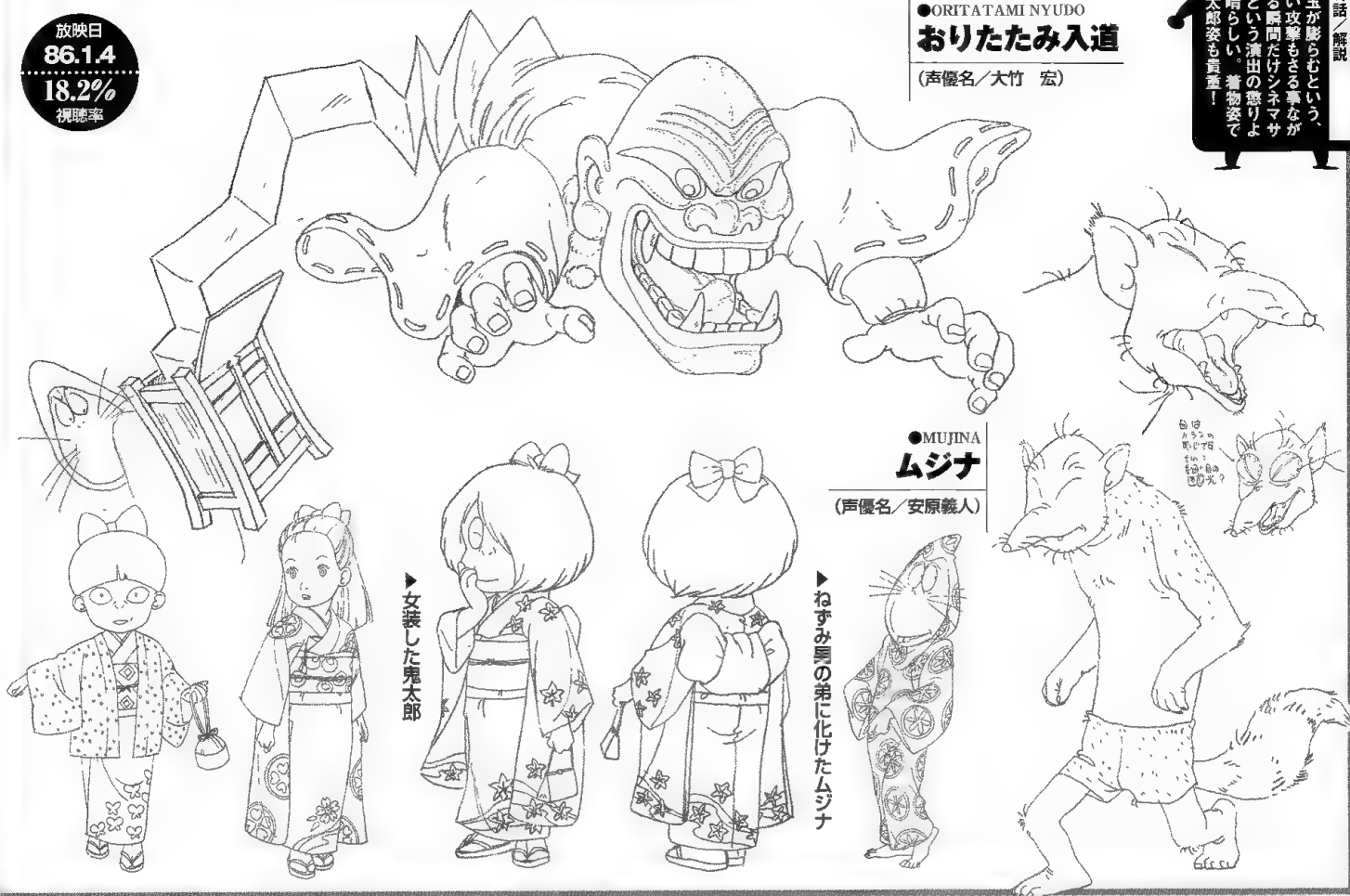
12話／解説

突然、雪深い山奥村が舞台として登場。朴訥としたおじいさん達を格に据えて、民話のような話が進む。傘地蔵の物語をモチーフに、年末にふさわしい季節感を取り入れた回です。

13話 おりたたみ入道

脚本／武上純希　演出／芹川有吾　作画監督／入好さとる　美術／伊藤信治、金島邦夫

放映日
86.1.4
18.2%
視聴率

●ORITATAMI NYUDO
おりたたみ入道
（声優名／大竹　宏）

●MUJINA
ムジナ
（声優名／安原義人）

▶女装した鬼太郎

▶ねずみ男の弟に化けたムジナ

13話／解説
ムジナの金玉が膨らむという、馬鹿馬鹿しい攻撃もさる事ながら、破裂する瞬間だけシネマサイズになるという演出の懲りようがまた素晴らしい。着物姿で女装した鬼太郎姿も貴重！

14話 不老不死!?妖怪さざえ鬼

脚本／武上純希　演出／西沢信孝　作画監督／兼森義則　美術／鷲崎　博

放映日
86.1.11
23.1%
視聴率

●SAZAE ONI
さざえ鬼
（声優名／千葉順二）

▶人魚の子供

▶ニセ鬼太郎

●NINGYO NO BOSU
人魚のボス
（声優名／はせさん治）

▶風の神

▲兼森氏が得意とする漁船

15話 冷凍妖怪・雪ん子

脚本／大橋志吉　演出／小山　崑、福留政彦　作画監督／古川達也　美術／藤田　勉

放映日 86.1.18
22.7% 視聴率

●YUKINKO
雪ん子
（声優名／山田栄子）

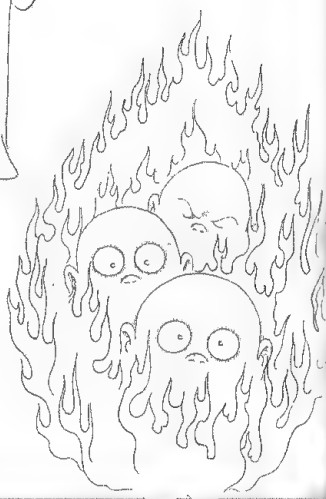
●YUKI ONNA
雪女
（声優名／坪井章子）

●YUKI OTOKO
雪男
（声優名／佐藤正治）

▶防寒服のネコ娘

▶よしお

●BAKEBI
化火
（声優名／田中亮一）

15話／解説

冬の大雪山に氷の妖怪たちが集まった！親子夫婦のように、よくも似たような妖怪がいたものです　この回は「ばーけーびー！」という、登場の際のキメ台詞が可愛いらしい化火が初登場です。

16話 妖怪のっぺらぼう

脚本／星山博之　演出／芝田浩樹　作画監督／山口泰弘　美術／伊藤信治、金島邦夫

放映日 86.1.25
22.3% 視聴率

●NOPPERABO
のっぺらぼう
（声優名／安西正弘）

▲井名野義則（稲野氏がモデル）

▲尾伊川一男（及川氏がモデル）

16話／解説

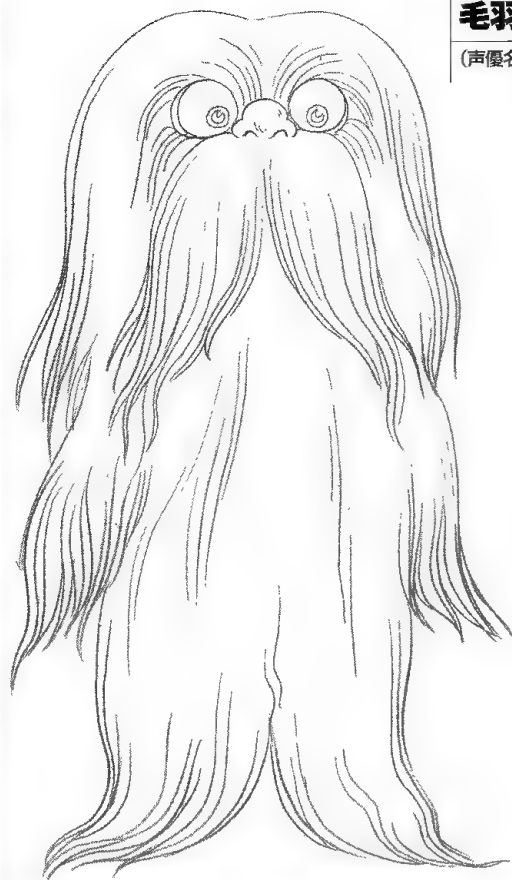
第4話で原始時代へと先祖流しにされたぬらりひょんが時空を超えて大復活！　作監／山口氏の大好きなのっぺらぼうに、スタジオ・バードの及川氏と稲野氏もゲスト出演しての大活躍！

17話　古代妖怪・毛羽毛現

脚本／大橋志吉　演出／石田昌久　作画監督／清山滋崇　美術／鷲崎　博

●KEUKEGEN
毛羽毛現
（声優名／大竹　宏）

放映日 86.2.1
21.6%
視聴率

▶キクちゃん

▶ふらり火

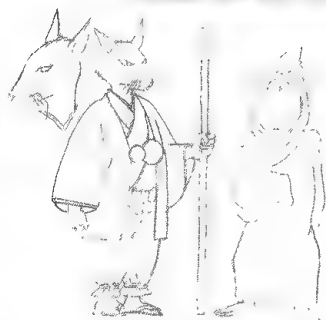
横山Pの鬼太郎コラム

絶好調の「鬼太郎」（視聴率23・3％）のパーティが11月25日、新宿で華やかに催され、水木先生をはじめ、スタッフ&キャストがつぎつぎと紹介され、今後の抱負を語り合いました。会場にはテーマ音楽が流れ、第1話のビデオが放映されるなか、キャストが自分の持ち役で挨拶。視聴率25％をめざして、さらに頑張ろうと誓い合いました。

ところで、正月につづき春のマンガ祭りにも「鬼太郎」が公開されることになりました。題名は「妖怪大戦争」で、現在、脚本（星山博之）が完成、準備に入ったところです。スタッフは演出／葛西治、作画監督／兼森義則、美術／土田勇で、日本の妖怪7人の侍と、西洋の妖怪が真正面から対決します。アクションと笑いと適度に恐怖を散りばめた作品に仕上げようと、みんなでアイディアを出し合って、楽しくやっています。ご期待ください。／横山賢二（PD／東映動画）

18話　妖怪天狐　地底王国の逆襲

脚本／星山博之　演出／棚沢　隆　作画監督／松本　清　美術／藤田　勉

▶野狐

▶空狐の化けた美女

●KUUKO GONINSYU
空狐五人衆
（声優名／塩沢兼人、塩屋　翼など）

●TENKO
天狐
（声優名／増山江威子）

放映日 86.2.8
25.4%
視聴率

18話／解説

一対一での戦いを提案し、敗れると約束通り引き下がる。そんな天狐の潔さは、ぬらりひょんとは全く違った悪の華を咲かせている。敵ながら喝采を送りたくなる格好よさだ！

19話　ゆめ妖怪まくらがえし

脚本／武上純希　演出／今沢哲男　作画監督／山本福雄　美術／山本善之

放映日
86.2.15
23.1%
視聴率

19話／解説

鬼太郎版「エルム街の悪夢」―夢と現実が地続きになると、何でもありの夢の世界への恐怖は一段とはね上がる。そんな恐怖を払拭する機能として、貘という妖怪がいるのかもしれない。

●MAKURAGAESHI
まくらがえし
（声優名／屋良有作）

▶貘

●MABOROSHI NO HAHA
幻の母
（声優名／高坂真琴）

▼母の化身

20話　半魚人の恋

脚本／武上純希　演出／芹川有吾　作画監督／入好さとる　美術／鷲崎　博

放映日
86.2.22
24.5%
視聴率

▶背広姿の半魚人

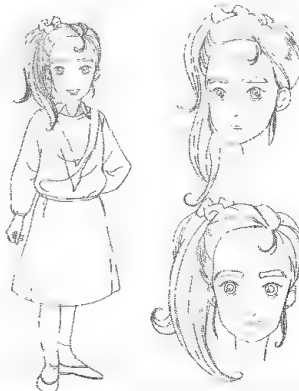
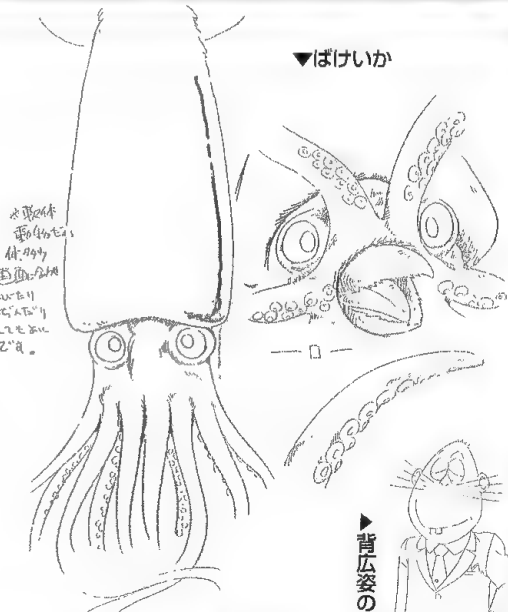
▼ばけいか

▶背広姿のネズミ男

▶人間になった半魚人

▶茜

●HANGYOJIN
半魚人
（声優名／はせさん治）

20話／解説

人間に恋をし、人間に生まれ変わった半魚人を待っていたのは、苦しい仕事の毎日。やっぱり学校も仕事も無い妖怪の世界が一番という、水木先生の教えが正しいんですよね…。

21話／解説

あれだけ大事にしている自分のおやじをコマにするか鬼太郎!? それってちょっとルール違反っぽくない？ それはさておき、子供の足の皮を食べる妖怪が意外と強いというのも面白い。

21話 コマ妖怪あまめはぎ

脚本／並木 敏 演出／白上 武、山寺昭夫 作画監督／清水 明 美術／藤田 勉

放映日 86.3.1 23.2% 視聴率

●AMAMEHAGI
あまめはぎ
（声優名／槐 柳二）

▲常態のあまめはぎ

▶スーパーあまめはぎ

22話 いじわる妖怪天邪鬼

脚本／大橋志吉 演出／芝田浩樹 作画監督／松本朋之 美術／山本善之

放映日 86.3.8 24.2% 視聴率

▶石の風車

●AMANOJYAKU
天邪鬼
（声優名／峰 恵研）

▶源次

▶健太くん

横山Pの鬼太郎コラム

みなさん、正月はいかがお過ごしでしたか。ボクはパパやママたちといっしょに、しばらくぶりで妖怪の国に帰り、楽しく遊んできました。子泣き爺はよく酒を飲むし、パパも酒風呂やウイスキー風呂で最高にゴキゲン。一反木綿はタコ上げ大会で自分で舞い上がって優勝しました。そして最後の日には、それぞれの妖怪のテーマを、エンマ大王の前で歌ってあげました。このテーマは3月25日に徳間ジャパンから発売される予定です。

ところで、今日はフジテレビの清水賢治PDを紹介します。この人、マジメで、アイディアマンで、仕事がすきで、ときには朝帰り（?）をしても平気で出社して、また働きます。そのくせ打ち合わせの時間にはほとんど遅れます。独身をいいことに時間を忘れて、スナックで横文字の歌を歌っては女性から注目を集めますが、ただそれだけで、そこから先発展したというウワサは聞いた事がありません。でもこの人はすばらしい感性の持ち主（?）で、テレビ界のホープかハイライトであることは、まちがいなさそうです。／横山賢二（PD／東映動画）

23話 電気妖怪かみなり

脚本／武上純希　演出／石田昌久　作画監督／山口泰弘　美術／鷲崎 博

放映日 86.3.15
25.0% 視聴率

●KAMINARI
かみなり
（声優名／郷里大輔）

▶雨山博士

▶コウ

▶ムギコ

24話 子供が消える!?妖怪うぶめ

脚本／山崎晴哉　演出／西沢信孝　作画監督／清山滋崇　美術／藤田 勉

放映日 86.3.22
29.6% 視聴率

▲うぶめの羽

▲うぶめ石を探すねずみ男

●UBUME
うぶめ
（声優名／杉山佳寿子）

▶村山

▶秀夫

▶ツネ子

▲うぶめ石

24話／解説

ねずみ男が余計な事をするおかげで、眠っていた妖怪が暴れ出すのは、最早鬼太郎80sの黄金パターン。うぶめとの戦闘中、母親の事を持ち出され、涙目になって説得を試みる鬼太郎がかわいい。

25話　妖怪ぶるぶる

脚本／武上純希　演出／棚沢 隆　作画監督／金子康良　美術／山本善之

放映日 86.3.29
22.2% 視聴率

▶駐在さん

●BURUBURU
ぶるぶる
（声優名／中谷ゆみ）

▶源じいさん

ユメコちゃんの入浴シーンは必見！

横山Pの鬼太郎コラム

みなさん、元気ですか。なに!?春休みが待ち遠しいって。そうそう春休み劇場用「ゲゲの鬼太郎／妖怪戦争」も急ピッチで追い込んでますぞ！今回は時間も45分になり、音楽も大編成で新しくとり、声優も個性派ぞろいの芸達者。そのなかでも特に美術に注目してほしい。葛西監督と「メモル」のときに組んだ土田デザイナーが、すばらしい設定と、彼独特の世界を見せてくれます。

それから声優さんが歌っている挿入歌（LP）が、いよいよ3月5日に徳間ジャパンから発売されます。戸田恵子さんをはじめとして富山敬さん・永井一郎さん・田の中勇さん・八奈見乗児さん、それに悪の妖怪たちの歌として大竹宏さん・佐藤正治さん・難波圭一さんたちも参加しています。歌のアタマにコメントもついていて、楽しく愉快な、そしてちょっぴりセンチな歌も入っています。ぜひいちど聞いてください。／横山賢二（PD／東映動画）

25話／解説

ねずみ男の策略で温泉宿にやってきた天童家。そこで、ぶるぶるに襲われてガードレールをぶちやぶり、車を大破した一家の妖怪なみの不死身っぷりも見どころの一つです。

26話　おばけナイター

脚本／星山博之　演出／今沢哲男　作画監督／山本福雄　美術／鷲崎 博

●MANMOSU OTOKO
マンモス男
（声優名／屋良有作）

放映日 86.4.5
26.0% 視聴率

●HUKU NO KAMI
福の神
（声優名／大竹 宏）

▶からかさ小僧

▶がんぎ小僧

▲万年

▶スタジオジュニオの謎に満ちた設定資料！

27話 妖怪ふくろさげ

脚本／大橋志吉　演出／芝田浩樹　作画監督／入好さとる　美術／藤田　勉

●HUKUROSAGE
ふくろさげ
（声優名／青野　武）

▶オサム

▶アキラ

●ENMA DAIOU
エンマ大王
（声優名／郷里大輔）

放映日
86.4.12
24.4%
視聴率

27話／解説
妖怪エネルギーをふくろさげに吸われて、ぺらぺらになってしまったからといって、仲間達を洗濯ばさみでぶら下げるか鬼太郎!? しかもおやじまで！妖怪エネルギーをもらいに地獄へ旅立ち、エンマ大王が初登場！

28話 田を返せ！！妖怪泥田坊

脚本／山崎晴哉　演出／白土　武、山寺昭夫　作画監督／清水　明　美術／鷲崎　博

放映日
86.4.19
25.6%
視聴率

●DOROTABOU
泥田坊
（声優名／塩屋浩三）

▶右より、山中さん、山中婦人、健太

横山Pの鬼太郎コラム

「ゲゲゲの鬼太郎」絶好調!! 平均視聴率も23%を突破しています。4月には「おばけナイター」（4／5）「妖怪ふくろさげ」（4／12）「妖怪泥田坊」（4／19）と、強力な作品がつづきます。また視聴率アップまちがいないでしょう。

ところで「春のまんが祭り」の「妖怪大戦争」はご覧になりましたか？ すばらしい出来映えになっていたと思いますが、満足していただけましたでしょうか。私のところにもたくさんのおほめのことばが届いています。それに気をよくしたわけではありませんが、夏休みにはやくも「鬼太郎」をとの声をバックに、再々度上映することが決定しました。現在、シナリオライターの星山博之氏が執筆に入っております。3月20日ころには決定稿になります。時間は約50分の予定。素材は妖怪反物を中心に、いくつかのエピソードをアレンジして娯楽色の強い作品にしたいと思っています。楽しみに待っていてください。／横山賢二（PD／東映動画）

28話／解説
あまりにも気持ち悪いデザインの泥田坊。数で押し寄せる姿はもちろん、でかくなった姿も気持ち悪い！さらに新幹線よりも早く走るその姿は、恐怖以外のなにものでもありません。

29話 妖怪ひでり神

脚本／武上純希　演出／芹川有吾　作画監督／松本朋之　美術／伊藤雅人

放映日 86.5.3
21.9% 視聴率

●HIDERIGAMI
ひでり神
（声優名／はせさん治）

▶森田ヨシミツ君

▶森田さん

▲野づち

▲妖怪ホバークラフト

▲老化したひでり神

▲炎と化したひでり神

29話／解説
漫画家を目指すひでり神っていうシチュエーションだけで、もうお腹いっぱいです。ねずみ男にそそのかされたからとはいえ、その気になってベレー帽までかぶっている姿は健気です。

30話 妖怪見上げ入道

脚本／星山博之　演出／石田昌久　作画監督／山口泰弘　美術／藤田　勉

▲妖怪学校の生徒たち

▶比較図

▶猫

▲ユメコとクラスメイトの林間コスチューム

●MIAGE NYUDOU
見上げ入道
（声優名／田中康郎）

放映日 86.5.10
22.3% 視聴率

31話／解説
見上げ入道が無理矢理入門させた妖怪学校の生徒は、牛だのねずみだの、動物ばっかり！　いったい、見上げ入道は動物達をどんな妖怪に育てあげたかったのか……。謎は尽きない。

31話　オベベ沼の妖怪

脚本／大橋志吉　演出／芝田浩樹　作画監督／松本勝次　美術／鷲崎　博

放映日
86.5.17
21.8%
視聴率

▶若杉の母

▶若杉の父

▶ユメコの田植えスタイル

●KAWAUSO
かわうそ
（声優名／小宮山清）

▲かわうその変身

横山Pの鬼太郎コラム

「鬼太郎」スゴイ!! 3月末で視聴率29・6%に到達。30%に迫る勢いなのだ！　5月にはさらに強力な作品が並び、新BGMや挿入歌も流れ、妖怪総出演も考えているので、まったく楽しみです。
劇場のほうは星山脚本が上がり、作画に突入して順調。スタッフは監督に芹川有吾、作画監督に山口泰弘、美術監督に内川文広と最強メンバーがそろいました。音楽は川崎真弘氏がノリにノって、はやくも「鬼太郎音頭」をテクノ調で、今年の盆踊りはこれにキマリ！　の感じです。作品の後半でこの曲に合わせて人間と妖怪が踊るのでお楽しみに。
なお、この曲（A面）を歌っているのは鬼太郎本人の戸田恵子さんで、B面はユメコの色川京子さんが、可憐な感じで「オ・ト・メ・チックな恋」を絶唱しています。ぜひ、きいてみてください。レコード発売は映画のはじまる前の6月25日を予定しています（徳間ジャパン）。／横山賢二（PD／東映動画）

31話／解説
同じような孤独と、ひねくれ心を持っているねずみ男とかわうそ。二人の間で生まれる歪んだ友情が美しすぎます。切なくて寂しい、嫌われものならではの生きざまです。でも嫌がらせはダメ！絶対！

32話　鬼太郎危うし！妖怪大裁判

脚本／武上純希　演出／明比正行　作画監督／清山滋崇　美術／藤田　勉

放映日
86.5.24
22.9%
視聴率

●DAI TENGU
大天狗

▶ろくろ首

▲ばけがらす

KARASU TENGU
カラス天狗

●MOMON JI
百々爺
（声優名／今西正男）

▲牛鬼

▶手の目

▶小豆洗い

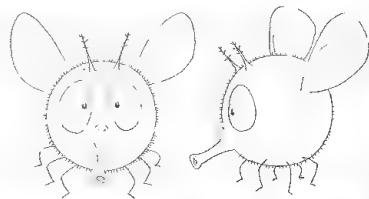
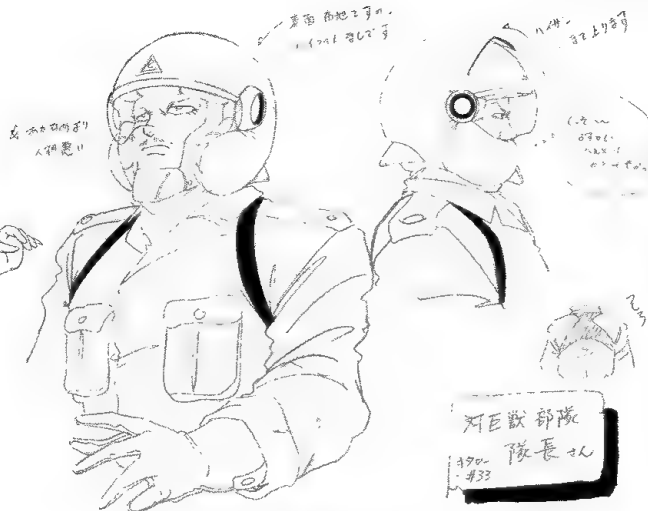
▲妖怪大裁判に登場する妖怪たち

32話／解説
百々爺の策士っぷりに脱帽！一度、ぬらりひょんとタッグを組んで欲しかった。強気を助け弱きをくじく、ねずみ男っぷりも最高で、前回のオベベ沼の回での感動が無かった事に。

33話　妖怪あかなめ　哀しみの逆襲

脚本／星山博之　演出／永丘昭典、今沢哲男　作画監督／平田かほる　美術／鷲崎　博

放映日 86.5.31
20.3% 視聴率

●BUNTA HAKASE
ブン太博士
（声優名／龍田直樹）

▶あかなめ

▲対巨獣部隊　隊長さん

▼バイク

横山Pの鬼太郎コラム

みなさん元気ですか？　6月放送分から予告編20秒のBGMが変わったのを知ってますか？　なに、知ってるって!?　さすが「鬼太郎」の大ファン。この音楽が夏の劇場版（7月21日封切）で、人間と妖怪が踊りまくる挿入歌なのです。タイトルは「鬼太郎音頭」。歌っているのが戸田恵子さんで、合の手を入れているのが富山敬・田の中勇・三田ゆう子さんです。発売は徳間ジャパンから6月25日。踊り方もついているので、参考にして踊り狂ってください。

さて、今日は第34話「ばけ猫国道0号線」（6／14放送）について―。この作品は“魔の0号線”で、つぎつぎと自動車が事故を起こし、運転手が原因不明の奇病にとりつかれるというミステリアスな作品です。この作品の下敷きとなっているのが、スピルバーグの「激突」。演出の芝田くんが何度もビデオを見て、そのふんいきをとり入れ「鬼太郎」流に消化してくれました。さすがに勉強家で、その柔軟な感性には感心します。見てね!!／横山賢二（PD／東映動画）

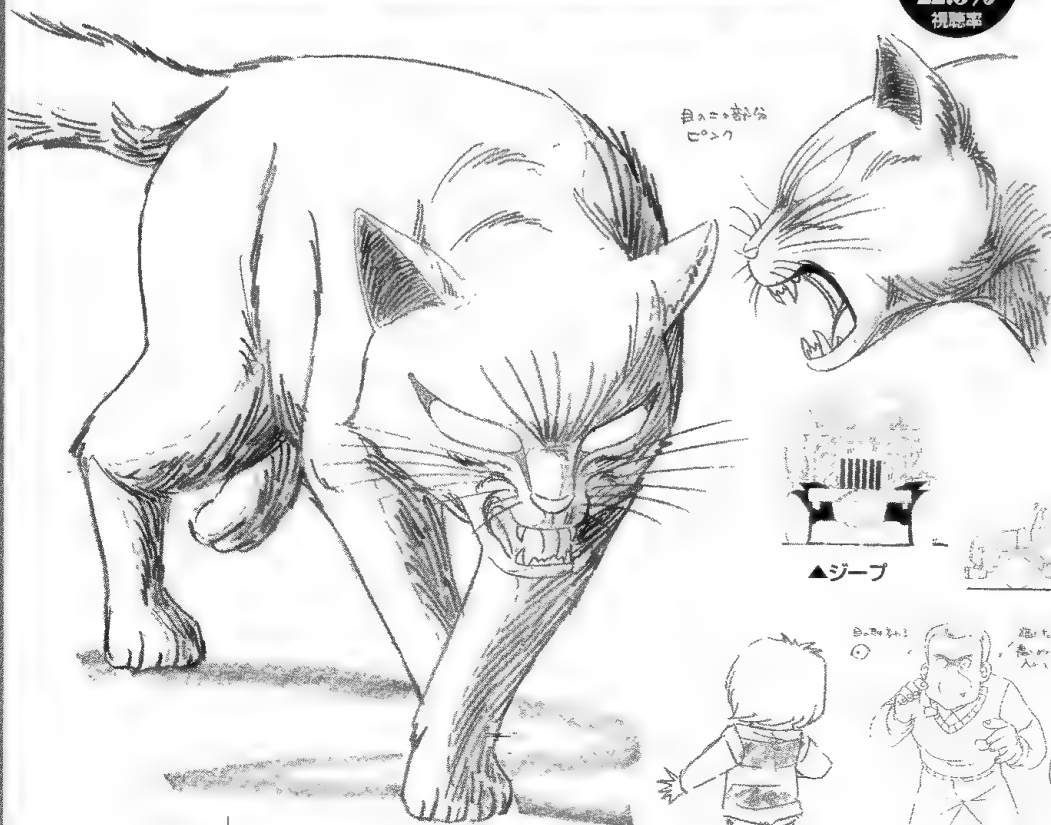
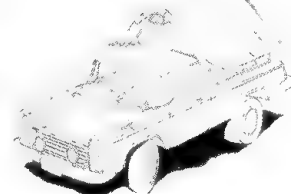
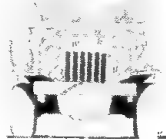
34話　ばけ猫国道0号線

脚本／星山博之　演出／芝田浩樹　作画監督／入好さとる　美術／藤田　勉

放映日 86.6.14
22.5% 視聴率

▲タンクローリー

▲霊柩車

▲ジープ

●BAKE NEKO
ばけ猫
（声優名／京田尚子）

▲猫うち症にかかった健二のお父さん

34話／解説

ダイナミックなカーチェイスのこだわりがとにかくスゴイ！　上の横山Pの鬼太郎コラムでも触れられているように、演出の芝田氏の、研究熱心さには、とにかく頭がさがります。

35話 妖怪赤舌の千年王国

脚本／大橋志吉　演出／葛西 治　作画監督／松本朋之　美術／鷲崎 博

35話／解説

ねずみ男みたいな臭い男のどこがそんなに気に入ったのか、猛烈なアタックを仕掛け続ける骨女が初登場！この二人の小悪党はコンビで何度か活躍し、とてもいい味をだしています。

放映日 86.6.28
25.3% 視聴率

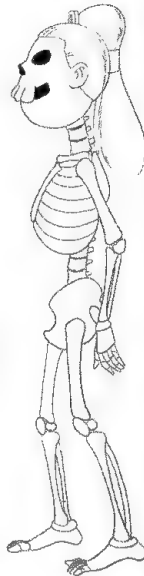
▲天火

▶姥火

▲海月の火玉

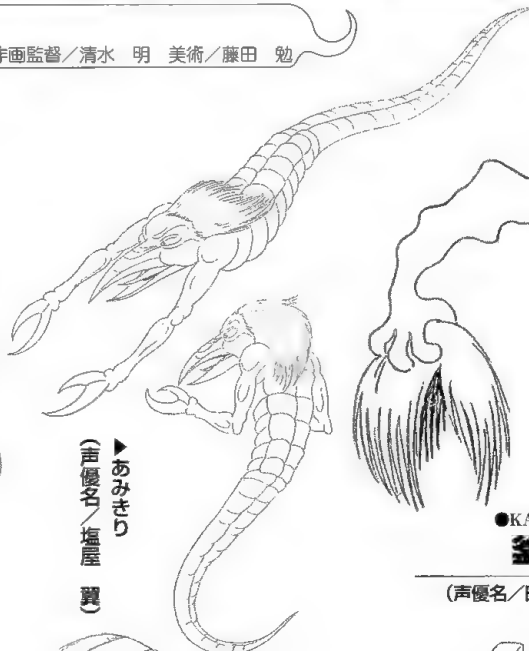
▲つるべ火

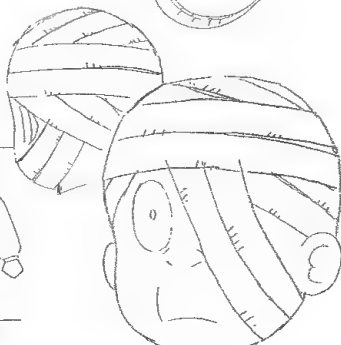
▲つるべ落とし

●HONE ONNA
骨女
（声優名／弥永和子）
〔35話のみ松島みのり〕

●AKASHITA
赤舌
（声優名／屋良有作）

36話 異次元妖怪かまなり

脚本／武上純希　演出／山寺昭夫　作画監督／清水 明　美術／藤田 勉

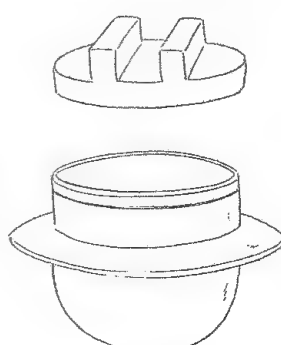
▶あみきり
（声優名／塩屋 翼）

●KAMANARI
釜なり
（声優名／田中康郎）

▲かみきり

放映日 86.7.5
24.7% 視聴率

36話／解説

髪の毛を奪われ、ツルッパゲになった鬼太郎の姿は、頭皮に悩みを持つ男達は涙なくしては見られません！鬼太郎に似合う髪型を描きあいっこするネコ娘とユメコちゃんは、本当に大きなお世話です！

▲かまなりに閉じ込められた子供たち

▲髪の毛を奪われた鬼太郎

▲かまなりの住む釜

37話　妖怪おどろおどろ

脚本／星山博之　演出／石田昌久　作画監督／松本勝次　美術／丸森俊昭

放映日
86.7.12
22.8%
視聴率

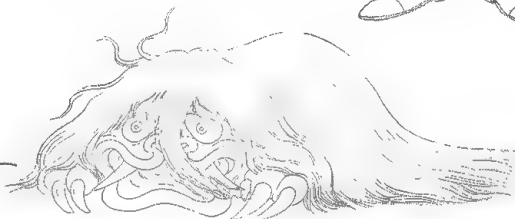
●ODOROODORO
おどろおどろ
（声優名／北村弘一）

▼隆（声優名／塩沢兼人）

▶隆の父

▲シャーロック・ビビビのねずみ男

37話／解説

正統派ホラー調の回。人間がその行い次第で姿形が変わり、妖怪化してしまうという所に恐ろしさがある。親を思って悪事に手を染める、息子の心情が哀しい…。ちなみにユメコ誘拐現場は、東映撮影所前です。

38話　タタリだ〜!?妖怪土ころび

脚本／大橋志吉　演出／生頼昭憲　作画監督／稲野義信　美術／鷲崎　博

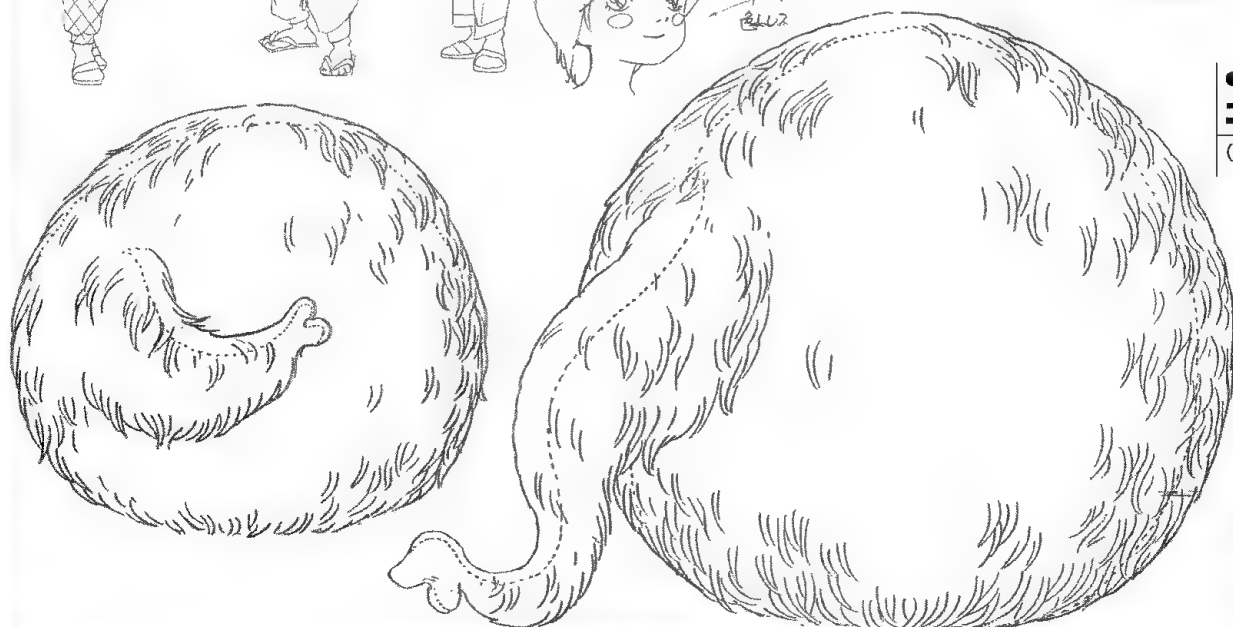
▶お母さん

▶婆さん

▶お父さん

▶君子ちゃん

▲新山田村の人たち

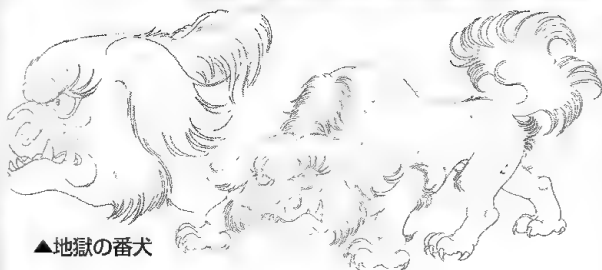
●TUCHIKOROBI
土ころび
（声優名／槐　柳二）

放映日
86.7.19
20.4%
視聴率

38話／解説

スタジオ・バードの稲野氏作画によるゲストキャラ・君子ちゃんがかわいい。また、彼女が劇中で遊んでいるゲームはファミコンゲーム『妖怪大魔境』！これは難易度の高いゲームで当時は苦労しましたね。

39話 三途の河のだつえばばあ

脚本／武上純希　演出／明比正行　作画監督／入好さとる　美術／藤田 勉

39話／解説

女としての美しい青春を願っただつえばばあが、男たちを地獄へと連れ去る。色街を舞台にちょっぴり大人な鬼太郎ストーリーが楽しめる回。鬼太郎を助けようと奮闘するネコ娘が可愛らしいです。

▲地獄の番犬

▶きめてるねずみ男

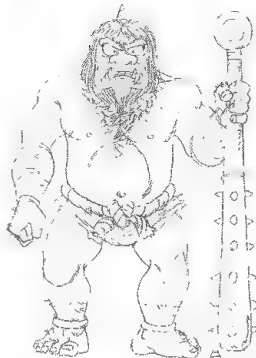
▶だつえばばあの変身した美女

▶赤鬼

▶黄鬼

▶青鬼

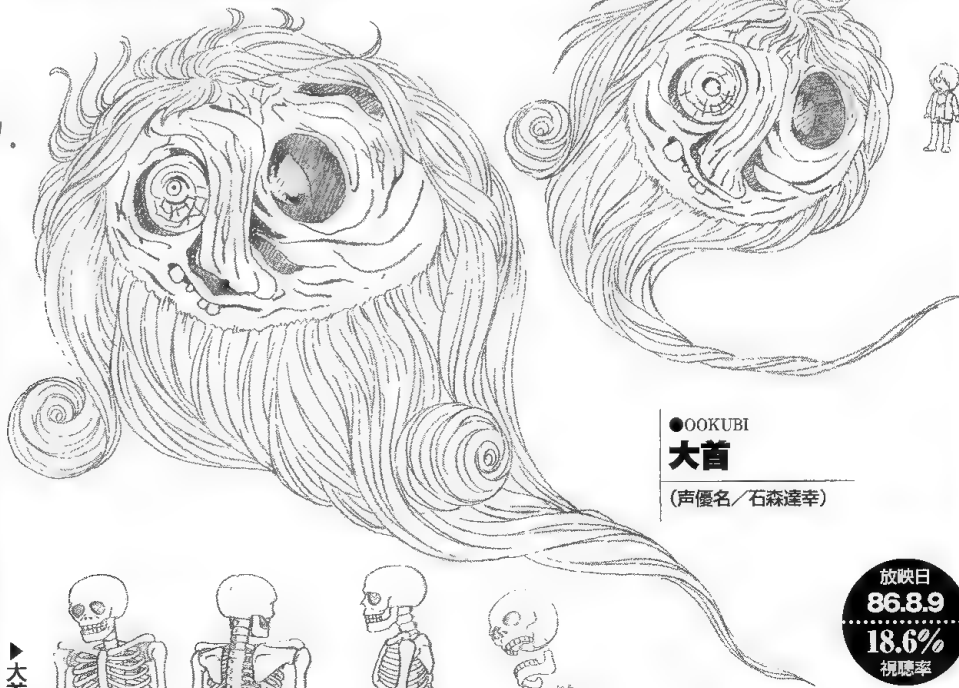
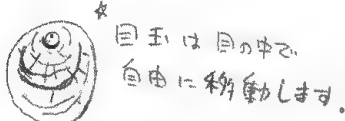
▶黒鬼

▶又五郎鬼と亡者

●DATUE BABAA
だつえばばあ
（声優名／増山江威子）
［110話／鈴木れい子］

放映日 86.8.2
20.7% 視聴率

40話 富士山大噴火!?妖怪大首

脚本／大橋志吉　演出／今沢哲男　作画監督／平田かほる　美術／鷲崎 博

目玉は目の中で自由に移動します。

横山Pの鬼太郎コラム

いよいよ劇場の「鬼太郎」の封切日（7月12日）が近づいてきました。6月21日のタバックでのアフレコのときは、それはそれはたいへんでした。なにしろレギュラーのほかに妖怪が40体近くも登場するので、マイクを4本立てても間にあわないほどの混雑ぶり。

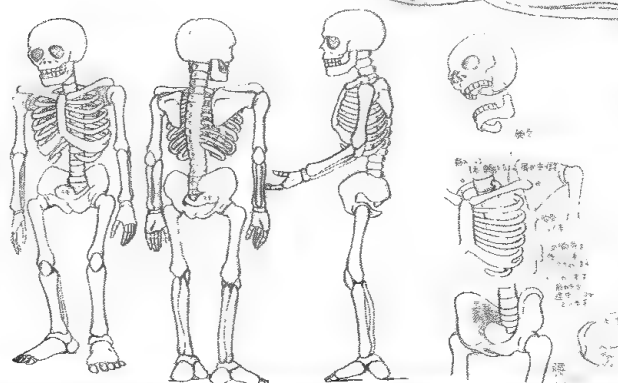
注文をつける監督の芹川さんは声優さんのなかで見え隠れしているありさま。鬼太郎の戸田さんは、地方巡業の芝居から、当日飛行機でカランコロン（?）と駆けつけました。

ネズミ男の富山さんは、アドリブの連発で爆笑の渦。目玉の田の中さんはほかの妖怪にぶつかり、踏みつぶされそうになって、カン高い声で絶叫。そのなかを悠然と泳いで声を当てているのが一反木綿の八奈見さん。突然下のほうから「ぬりかべー」の屋良さん。ほかの妖怪を整理・指導している子泣きの永井さん。砂をまくかわりに、お茶やお菓子をまきちらしている砂かけの江森さん…。楽しい楽しいアフレコ風景でした。／横山賢二（PD／東映動画）

●OOKUBI
大首
（声優名／石森達幸）

▶大首があやつるがいこつ

放映日 86.8.9
18.6% 視聴率

40話／解説

ねずみ男と骨女の小悪党コンビが再び活躍。凛とした演出の中、巨大な姿で浮かび上がる大首のデザインは、とにかく醜悪な上、キノコだらけになって敗北する姿も不気味でまさに見応え抜群！

41話 激戦！妖怪関ヶ原

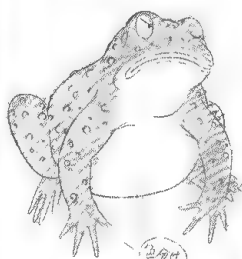
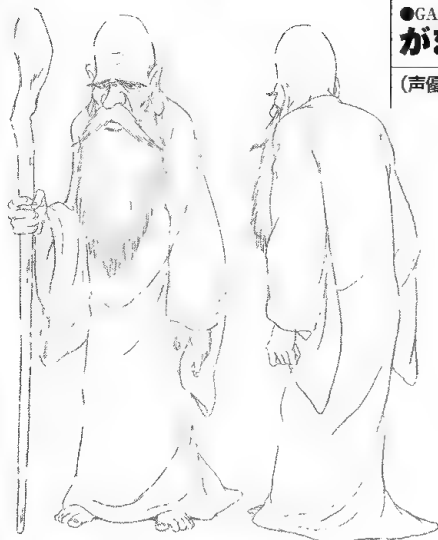
脚本／武上純希　演出／葛西　治　作画監督／清山滋崇　美術／藤田　勉

放映日 86.8.23 22.6% 視聴率

●GAMA SENNIN
がま仙人
（声優名／青野　武）

●JYAMI
邪魅
（声優名／銀河万丈）

41話／解説

ユメコちゃんとのデート前に、髪をとかして色気づく鬼太郎が可愛い。更にユメコちゃんのイメージソング『オ・ト・メ・チックな恋』のプロモーション映像が、なんとも強烈でこれは必見です！

▼目玉のおやじがま

▲鬼太郎がま

▲がまねずみ男

▲がま邪魅

▶鬼太郎の鏡とヘアブラシ

▼封印石

42話 妖怪牛鬼

脚本／星山博之　演出／石田昌久　作画監督／松本朋之　美術／鷲崎　博

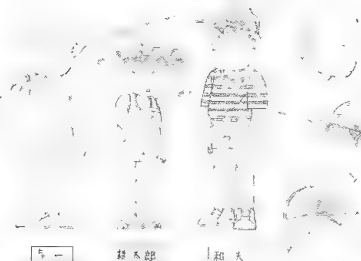
放映日 86.8.30 21.5% 視聴率

●KARURA SAMA
迦楼羅さま
（声優名／内海賢二）

●GYUUKI
牛鬼

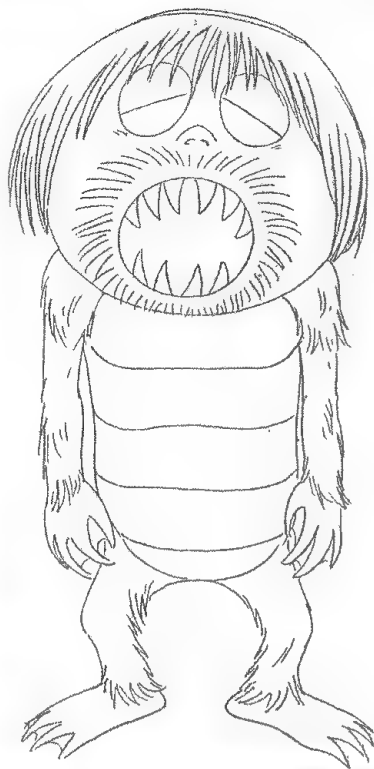
▶忠吉

▶サブ

▶与一、耕太郎、和夫

43話　さら小僧　妖怪歌謡大賞

脚本／武上純希　演出／白土　武　作画監督／清水　明　美術／藤[illegible]　勉

放映日
86.9.6
24.7%
視聴率

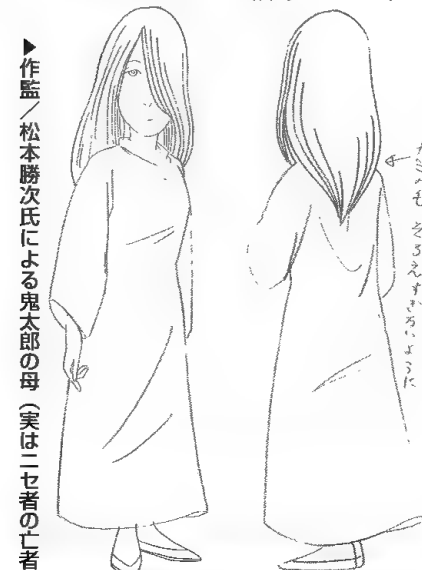
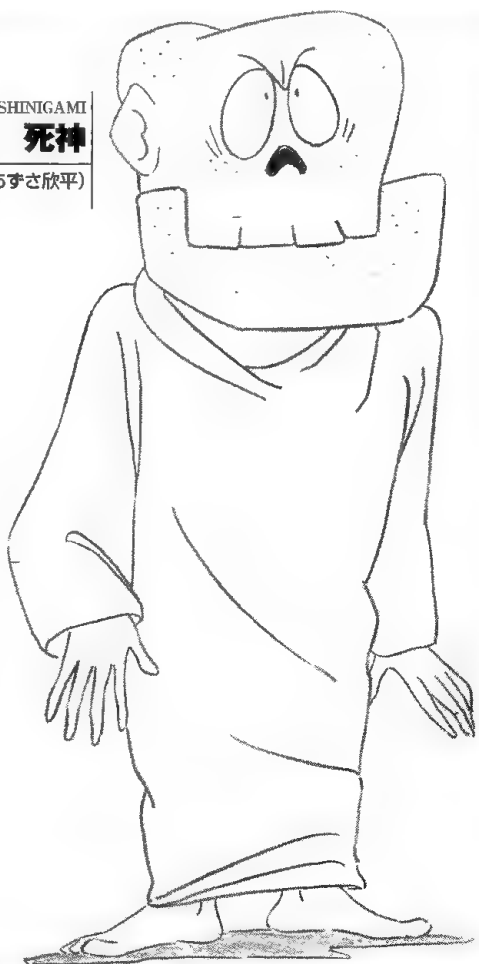
●SARA KOZOU
さら小僧
（声優名／古谷　徹）

▶ボブ・タケシ
▶ヒロシ
▶キヨシ
▶小堺
▲ウタコ
▶カンキチ
▶エンコウ
▶ミンツチ

44話　あの世からの使者死神

脚本／大橋志吉　演出／生頼昭憲　作画監督／松本勝次　美術／鷲崎　博

放映日
86.9.13
26.8%
視聴率

▶実際に使われる事はなかった、兼森氏による鬼太郎の母の初期設定。

●SHINIGAMI
死神
（声優名／あずさ欣平）

▶作監／松本勝次氏による鬼太郎の母（実は二セ者の亡者）

横山Pの鬼太郎コラム

なんといっても絶好調なのです！　セットインが50％前後なのに第35話（6／28放映）では25・3％の視聴率をマーク。映画のほうもヒットして、冬休みも劇場公開が決定したのです。スタッフは芝田監督をはじめとして、新鋭でバッチリ固めるつもりです。
さて、今月は第43話「さら小僧・妖怪歌謡大賞」（8／30放映予定）について触れてみます。ストーリーは鬼太郎対さら小僧のおもしろおかしい対決になっていますが、見どころは挿入歌が2曲入り、たっぷりと楽しめることです。1曲は『闇夜に気をつけろ』で、声優さんがトリオで歌っています。大竹宏・佐藤正治・難波圭一のメンバーで、すごい迫力です。もう1曲は『100％妖怪CAT』で、おニャン子クラブもマッサオ！　野宮真貴がのりにのって歌っています。この作品は挿入歌に合わせて脚本家の武上くんが苦労して書き上げたものなので、お楽しみに。／横山賢二（PD／東映動画）

45話　妖怪花を救え！！

脚本／星山博之　演出／明比正行　作画監督／稲野義信　美術／藤田　勉

放映日 86.9.20　26.4%視聴率

●YOUJINBOU
用心棒
（声優名／池水通洋）

◀ぬらりひょんに雇われた用心棒。名前はあしまがり

●YOUKAI KA NO SEI
妖怪花の精
（声優名／島本須美）

▶ホテルの主人

▶女性レポーター

▶妖怪ホテルに勤めるねずみ男

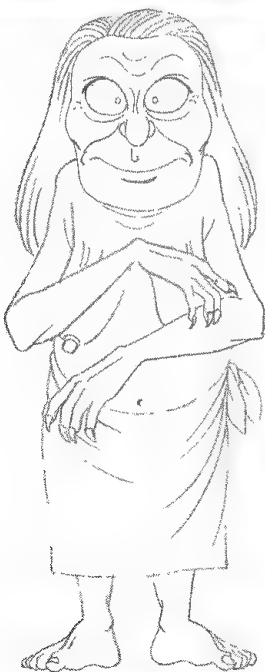
横山Pの鬼太郎コラム

夏休みいかがお過ごしでしたか。ボクはゲゲゲの森で仲間の妖怪たちと泳いだり、虫を採ったりしながら、楽しく遊んだんだ。特におもしろかったのは、人間たちが盆踊り大会にやってきて、人間が妖怪に、妖怪が人間に変装して踊り明かしたこと。

さて、先月もお知らせしたように、冬休みの「まんが祭り」に、またまたボクが登場するんだ。現在、映画に初挑戦の武上さんの脚本が上がり（この人の体形はボクに似ている）、芝田監督が夜も眠らず（はじめての赤ちゃんをあやしながら…。男の子誕生おめでとう！）、資料の山に埋もれながら絵コンテを切ってるんだ。

キャラ設計は新鋭の入好さんだが、若さにまかせてネバリにネバって一味ちがったキャラを完成してくれた。美術は「北斗の拳」でおなじみの田中デザイナー。舞台の中心になる国会議事堂から赤坂・六本木のハンティングが終わり、イメージボードにとりかかっているところだけど、あの恐ろしい怪現象には目を見張るものがあるゾ！（原作「朧車」より脚色）　スタッフ一同、頑張っています。楽しみに待っていてください。／横山賢二（PD／東映動画）

放映日 86.9.27　27.7%視聴率

●SOUZUKA BABAA
葬頭河婆
（声優名／山本圭子）

▶若返った葬頭河婆

▶人間に化けたこうもりねこ

●KOUMORI NEKO
こうもりねこ
（声優名／矢田耕司）

46話／解説

謎の玉手箱によって老化した鬼太郎ファミリーや、逆に若返った葬頭河婆など、見所も多数の回。アニメ本編では唯一老化しなかったネコ娘にも、老化バージョン設定がありました。

46話 妖怪大統領こうもり猫

脚本／大橋志吉　演出／葛西　治　作画監督／入好さとる　美術／鷲崎　博

横山Pの鬼太郎コラム

放映開始が去年の10月ですから「鬼太郎」もちょうど1年経過したことになります。この間のみなさんのご声援に、改めてお礼を申し上げます。

おかげさまで視聴率も夏場でも平均20％以上を維持し、おとなの週刊誌や商業誌でも特集を組むほどのブーム。盆踊りには「鬼太郎音頭」が流れたところもあると聞いています。シナリオライターとそんな話をしていたら、この1年間の反省と今後の展開のために、泊まりこみでブレーンストーミングをやるべきだという意見が飛び出し、うまくのせられたのか、だまされたのか、急に湯河原に1泊旅行に行くことになってしまいました。メンバーは星山・武上・大橋のレギュラーライター各氏と、私をアシスタントすることになった新人・吉田くん、そして私の5名。宿に着き、さっそく目玉オヤジと同じくひと風呂浴びようと思ったら、テーブルに単行本、週刊誌の切り抜き、妖怪辞典などを広げ「鬼太郎のヒットの原因と、これからの方向性についてどうぞ」だって！　まったく失礼な話です……。しかし、仕事熱心なライター各氏が「鬼太郎」を支えているんだと考え、泣く泣く仕事にとりかかったのであります。しかも、食事をはさんで深夜までこれがつづくんだから…。　この妖怪ライターたち覚悟しておけ！　このかたきはきっと脚本でとってやる!!　でも、本当にご苦労さまでした。／横山賢二（PD／東映動画）

47話　妖怪のびあがりと吸血木

脚本／武上純希　演出／今沢哲男　作画監督／平田かほる　美術／藤田　勉

放映日
86.10.4
24.6%
視聴率

▶杉作（声優名／塩沢兼人）

▶松代（声優名／潘　恵子）

▶チェーンソー

●NOBIAGARI
のびあがり
（声優名／田中康郎）

▶吸血木

47話／解説
形があるようで無い、のびあがりのデザインは非常に秀逸です。人間の体が木になってしまうというのもインパクト大ですが、木になってしまった松代を撫でさすっては語りかける杉作の情熱が、むしろ恐ろしい！

48話　妖怪いやみ

脚本／星山博之　演出／石田昌久　作画監督／松本朋之　美術／鷲崎　博

●IYAMI
いやみ
（声優名／飯塚昭三）

放映日
86.10.11
26.1%
視聴率

▶通常は女装姿

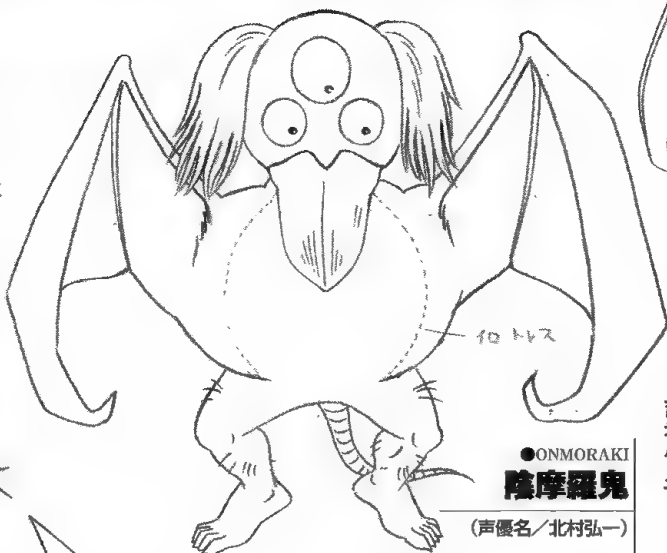
▲いやみ（本体）弱点はキャン玉！

48話／解説
いやみ先生の色ボケ術にかかり、ユメコを奪いあって殴り合う鬼太郎とねずみ男。なんと勝利するのは、必殺の一撃を放ったねずみ男だった！　いやみの弱点の金玉を踏みにじる鬼太郎は容赦がない！

49話 妖怪殺人事件おんもらき

脚本／武上純希　演出／明比正行　作画監督／山口泰弘　美術／藤田　勉

49話／解説

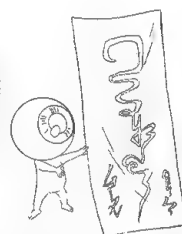
第3話で使われた封印術が再び登場。伊豆の別荘のバルコニーで見つめ合う、鬼太郎とユメコの恋のアバンチュールや、加藤刑事をはじめ、探偵姿に扮したねずみ男や鬼太郎など、遊び心が面白い。

●ONMORAKI
陰摩羅鬼
（声優名／北村弘一）

▶吉永ルリ子

▶伊集院

▶加藤刑事

▶金田一耕助にふんした鬼太郎

▶魔除けの札

▶ねずみ男のホームズ姿

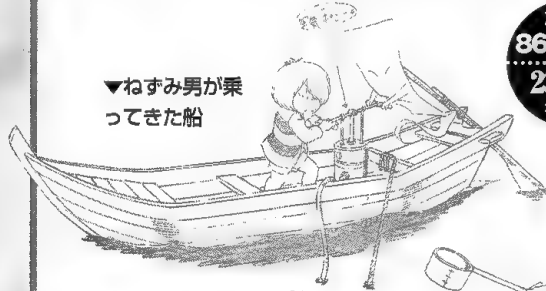
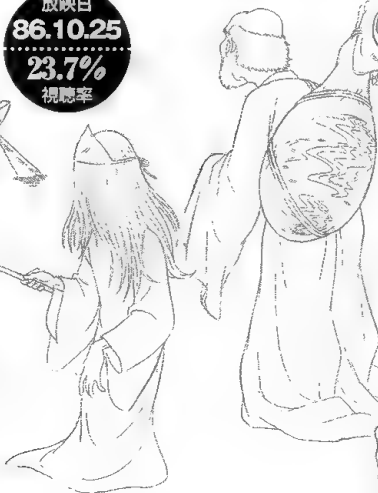
おんもらきの魂

放映日 86.10.18
28.1% 視聴率

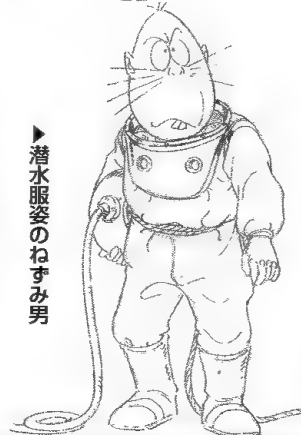
50話 妖怪海座頭の怒り

脚本／大橋志吉　演出／生頼昭憲　作画監督／清山滋崇　美術／鷲崎　博

放映日 86.10.25
23.7% 視聴率

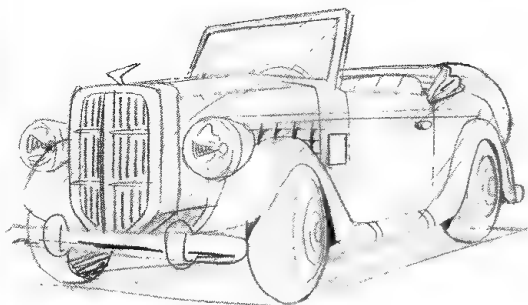
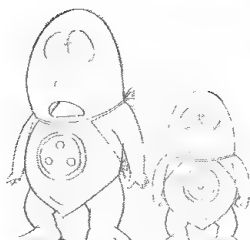
▼ねずみ男が乗ってきた船

▶船幽霊

▲筏

▶アキオと父

▶潜水服姿のねずみ男

●UMIZATO
海座頭
（声優名／大竹　宏）

51話 世界妖怪ラリー

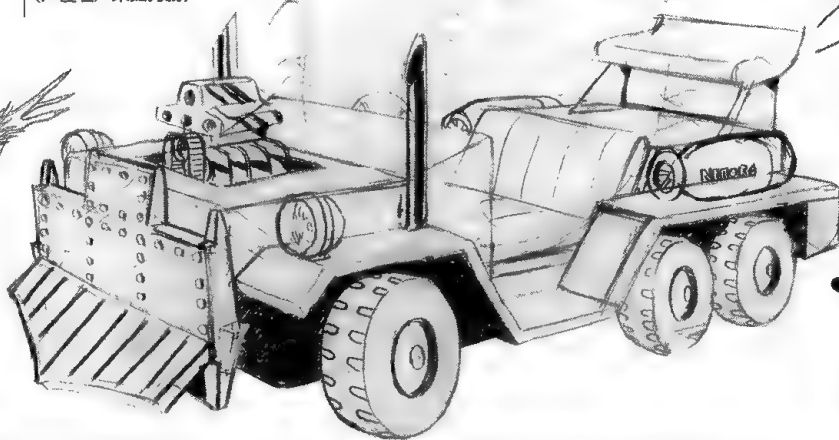
脚本／星山博之　演出／白上　武　作画監督／清水　明　美術／藤田　勉

放映日 86.11.1 27.1% 視聴率

▲鬼太郎がのるキタローカー

▲海坊主　▲小坊主

●SUIKO
水虎
（声優名／田中和実）

●GUREMURIN
グレムリン
（声優名／はせさん治）

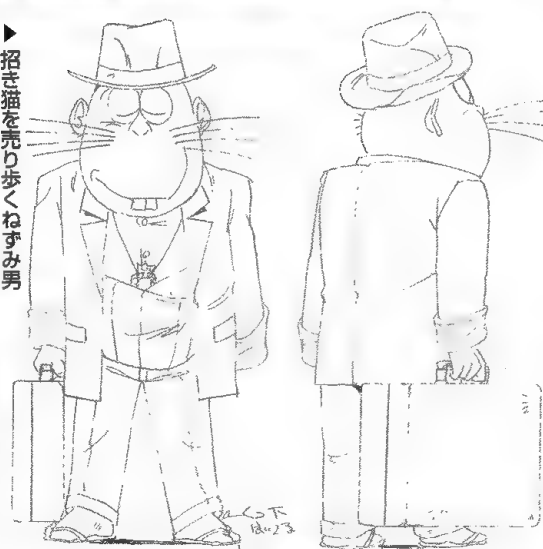
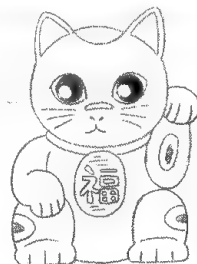
●BACK BEARD
バックベアード
（声優名／柴田秀勝）

51話／解説

優勝した妖怪が、負けた国の妖怪を支配できるというルールの妖怪ラリー。どうしてそんな大事な事を決めるのが「ラリーなの？」という疑問を持ってはいけない。それが鬼太郎なんです。

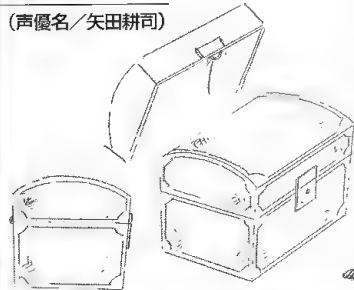
52話 燃えるネズミ男　げた合戦

脚本／武上純希　演出／葛西　治　作画監督／入好さとる　美術／鷲崎　博

放映日 86.11.8 29.3% 視聴率

▶招き猫を売り歩くねずみ男

#52 セールスマン姿のねずみ男

▲招き猫（実は丸毛）

●SAKABASHIRA
逆柱
（声優名／矢田耕司）

●HANAKO
花子
（声優名／荘真由美）

53話　皿屋敷の妖怪モウリョウ

脚本／大橋志吉　演出／芝田浩樹　作画監督／松本勝次　美術／藤田　勉

放映日 86.11.15 26.8% 視聴率

●MOURYOU
モウリョウ
（声優名／増岡　弘）

▶町子（声優名／土井美加）幽霊と化した姿

▶モウリョウをおびきだすために喪服姿で偽の棺桶を運んだ子泣きと砂かけ

●IWANA BOUZU
岩魚坊主
（声優名／広中雅志）

▶皿田正太

▶町子　皿田家に勤めていたが、不慮の死を遂げる

54話　悪魔ベリアル

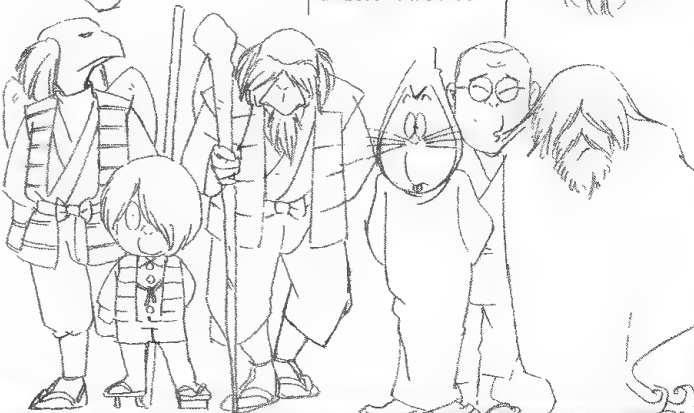
脚本／武上純希　演出／石田昌久　作画監督／稲野義信　美術／鷲崎　博

▶ベリアル　妖力を取り戻した本来の姿

▶ベリアル　やかさりの赤玉に妖力を封じられていた

▶水本　妖怪図書館の館長

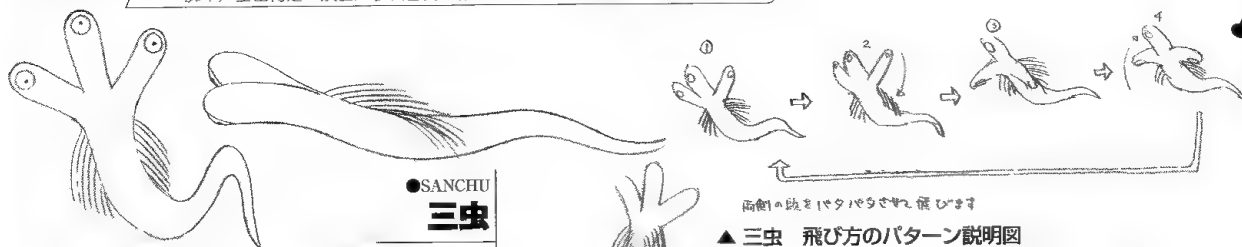
●KARASUTENGU CYOUROU
カラス天狗長老
（声優名／宮内幸平）

●AKUMA BERIAL
悪魔ベリアル
（声優名／大木民夫）

放映日 86.11.22 26.3% 視聴率

55話　指令!!　ネズミ男は死刑だ

脚本／星山博之　演出／今沢哲男　作画監督／平田かほる　美術／藤田　勉

55話／解説

エンマ大王がねずみ男に死刑を宣告！しかもその執行人は鬼太郎！エンマ大王に何か深淵なる考えがあっての事か…はともかく、ねずみ男とネコ娘の挿入歌とプロモ映像は一見の価値あり

放映日
86.11.29
24.8%
視聴率

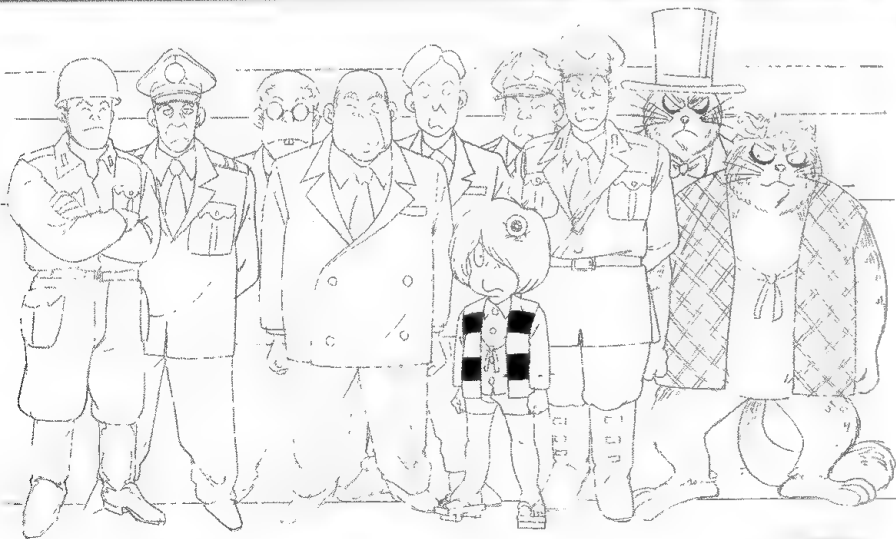
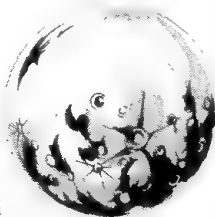
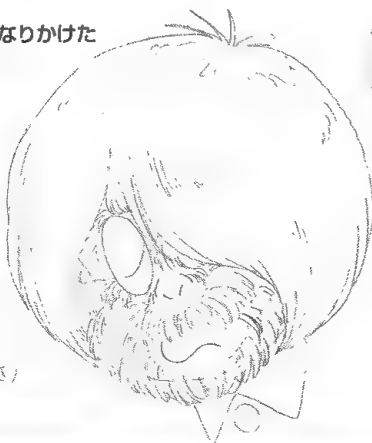
●SANCHU
三虫
（声優名／塩屋　翼）

両側の脚をパタパタさせて飛びます

▲三虫　飛び方のパターン説明図

▶お手伝いさんのネコ娘

▲ねずみ男に騙された老人たち

▶キャラ対比表

▼狸になりかけた鬼太郎

▲妖怪獣蛟竜が眠る月状の物体

横山Pの鬼太郎コラム

秋冷、いかがお過ごしですか。「鬼太郎」は絶好調で、9月に入ってから4週、アニメのトップ（視聴率）の座を確保しています。12月には、はじめての前後編「タヌキ軍団・日本征服!!」（12/6・12/13）が放映されますが、どんな結果が出るか楽しみです。劇場のほうも順調に進行しており、いまから初号上がりの出来映えを考え、ウキウキしています。

さて、今月は私のアシスタント、吉田竜也くんを紹介します。彼は岡山県出身。大阪芸大に学び、今年東映動画に入社したホカホカの新人類です。自分は満足に食事をしなくても（貧しいわけではありません!）愛車にはきちんとガソリンを食べさせるヘンなヤツ。東京の地理はまったくわからず、そのうえ方向音痴。いつ、どこをドライブしているのかと思うと、私には妖怪みたいな人間に見えてきます。しかし、探究心と体力は人一倍。べつに会社から命令されているわけでもないのに、昼夜を問わず私について回ります（これが女性だったらうれしいのだが…）。

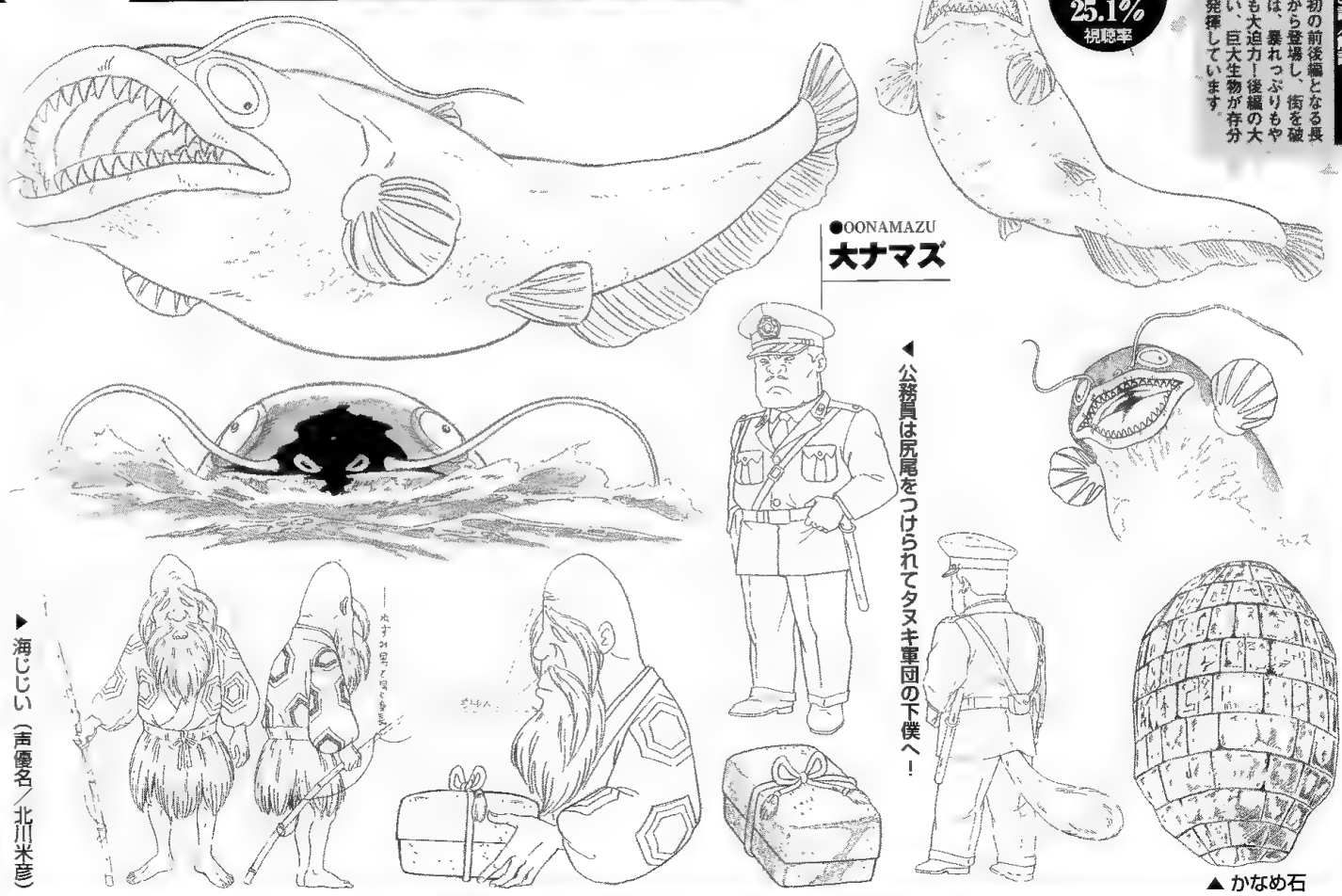
それでは、吉田くんこと妖怪ひょうすべ小僧（ガンキ小僧+ひょうすべ）のご挨拶―。「私がエリートの吉田です。大プロデューサーにつけて、とても幸福な今日このごろです。ジャン!」／横山賢二（PD／東映動画）

57話　タヌキ軍団日本征服!!<後編>

脚本／星山博之　演出／芹川有吾　作画監督／山口泰弘　美術／鷲崎　博

放映日 86.12.13
25.1% 視聴率

57話／解説

鬼太郎"80's初の前後編となる長編作品"。海から登場し、街を破壊する虹竜は、暴れっぷりもやられっぷりも大迫力！後編の大ナマズといい、巨大生物が存分に存在感を発揮しています

●OONAMAZU
大ナマズ

◀公務員は尻尾をつけられてタヌキ軍団の下僕へ！

▶海じじい（声優名／北川米彦）

▲かなめ石

56話　タヌキ軍団日本征服!!<前編>

脚本／星山博之　演出／芹川有吾　作画監督／松本朋之　美術／鷲崎　博

放映日 86.12.6
28.4% 視聴率

●SHIRUKUHATTO TANUKI
シルクハット狸
（声優名／千葉　繁）

●GYOUBU DANUKI
刑部狸
（声優名／柴田秀勝）

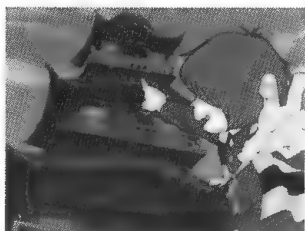
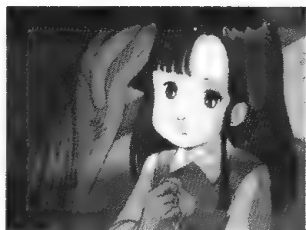
▲刑部狸と約束をかわす鬼太郎

▶首相　後にタヌキ軍団に日本の政権を明け渡す

▲飛脚狸

●DANJYUROU TANUKI
団十郎狸
（声優名／西尾　徳）

58話 妖怪城の目目連

脚本／大橋志吉　演出／生頼昭憲　作画監督／清山滋崇　美術／鷲崎　博

●MOKUMOKUREN
目目連
（声優名／銀河万丈）

放映日 86.12.20　27.6%　視聴率

横山Pの鬼太郎コラム

劇場版音楽も川崎真弘さん

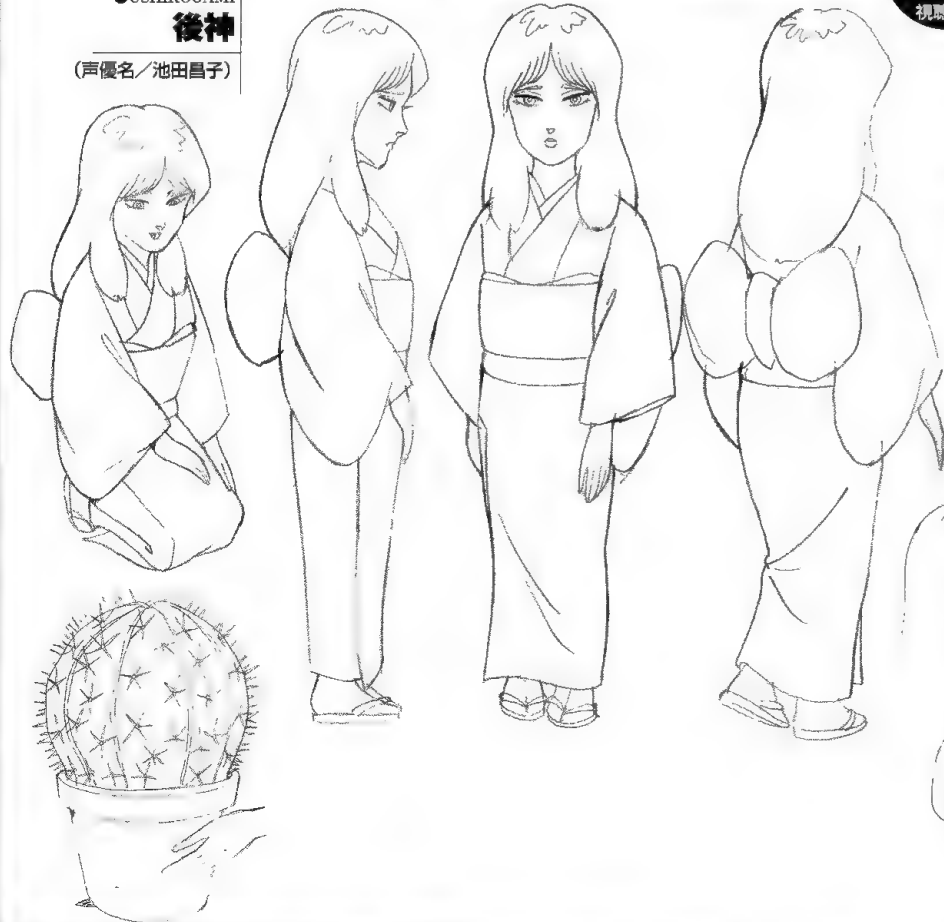
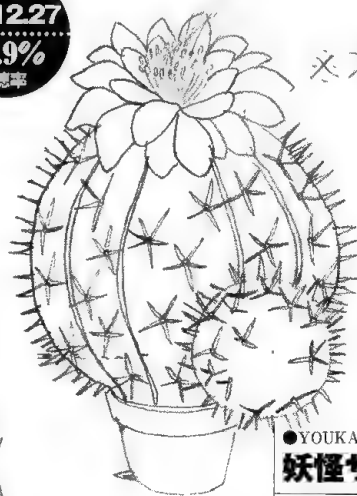
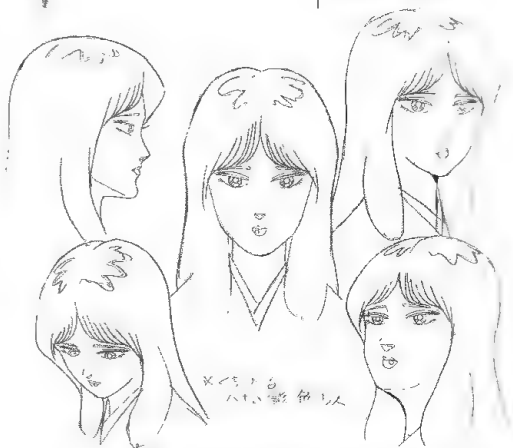
寒くなってきました。カゼなどひいていませんか？冬休み劇場の「まんがまつり」の音楽どりが去る11月9日に行われ、作曲家の川崎真弘氏がすばらしい曲を作ってくれました。川崎氏といえば竜童組のメンバーとして大活躍なのでご存じの方も多いと思いますが、アニメの作曲は「ゲゲゲの鬼太郎」がはじめて。それにしてはよく作品を理解してくださり、その感覚の鋭さには、驚くばかりです。それに肉体的にも超人的で、マネージャーの話によると、3日間連続の徹夜に耐え、右手が思うように動かなくなるとその上に左手を重ねて作曲するのだそうです。本人がプレーヤーでもあるためプレーヤーの気持ちをよく理解し、作業はいつもなごやかなふんい気で進められています。

今月はもうひとつ。こんどの劇場用の「鬼太郎」のカロリーヌ役の声優さんを紹介しておきます。名前は藤枝成子さん。小学校の4年生です。主な出演作品は劇場用「うる星やつら」「三国志」「シャーロック・ホームズ」（ディズニー映画）、それに洋画の吹き替え多数。舞台、CMでも活躍。グループこまどり所属の、将来有望なお嬢さんです。／横山賢二（PD／東映動画）

59話 宵待ち草の後神

脚本／大橋志吉　演出／白土　武　作画監督／清水　明　美術／鷲崎　博

放映日 86.12.27　28.9%　視聴率

●USHIROGAMI
後神
（声優名／池田昌子）

●YOUKAISABOTEN
妖怪サボテン
（声優名／塩屋浩三）

60話 巨人妖怪ダイダラボッチ

脚本／星山博之　演出／石田昌久　作画監督／松本勝次　美術／藤田　勉

60話／解説
巨大な生物が大暴れするという、スケールの大きな話が多い鬼太郎の中でも、ダイダラボッチは特にデカイ！　そのダイダラボッチを倒す鬼太郎の必殺技は、後にも先にも出て来ない！

◀体をバラバラにされて封印されていたダイダラボッチの目・鼻・口（左）と脳みそ（下）

放映日 87.1.3　16.6%　視聴率

▲ダイダラボッチ教の教祖になったぬらりひょんと朱の盤

●DAIDARABOTTI
ダイダラボッチ

◀ダイダラボッチ教の信者

61話 まぼろしの汽車

脚本／大橋志吉　演出／葛西　治　作画監督／松本朋之　美術／鷲崎　博

▶妖怪鐘

★作画様、BL、ブラシ、カゲ等
効果的に使って重み出して下さい。
よろしく。

▲吸血鬼になった鬼太郎とネズミ男

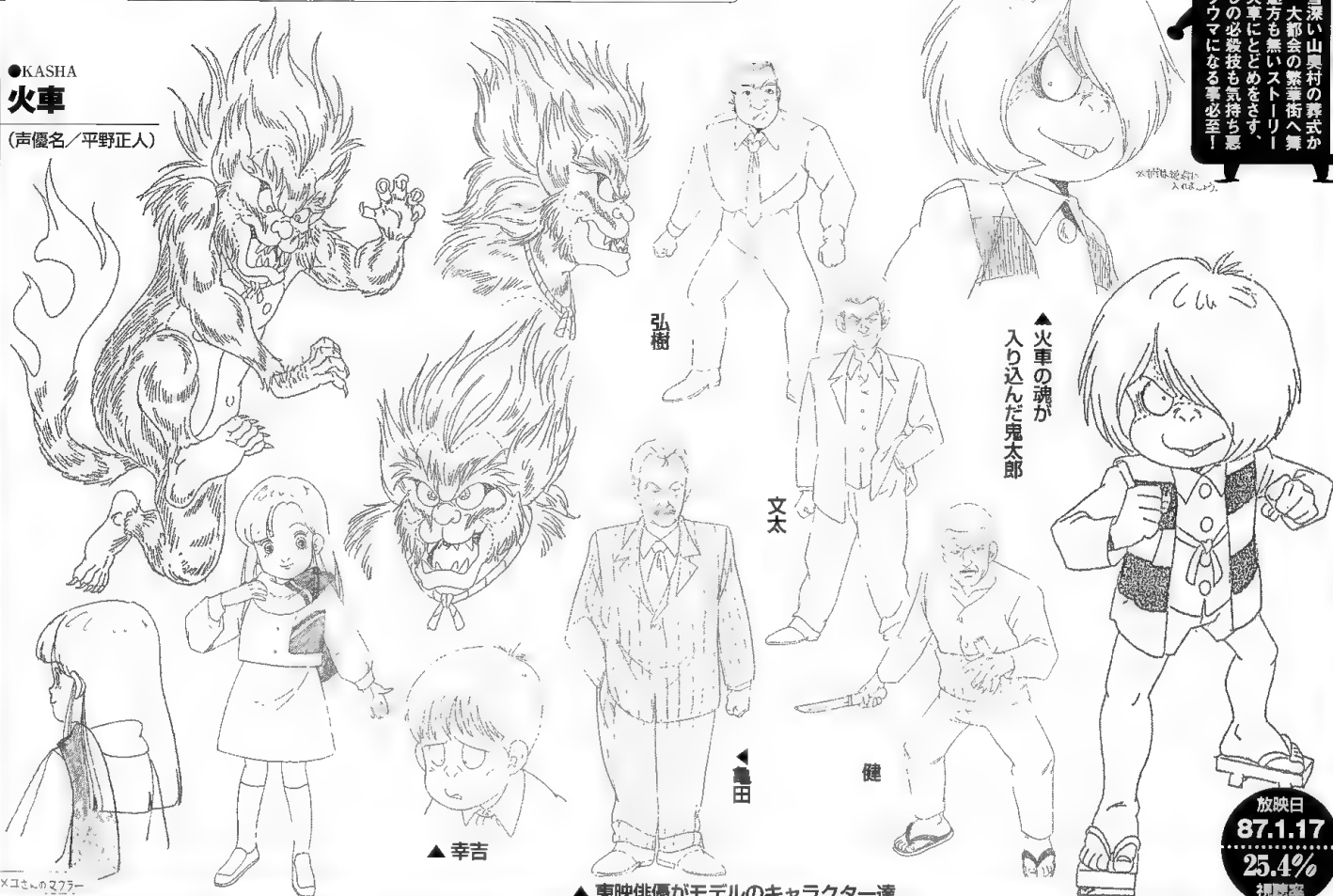
放映日 87.1.10　28.5%　視聴率

●MONROU
モンロー
（声優名／向井真理子）

●KYUUKETUKI PI
吸血鬼ピー
（声優名／大竹　宏）

61話／解説
何回も描き直しを命じられたというだけあって「モンロー」のセクシーさはピカイチ！　吸血鬼と化した人間が、大暴れする辺りには、ロメロのゾンビシリーズの影響も感じられます。

62話 妖怪火車 逆モチ殺し!!

脚本／武上純希 演出／明比正行 作画監督／松本朋之 美術／藤田 勉

62話／解説

どこかの雪深い山奥村の葬式から始まり、大都会の繁華街へ舞台を移す途方も無いストーリー展開！ 火車にとどめをさす、目玉おやじの必殺技も気持ち悪くて、トラウマになる事必至！

●KASHA
火車
（声優名／平野正人）

弘樹

▲火車の魂が入り込んだ鬼太郎

文太

◀亀田

健

▲幸吉

▲東映俳優がモデルのキャラクター達

放映日 87.1.17 25.4% 視聴率

63話 悪魔ブエルとヤカンズル

脚本／星山博之 演出／今沢哲男 作画監督／平田かほる 美術／鷲崎 博

放映日 87.1.24 24.2% 視聴率

●YAKANZURU
ヤカンズル
（声優名／大森章督）

●AKUMA BUER
悪魔ブエル
（声優名／槐 柳二）

▲悪魔ブエルの正体

横山Pの鬼太郎コラム

妖怪のお正月

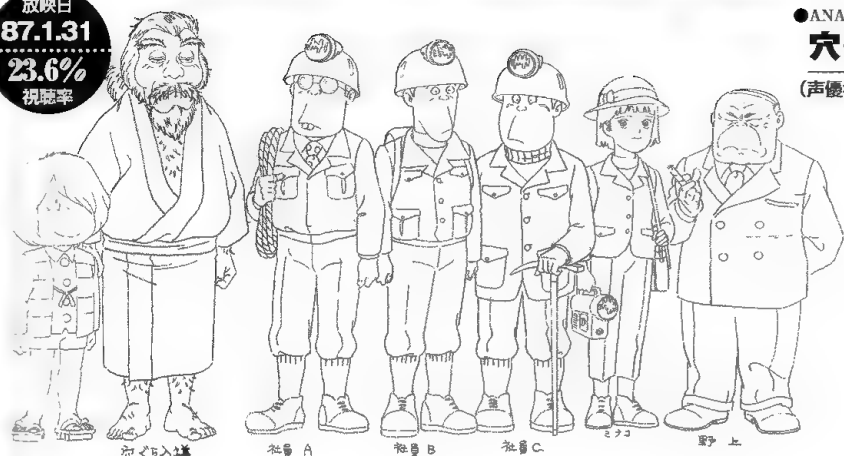
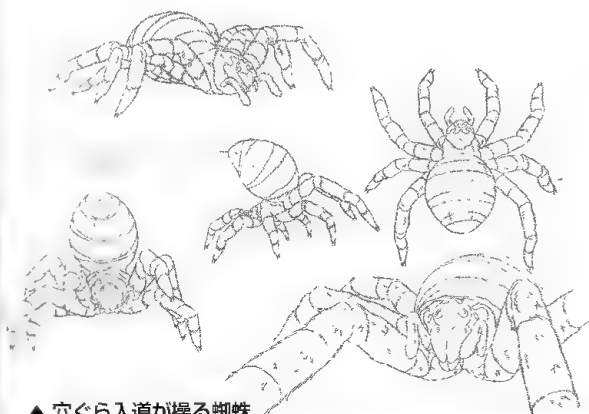
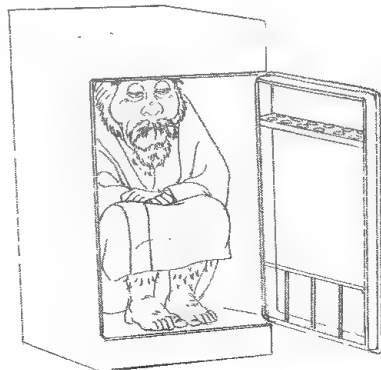
明けましておめでとう。みなさんのお正月はいかがでしたか？ ボクは仲間の妖怪と楽しく、ゲゲゲの森で過ごしました。父さんはのんびりと茶わん風呂につかり、子泣きじいさんは朝から一反木綿とぬりかべ相手に、大すきな酒を飲んでいました。砂かけばあさんとネコ娘は、ボクや仲間のために、またたびモチをたくさん作ってくれました。カルタや羽根つきもおもしろかったです。1月17日の「妖怪火車・逆モチ殺し!!」では、このモチを中心に大活躍するから、ぜひ見てください。

それから冬休みのボクの映画「激突!! 異次元妖怪の大反乱」は見てくれましたか!? たいへん評判がいいですよ。特にネズミ男とカロリーヌちゃんの関係がすばらしく、思わず涙が出てしまった、というお便りも届いています。ネズミ男もここぞ！ というときは本当に頑張ってくれます。いつもみんなに迷惑ばかりかけていますが、ちょっぴり見直しました。でも、ボクだってなんてったって主役ですから、新手の妖怪相手に、命をかけてスクリーン狭しと大暴れしています。どうか今年もボクたちをかわいがってください。みなさんにとっても、よい年でありますように！／横山賢二（PD／東映動画）

64話 妖怪穴ぐら入道

脚本／大橋志吉　演出／芹川有吾　作画監督／柳瀬譲二　美術／藤田　勉

放映日
87.1.31
23.6%
視聴率

●ANAGURANYUDOU
穴ぐら入道
（声優名／石森達幸）

▲穴ぐら入道が操る蜘蛛

▲ひきこもり…ではなく冷蔵庫に閉じ込められた穴ぐら入道

65話 妖怪百目・地獄流し

脚本／武上純希　演出／生頼昭憲　作画監督／山口泰弘　美術／鷲崎　博

放映日
87.2.7
27.7%
視聴率

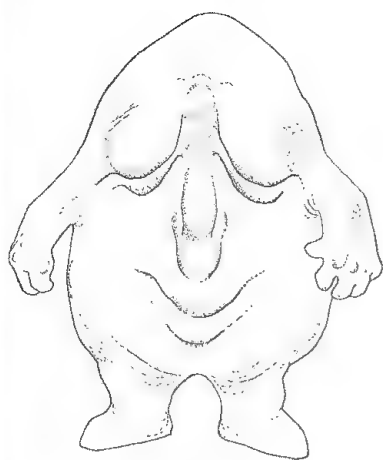
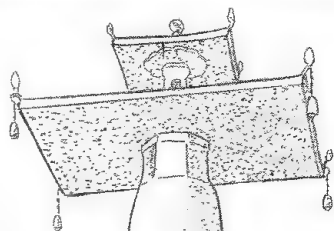
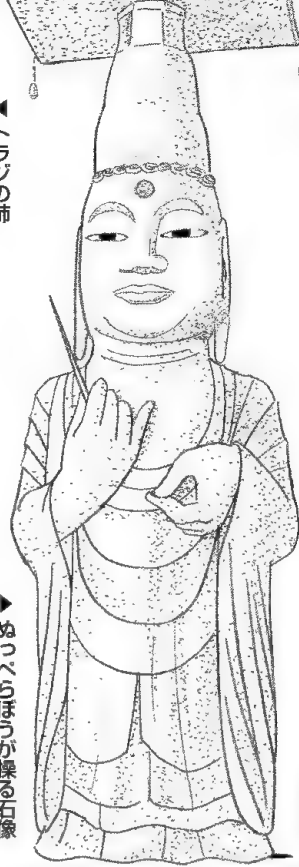
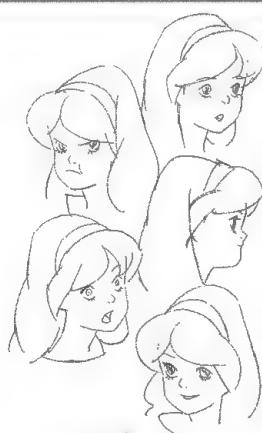
●HYAKUME
百目
（声優名／大竹　宏）

▲老人の変装をした鬼太郎

▲熊虎　鬼太郎と脱獄し行動を共にする

65話／解説

鬼太郎いわく『強盗と人殺しを少々…』して、糞尻刑務所に囚人として潜入する。この刑務所の名前は、映画「網走番外地」のパロディーなのだが、あまりにも汚すぎるネーミングだ…。

66話
韓国妖怪ぬっぺらぼう
脚本／大橋志吉　演出／山寺昭夫　作画監督／清水　明　美術／藤田　勉
●NUPPERABOU
ぬっぺらぼう
（声優名／佐藤浩之、他）
◀トラジの姉
▲トラジ
▲村長
◀若さを吸い取られた鬼太郎
▶ぬっぺらぼうが操る石像
放映日
87.2.14
26.3%
視聴率
67話／解説
56話、57話「タヌキ軍団日本征服!!」以来の長編作品。巨大な大海獣は、ゴジラやガメラといった特撮の流儀をいかんなく発揮していて、とても迫力のある大作に仕上がっている。
▶ニューギニア調査隊メンバー
放映日
87.2.21
27.5%
視聴率
▶大学院生・山田（声優名／塩屋　翼）
▶山田の妹・啓子（声優名／土井美加）

68話 大海獣　怒りの逆襲

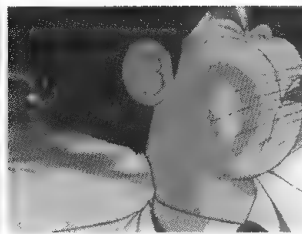
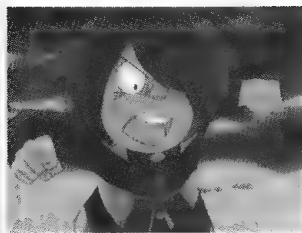
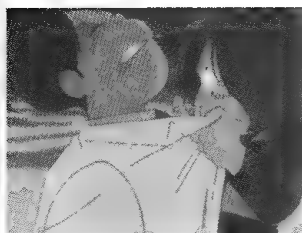
脚本／星山博之　演出／葛西　治　作画監督／入好さとる　美術／鷲崎　博

横山Pの鬼太郎コラム

“鬼太郎の年”を誓った忘年会

本当に寒い日がつづいています。カゼはひいていませんか!?　「鬼太郎」もみなさまのおかげで去年は絶好調！　今年もますます頑張るつもりです。そんな理由で昨年12月26日、新宿で「鬼太郎」の大忘年会が開かれました。スタッフ、キャスト総勢50名。鬼太郎の乾杯にはじまり、アミダクジあり、ジャンケン大会によるおみやげの争奪戦あり。そうかと思うと、ただひたすら飲んで食べる人、コップ片手につぎからつぎへと場所を移動する人。口かわアワをとばして作品論を展開する人。他のお客さんまで巻き込んで、それはそれはすごい盛り上がりでした。

二次会はそれぞれに別れ、深夜までつづきました。某スナックに集合したのが音楽の川崎さん、天翔さん、若手ライターの大橋くん。それにこの日出席した声優さんの全員。こちらもお店を貸し切りの状態で、カラオケに合わせてつぎつぎと歌いまくりました。特に声優さんたちはレコードを出している人が多く、まるでショーを見ているようなふんい気。楽しい一夜でした。そして、来年も「鬼太郎」の年にするぞ！　と誓いあったのでした。／横山賢二（PD／東映動画）

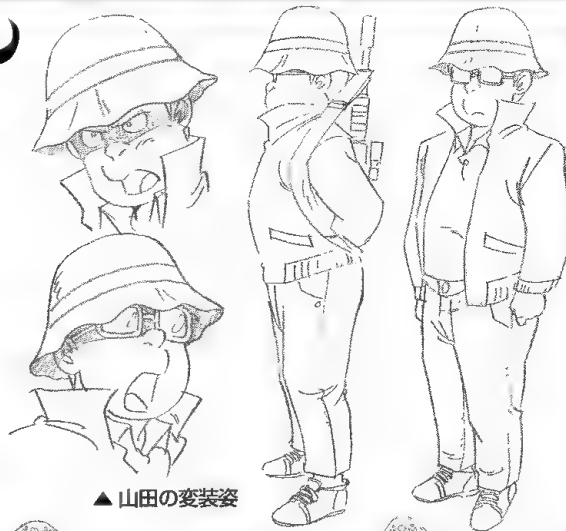
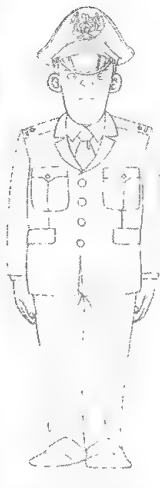
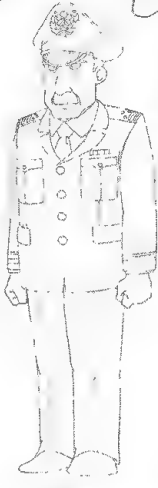
放映日 87.2.28　25.6% 視聴率

◀自らの功名のために、鬼太郎はもちろん仲間の命すら顧みなかった山田に怒りの鉄拳！

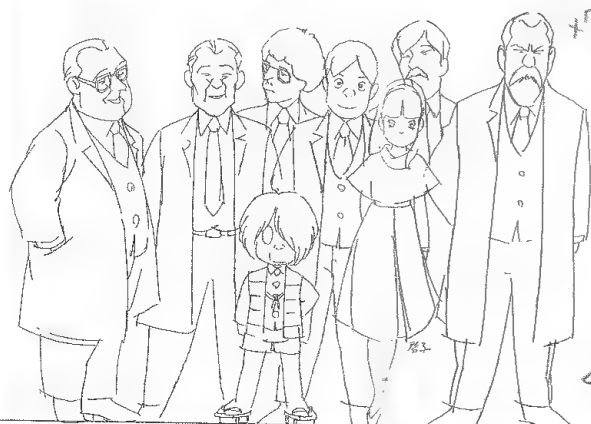
▲山田の変装姿

◀大海獣対策本部

▲サブ副部長　▲副部長　▲本部長

67話 密林の大海獣

脚本／星山博之　演出／葛西　治　作画監督／稲野義信　美術／鷲崎　博

●DAIKAIJYUU

大海獣

◀山田のカメラを噛みこわした怪魚

69話 妖怪風の又三郎

脚本／武上純希　演出／明比正行　作画監督／清山滋崇　美術／内川文広

●KAZENOMATASABUROU

風の又三郎

（声優名／難波圭一）

▶風子

▲神主のふりをするネズミ男

▲医者に扮した鬼太郎と看護婦に扮した砂かけ婆

放映日 87.3.7

26.3% 視聴率

70話 鏡地獄！妖怪うんがい鏡

脚本／武上純希　演出／芹川有吾　作画監督／松本朋次　美術／藤田　勉

●UNGAIKYOU

うんがい鏡

（声優名／大竹　宏）

放映日 87.3.14

25.6% 視聴率

▶うんがい鏡が変装した姿「クモ子」（声優名／鶴ひろみ）

▲照魔鏡。うんがい鏡にとどめを刺す

横山Pの鬼太郎コラム

新キャラ、シーサーをよろしく

梅の花が咲きほころび、暖い風が吹く季節になりました。ゲゲゲの森の妖怪たちも元気に飛びまわっています。ところで、第66話「韓国妖怪・ぬっぺらぼう」（2／14放送）はご覧になりましたか？　このなかで「アリランのうた」が流れていましたが、このスキャットふうハーモニーがみごとに作品のふんい気を盛り上げていたのをおぼえている方もいると思います。これを歌ってくれたのは戸田恵子さん、杉山佳寿子さん、三田ゆう子さん、三浦英子さんの4人。アフレコ終了後20分でOKをとってしまいました。さすがはプロ！　と驚きました。

つづいて最新ニュース。4月から新しいレギュラーが加わります。その名はシーサー。鬼太郎が沖縄に行ったとき、彼の人柄と勇気ある行動にホレこんで、勝手に追ってきてしまうのです。なにがなんでも鬼太郎の弟子になって妖怪道を極めたい、といつも鬼太郎の周囲をうろつきます。ときには手柄をたてたり、また、失敗もしますが、まったく憎めない、かわいいヤツです。どうか、みなさんも暖く見守ってやってください。よろしく！／横山賢二（PD／東映動画）

71話　妖花の森のがしゃどくろ

脚本／大橋志吉　演出／岡崎　稔　作画監督／平田かほる　美術／鷲崎　博

●YOUKA
妖花

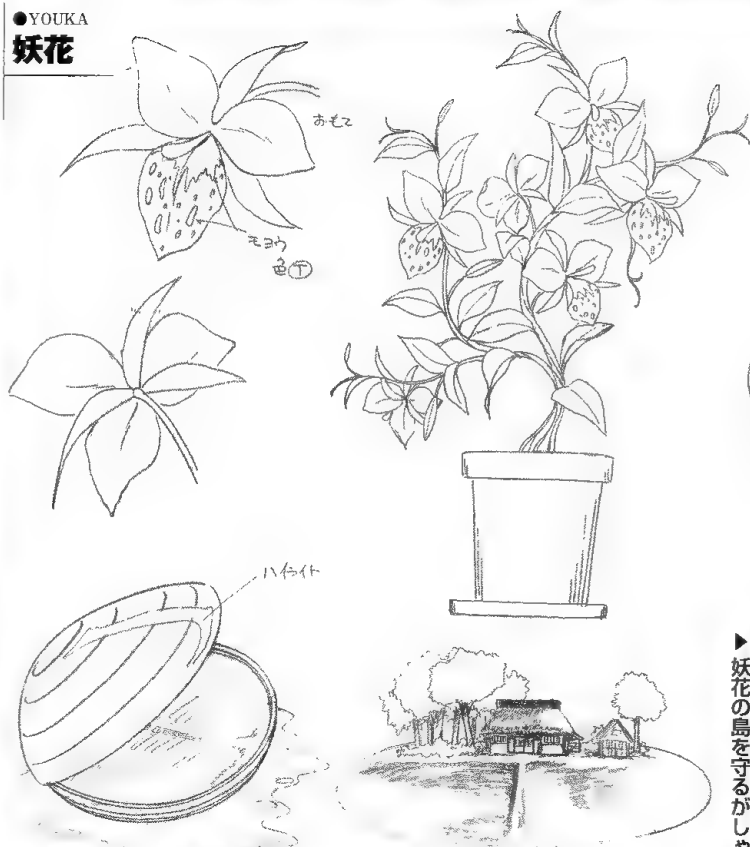
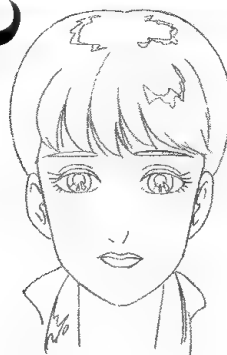
おもて
モヨウ
色Ⓣ

華子（声優名／山本百合子）

ブラウス

▲畑、家畜付き！　夢の船「ハマグリ」

▶妖花の島を守るがしゃどくろ

ハイライト

放映日
87.3.21
21.2%
視聴率

72話　ケ・け・毛！　妖怪大髪様

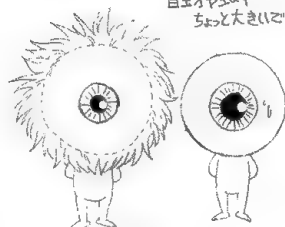
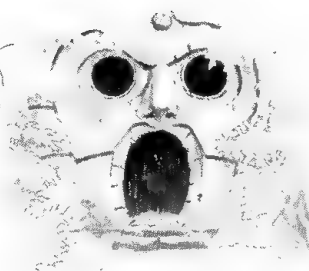
脚本／星山博之　演出／石田昌久　作画監督／松本朋之　美術／藤田　勉

放映日
87.3.28
21.4%
視聴率

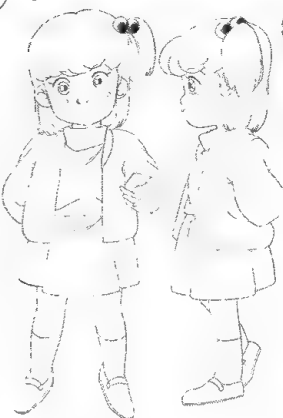
▶花子（声優名／荘真由美）

▲髪様の住む遺跡

●KAMISAMA
髪様
（声優名／野本礼三）

目玉オヤジより
ちょっと大きいです。

●KEMEDAMA
毛目玉
（声優名／はせさん治）

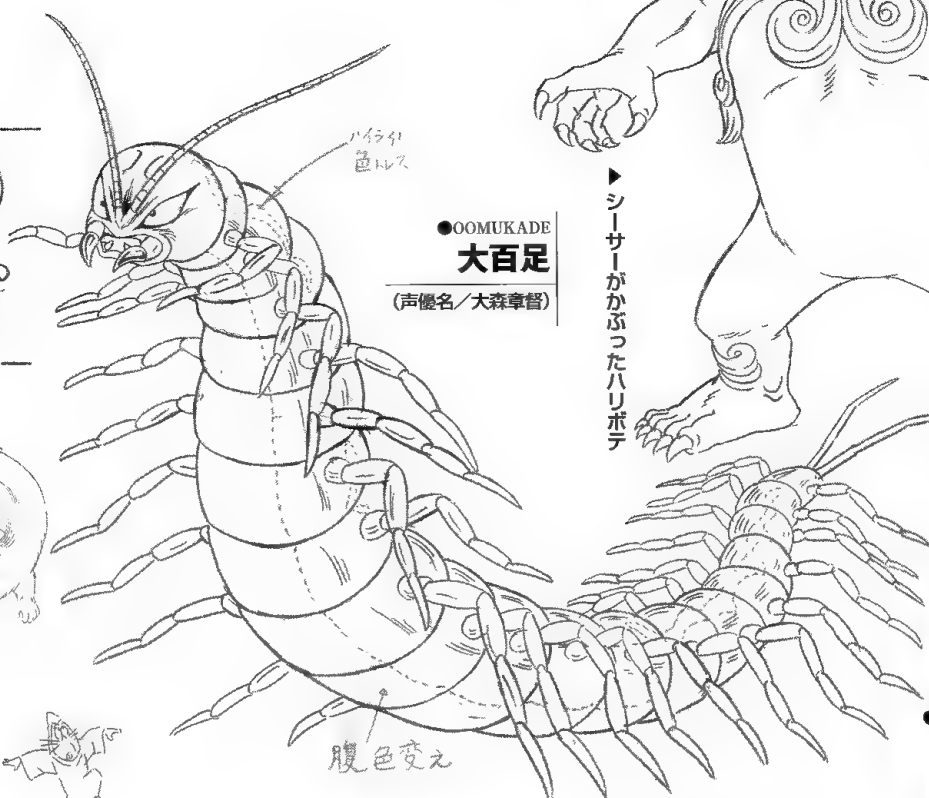
ハゲのネコ娘

◀世にも美しいネズミ男の女装姿

73話 シーサー登場!! 沖縄大決戦

脚本／武上純希　演出／生頼昭憲　作画監督／山口泰弘　美術／鷲崎　博

放映日 87.4.4
20.7% 視聴率

▲鬼太郎とシーサー比較表

▼キジムナー

●OOMUKADE
大百足
（声優名／大森章督）

▶シーサーがかぶったハリボテ

73話／解説
鬼太郎ファミリー最後のメンバー―シーサーが遂に登場。鬼太郎のペットのようなキャラクターで、鬼太郎80'sの人気を支えた。ネズミ男との凸凹コンビっぷりもよいアクセント。

74話 妖怪万年竹

脚本／星山博之　演出／白土　武　作画監督／[illegible]　美術／[illegible]

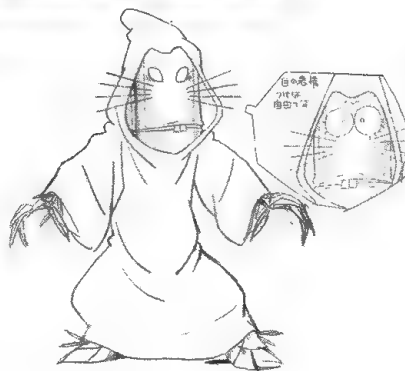
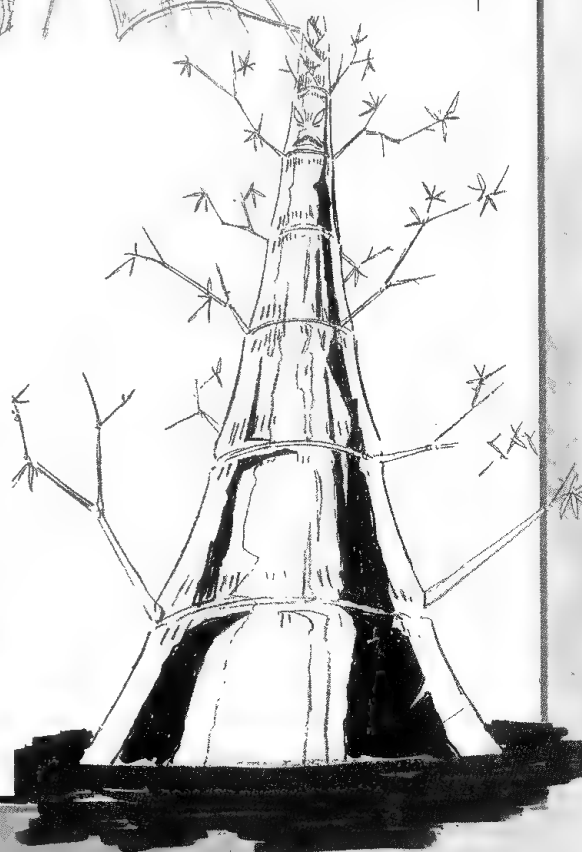
放映日 87.4.11
24.1% 視聴率

●MANNENDAKE
万年竹
（声優名／山口奈々）

▲竹人間になってしまった、子泣き、砂かけ、ねずみ男

▶万年竹の化身

◀金林

▼竹人間

75話　妖怪小豆連合軍

脚本／大橋志吉　演出／芝田浩樹　作画監督／稲野義信　美術／鷲崎 博

放映日 87.4.18 23.2% 視聴率

●AZUKI BABAA
小豆ばばあ
（声優名／青木和代）

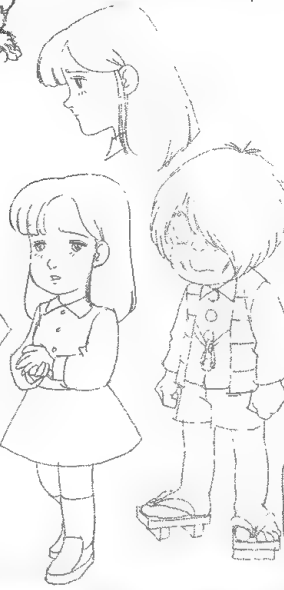
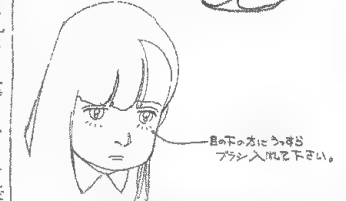
●AZUKI ARAI
小豆洗い
（声優名／田中和実）

●AZUKI HAKARI
小豆はかり
（声優名／塩屋浩三）

●HATAONRYOU
畑怨霊
（声優名／佐藤正治）

▲優子のパジャマ姿

▲正夫のパジャマ姿

※全身の肌をノーマル時よりややくすんだ色にして下さい。頬はブラシ(αタッチ)で、体の養分がすいとられた感じを表現して下さい。

目の下の方にうっすらブラシ入れて下さい。

▲小豆に顔や体の養分を吸い取られてしまったユメコと鬼太郎

76話　人喰い島と海和尚

脚本／武上純希　演出／芹川有吾　作画監督／柳瀬譲二　美術／金島邦夫

横山Pの鬼太郎コラム

ぬりかべの屋良有作さんが結婚

桜の花も咲き乱れ、ゲゲゲの森も春らんまん。いかがお過ごしですか。

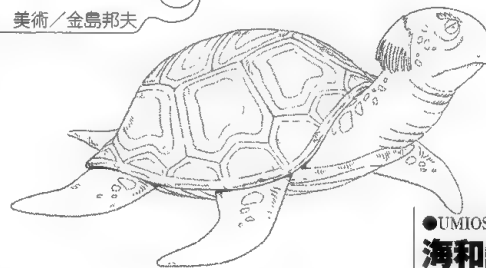
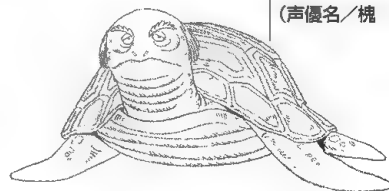
さて、みなさん、4月から登場したシーサーくんを見ましたか!? 彼はどうしてもボクの弟子になりたいと、沖縄からはるばるやってきて、ゲゲゲの森に住みついてしまいました。「立派な妖怪になって故郷に錦を飾るんだ」と、ネズミ男にダマされ、バカにされながらも、子泣きじじいや砂かけばあさんのアドバイスを聞いて、妖怪道を極めようと努力していきます。その熱心さには、ボクも父さんも感心してしまいます。みなさんも応援してやってください。

それから"ぬりかべ"の屋良有作さんが、同じ声優仲間の三浦英子さんと2月8日に結婚式を挙げました。盛大なパーティーが開かれ、大勢の人が押しかけて、やっかみ半分にお祝いしたようです（ふたりの年齢があまりにもちがいすぎるからかな……）。ボクたちも陰ながらおふたりの幸福を祈ってカンパイしました。ぬりかべ、はやく元気な赤ちゃんを産んで（あれ!? 産むのは女性か……）、みんなに見せてください。父さんも楽しみに待っているといっています。

——鬼太郎より／横山賢二（PD／東映動画）

●UMIOSYOU
海和尚
（声優名／槐 柳二）

◀若かりし日の海和尚

▶おととの祖父の村長

◀おとと。変身前（右）と変身後（左）

放映日 87.4.25 22.3% 視聴率

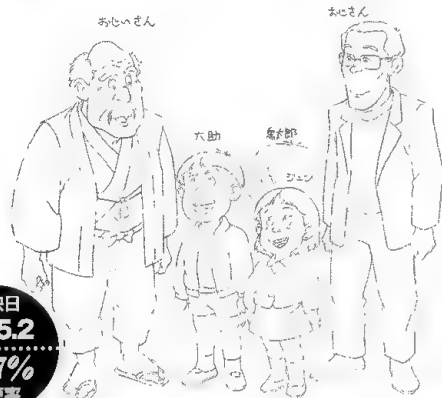
77話　妖怪手の目と地獄の餓鬼

脚本／星山博之　演出／明比正行　作画監督／清山滋崇　美術／鷲崎　博

●TENOME
手の目
(声優名／銀河万丈)

放映日 87.5.2
22.7% 視聴率

▲餓鬼、4体

横山Pの鬼太郎コラム

プロレス狂の武上さん

木々の緑が鮮やかな5月。元気に過ごしていますか!? 鬼太郎ファミリーもシーサーの加入でにぎやかになり、ネズミ男はシーサーを自分の思うがままに使おうと、ときには強迫し、ときにはおだてあげて、と忙しそうです。

子泣きじいさんと砂かけばあさんは、暖かくなって神経痛のぐあいがよくなったと喜んでいます。父さんは最近眠くてしょうがないといいながら、目を開けたまま(?)寝ています。

さて、5月は第80話「妖怪吹消婆プロレス地獄」(5／28放送予定)を担当した、脚本家の武上くんについて、かんたんに触れてみます。年齢のわりには童顔で、体型は鬼太郎型。すなわち顔から下があまり長くなく、肉づきはどちらかというとよく、現代女性の結婚条件には×印の体型(はっきりいって五頭身)です。そのくせ、大きなカバンを持ち歩きます。中身は仕事の七つ道具以外のものは見たことがありませんが、独身ゆえに洗濯ものがつまっていたりして……。だが、彼はまじめで勉強家。脚本を仕上げるためには徹底的に資料を集め、研究してから書き出します。今回の第80話も、彼自身がプロレス狂のため、脚本にどっさり資料がついていました。／横山賢二(PD／東映動画)

78話　マンモスフラワーと山男

脚本／武上純希　演出／葛西　治　作画監督／清山滋崇　美術／泰　秀信

放映日 87.5.16
20.0% 視聴率

78話／解説

山男が育てたマンモスフラワーの花粉のおかげで、人々は仕事から解放され、原始人同様の奔放な生活に…それも鬼太郎のおかげで日常の仕事が戻ってきちゃいます。余計なことを…。

●YAMAOTOKO
山男
(声優名／佐藤正治)

▶マンモスフラワー
胞子によって都会の人々を原始生活へ回帰させた

▼古代植物　山男が植えた太古の植物たち
東京がジャングルに変容していく様は圧巻

◀ワタリ刑事
独特な存在感で、大都会東京を守ろうと奮闘した

▶妖怪発明家・夜行さん
(声優名／大竹　宏)

79話 妖怪やまたのおろち

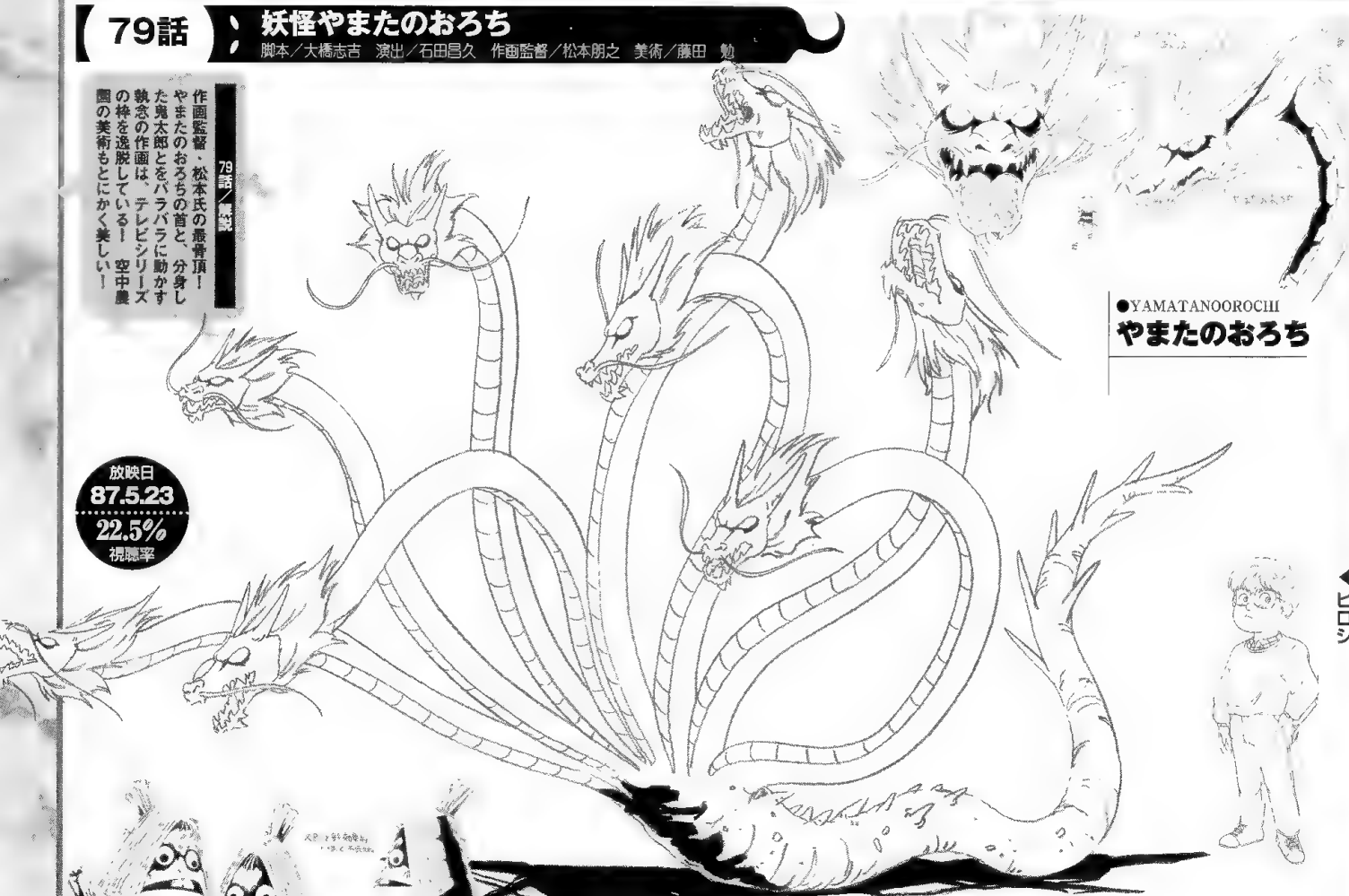
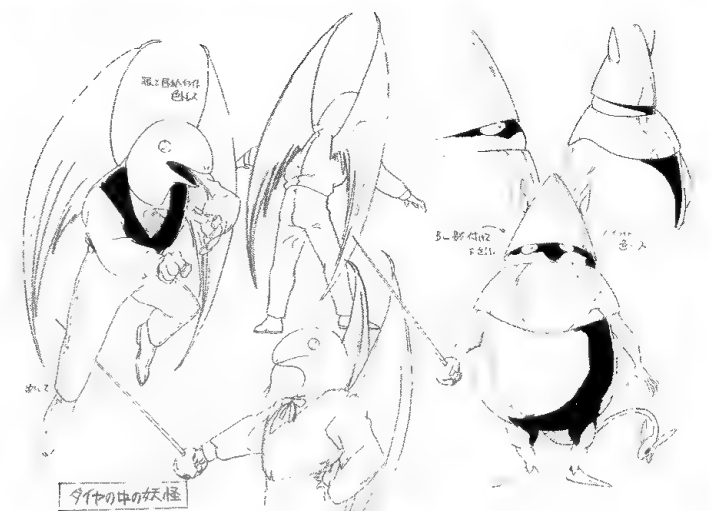
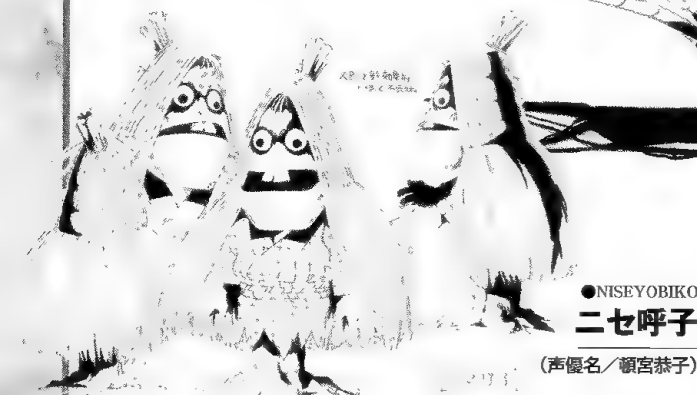
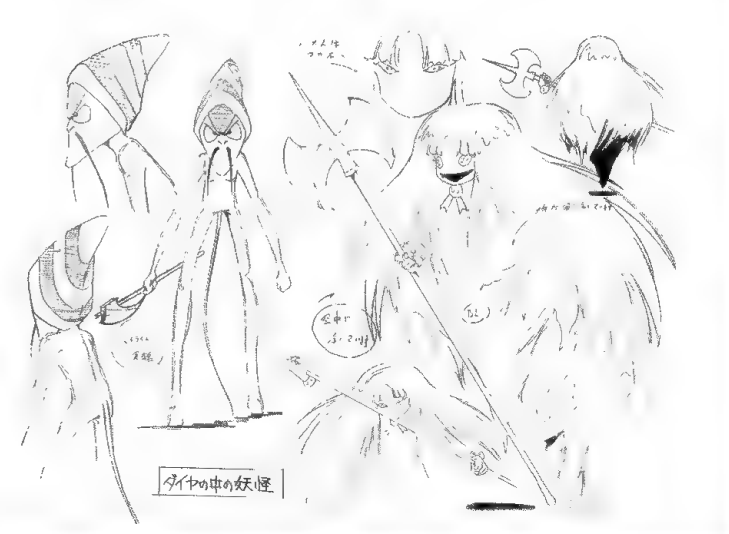
脚本／大橋志吉　演出／石田昌久　作画監督／松本朋之　美術／藤田 勉

79話／解説

作画監督・松本氏の最骨頂！やまたのおろちの首と、分身した鬼太郎とをバラバラに動かす執念の作画は、テレビシリーズの枠を逸脱している！ 空中農園の美術もとにかく美しい！

放映日
87.5.23
22.5%
視聴率

●YAMATANOOROCHI
やまたのおろち

◀ヒロシ

●NISEYOBIKO
ニセ呼子
（声優名／頓宮恭子）

80話 妖怪吹消婆 プロレス地獄

脚本／武上純希 演出／生頼昭憲 作画監督／入好さとる 美術／鷲崎 博

放映日 87.5.30 16.7% 視聴率

●TANKU MATUTAKE
タンク松竹
（声優名／上村典子）

80話／解説
すさまじいド迫力で鬼太郎にラリアートを喰らわすカットは勿論、新岡氏の原画によるもの。線の太さの作画実験を試したということの回は、本編の中でも群を抜いてブッとんでます！

◀易者に扮したねずみ男
意外と様になっている！？
タンク松竹を吹消婆の元へ誘う。

◀タンク松竹のマネージャーを勤めるアヤし気なねずみ男。気合いマンマン

▲タンク松竹のライバル。ライオン稲子（左）と、長与茂草（右）。当時の人気女子プロレスラーのコンビをモデルにした夢のタッグ

●HUKKESIBABAA
吹消婆
（声優名／鈴木れい子）

▲妖怪レフェリー
鬼太郎とタンク松竹の妖怪プロレス・夜間一本勝負につきあう

▲手相変換機 タイヤキ屋をしている吹消婆の店にあるもの。弱小レスラータンク松竹の運命線を替えた

81話 コンビ妖怪　手長足長

脚本／星山博之　演出／岡崎　稔　作画監督／平田かほる　美術／金島邦夫

●TENAGA ASHINAGA
手長足長
（声優名／手長・田中康郎
足長・龍田直樹）

▼タコにされたネコ娘とユメコと砂かけ婆

放映日 87.6.6
18.5% 視聴率

◀タコにされた目玉おやじ

▲手長足長
を封じる要石

▲キャラ比較表

82話 妖怪　串刺し入道

脚本／大橋志吉　演出／芹川有吾　作画監督／稲野義信　美術／鷲崎　博

●KUSHIZASI NYUDOU
串刺し入道
（声優名／峰　恵研）

▲はく製作りを趣味とする
串刺し入道。表情集も豊か。

▲ツトム　捕われの身に

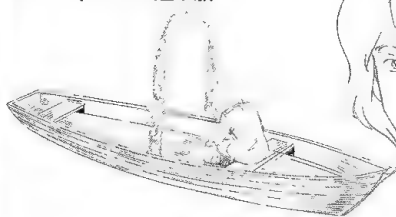
▲串刺し入道に飼われていたむくろたち

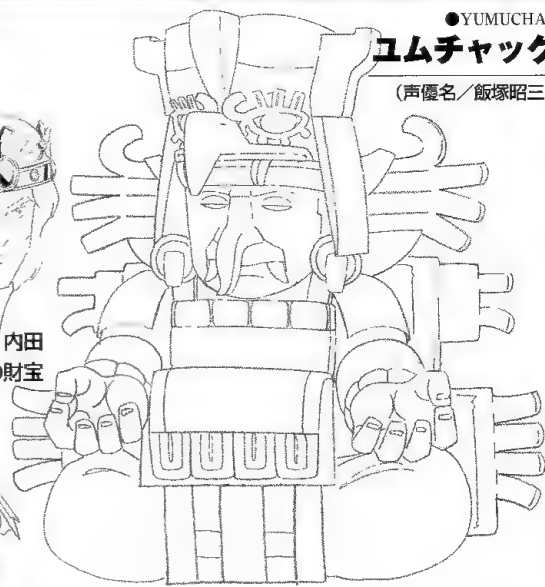
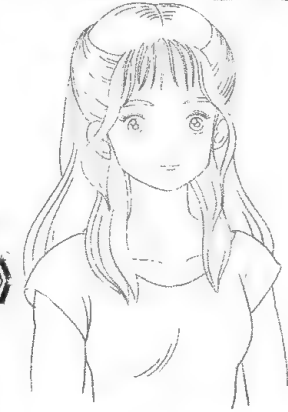
放映日 87.6.13
22.2% 視聴率

83話 雨神ユムチャック伝説

脚本／武上純希　演出／芝田浩樹　作画監督／松本勝次　美術／藤田　勉

●YUMUCHAC
ユムチャック
（声優名／飯塚昭三）

▼ユートピアへ運ぶ船

▲考古学者　内田
ユートピアの財宝
を狙う

▶カルメンの民族衣装姿　生け贄となるべくユートピアへと向かう

●AMEFURIKOZOU
雨ふり小僧
（声優名／塩屋　翼）

▲カルメン

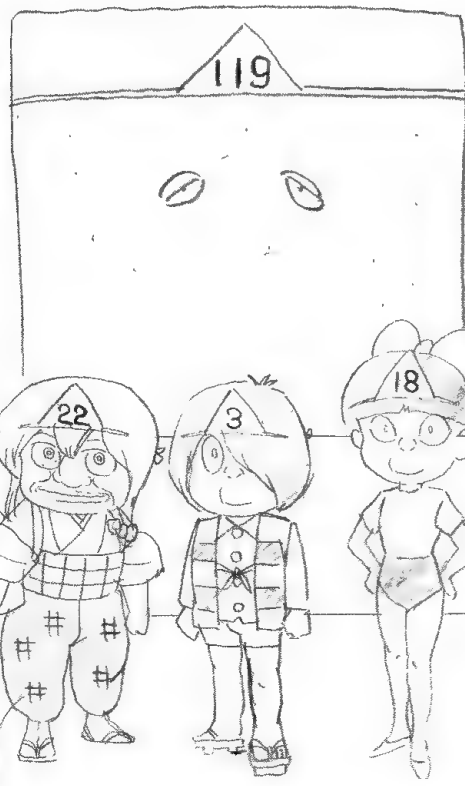
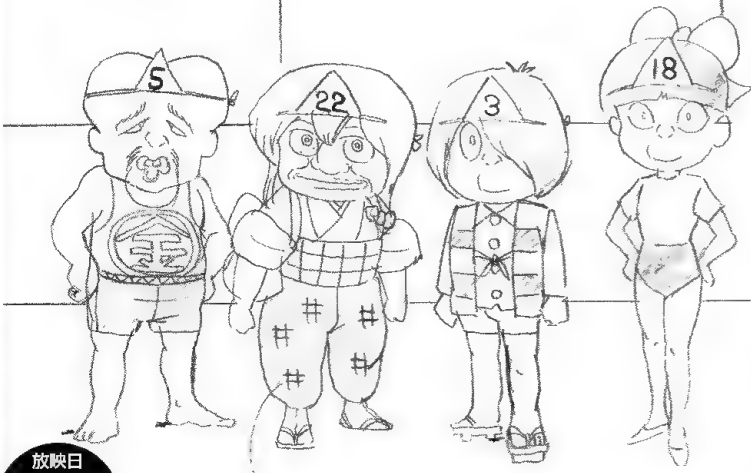
▲アルメラ

放映日
87.6.20
21.4%
視聴率

84話 地獄一周!!　妖怪マラソン

脚本／星山博之　演出／白土　武　作画監督／清水　明　美術／鷲崎　博

84話／解説

野球、ラリー、と色々な事に挑戦してきた鬼太郎ファミリーがマラソンに挑戦！　三途の川や針山地獄といった名所を走り抜ける。レースの途中で物を売ろうとするねずみ男がおかしい。

▶梅ノ木花子（声優／山本百合子）

▲鬼太郎ファミリーのマラソン衣装とキャラ対比表
自ら死のうとした花子に生きる希望を与えるため、地獄マラソンに参加する

放映日
87.6.27
19.0%
視聴率

横山Pの鬼太郎コラム

夢工場に「鬼太郎」登場！

みんな、5月の連休はどこかへ行きましたか!?　ボクは仲間のネコ娘やシーサーたちとゲゲゲの森で山菜をとり、パーティを開きました。父さんと砂かけ婆さん、それに子泣きの爺さんは仲間を呼んで、酒を飲みながら1日中トランプや将棋をしていました。ネズミ男はユメコちゃんとデートするといって出かけましたが、あっさりふられて元気なく帰ってきました。骨女とならうまくいったのに。

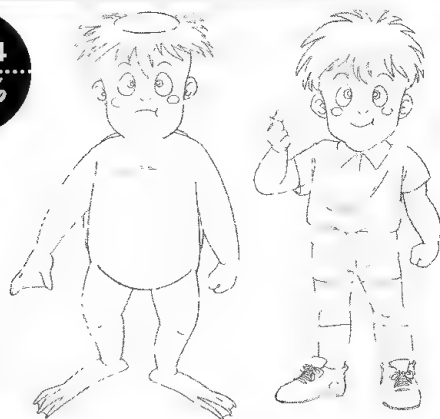
あっ、それからお知らせがあります。こんど7月18日から東京と大阪で開かれる「夢工場」に「鬼太郎館」ができるんです。もちろんボクが主役で、入口のモニターテレビや霊界テレビ、それに昔なつかしい紙芝居にもモノクロで登場。プロデューサーや演出家は「ちょっと出すぎじゃない」とかいってますが、ボクがあまりにも活躍するので、それをフィルムにするのがたいへんなために、グチっているのです。ネズミ男や子泣き爺さん、砂かけ婆さんたちも会場に出没します。ぜひ見にきてください。水木先生も入口（モニターテレビ）で、みんなを待っています。鬼太郎より。／横山賢二（PD／東映動画）

85話　河童一族とたくろう火

脚本／大橋志吉　演出／石田昌久　作画監督／松本朋之　美術／藤田　勉

放映日 87.7.4　21.2% 視聴率

▲三吉の河童姿と、人間になった姿

▲たくろう火のツボ

◀河童の姿になった星郎

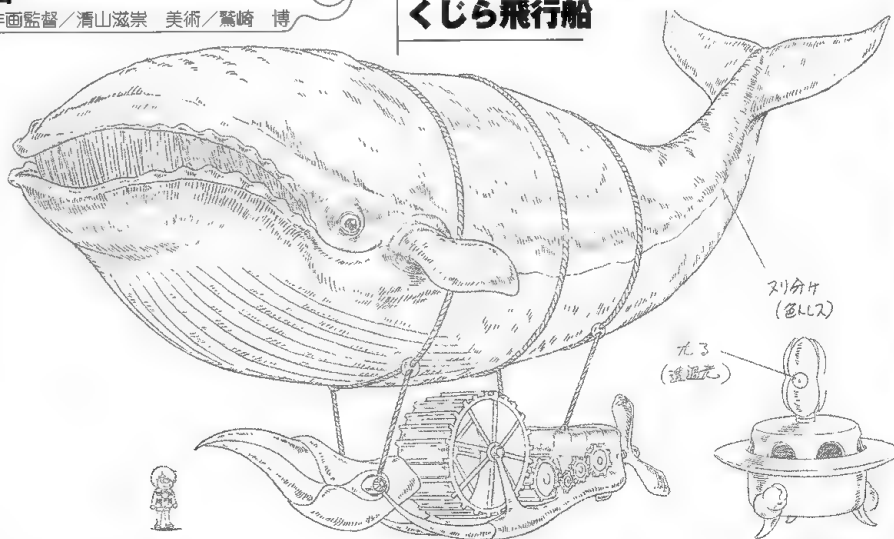
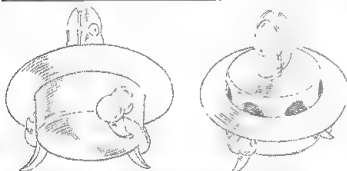
◀星郎と三吉の比較表

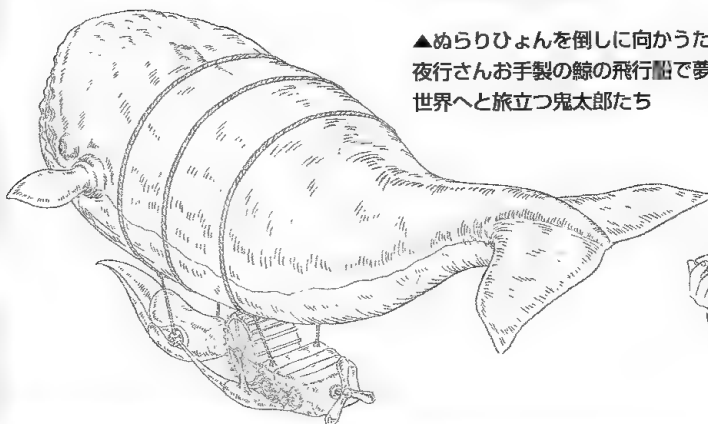
●TAKUROUBI
たくろう火
（声優名／龍田直樹、他）

86話　妖怪香炉　悪夢の軍団

脚本／武上純希　演出／葛西　治　作画監督／清山滋崇　美術／鷲崎　博

放映日 87.7.11　20.0% 視聴率

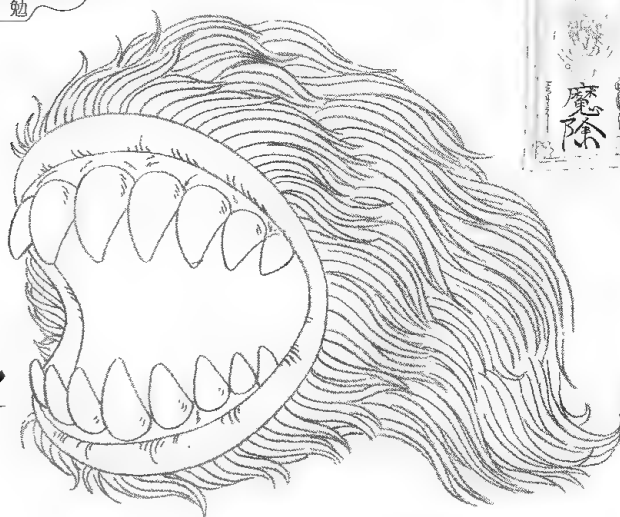
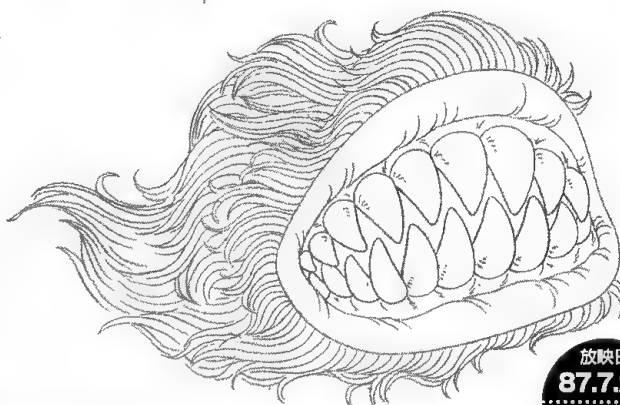
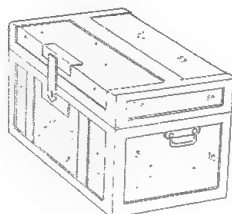
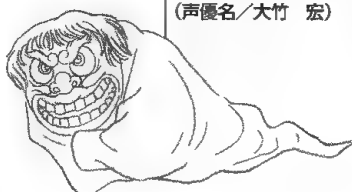
●KUJIRA HIKOUSEN
くじら飛行船

▲ぬらりひょんを倒しに向かうため夜行さんお手製の鯨の飛行船で夢の世界へと旅立つ鬼太郎たち

▲妖怪香炉

横山Pの鬼太郎コラム

夢工場87の鬼太郎
暑くなってきました。お変わりありませんか。先月号で夢工場の「鬼太郎館」についてかんたんに述べましたが、今月はその続編です。まずは「鬼太郎館」ではじまる昔懐かしい紙芝居（モノクロ作品）のタイトルが決定しました。ナレーターは一反木綿の八奈見乗児さん。「お化けナイター」「鏡爺」「妖花」「妖怪城」「枕返し」が、名調子で語られます。
鬼太郎と居間の妖怪テレビでは、1日のニュースや娯楽番組がCMも盛り込んで、妖怪総出演でおもしろおかしく展開され、決してあきさせることはありません。会場内にはネズミ男をはじめとして、ご存じの妖怪がウロウロ、オロオロしていますので、イタズラにご注意。それから入り口のモニターテレビでは、水木先生が出演。みなさんにあいさつをし、その後オリジナルの作品が流れますので、楽しみに。
また、みなさんから送られたきた鬼太郎作品は通路壁面に貼り出してあります。ご覧のほどを。テレビの放送では、第86話「妖怪香炉・悪夢の軍団」（7月11日放送）で、鬼太郎たちがひと足先に夢工場に行くシーンが見られるかもしれません。／横山賢二（PD／東映動画）

87話 寄生妖怪ペナンガラン

脚本／星山博之　演出／生頼昭憲　作画監督／柳瀬譲二　美術／藤田　勉

●PENANGARAN
ペナンガラン
（声優名／大竹　宏）

▲鏡獅子を封じていたお札

▲ユミとその父

▲鏡獅子の入っていた長持ち

放映日 87.7.25
16.5% 視聴率

88話 不思議な妖犬タロー

脚本／大橋志吉　演出／芹川有吾　作画監督／松本朋之　美術／鷲崎　博

放映日 87.8.1
20.5% 視聴率

88話／解説

ちょっぴり天狗になって、謙虚さを失いかけた鬼太郎に、目玉おやじと仙人がお灸をすえる。いつにない、目玉おやじの鬼太郎に対する厳しい言葉にも、鬼太郎への愛情が含まれている。

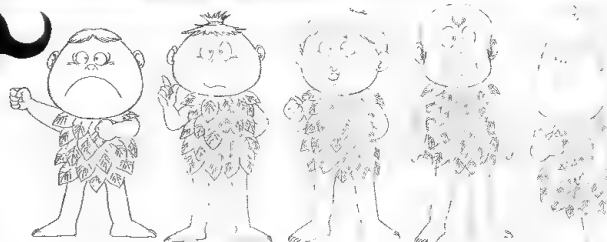
●SENNIN
仙人
（声優名／清川元夢）

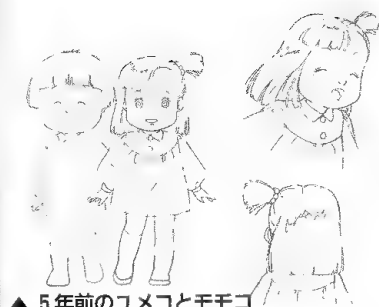
▲謎の犬タロー

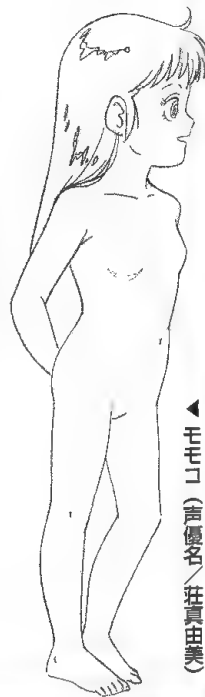
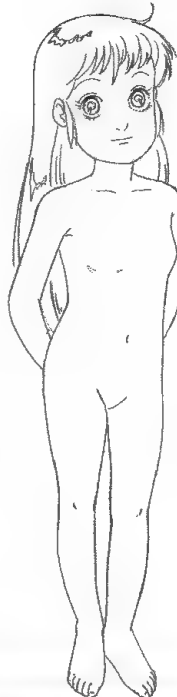
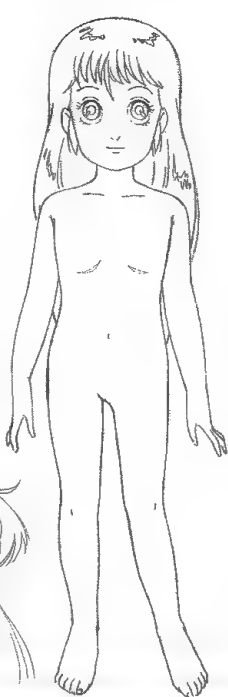
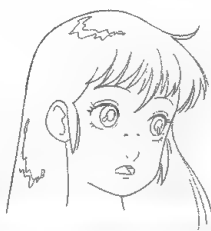
まぼろしの怪物
増長した鬼太郎を懲らしめるために仙人が勝負をさせた

89話 木の子と妖怪山天狗

脚本／武上純希　演出／岡崎 稔　作画監督／平田かほる　美術／田中資幸

放映日 87.8.15 18.5% 視聴率

▲天狗鼻になった鬼太郎

▲「木の子」たち

▲5年前のユメコとモモコ

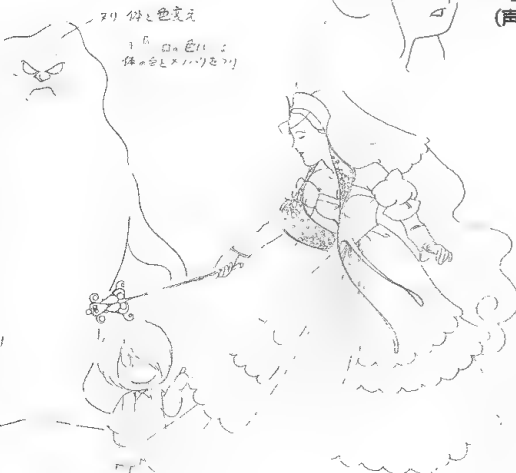
●YAMATENGU
山天狗
（声優名／岸野幸正）

◀モモコ（声優名／荘真由美）

90話 妖精ニクスの青い涙

脚本／星山博之、金巻兼一　演出／芝田浩樹　作画監督／稲野義信　美術／鷲崎 博

●KOBORUTO
コボルト
（声優名／龍田直樹）

●NIKUSU
ニクス
（声優名／堀江美都子）

▶ストレス
ニクスが集めた青い涙が物質化したもの

▲ストレスから解放された正夫

▲優子ママのエプロン姿

放映日 87.8.22 21.6% 視聴率

●JYOUOU
女王
（声優名／秋本晴美）

91話 ; 妖怪ハンター　ヒー族！

脚本／武上純希　演出／葛西　治　作画監督／入好さとる　美術／伊藤雅人

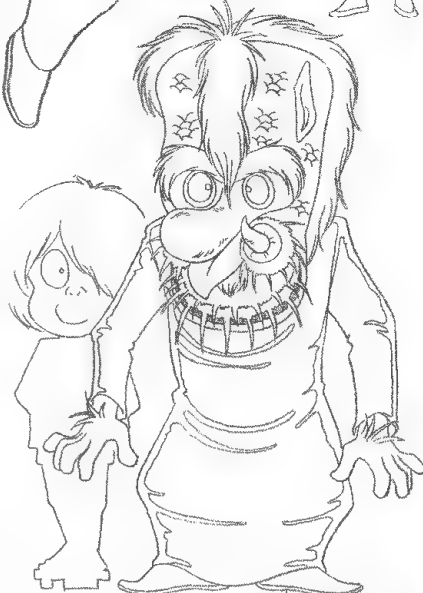
●HI ICHIZOKU MUSUME
ヒー族 娘
（声優名／荘真由美）

●HI ICHIZOKU HAHA
ヒー族 母
（声優名／川嶋千代子）

●HI ICHIZOKU CHICHI
ヒー族 父
（声優名／塩屋浩三）

放映日
87.8.29
23.4%
視聴率

▲普段は妖怪ぬいぐるみショップの店長一家となっている

▲ヒー族の吐き出す息は、妖怪をぬいぐるみ人形にかえてしまう！

▲中国の妖怪　ヒー族を操り、日本の妖怪征服を目論んでいた

●ONNA YASYA
女夜叉
（声優名／津田延代）

92話 ; 人喰い家と妖怪家鳴

脚本／大橋志吉　演出／芹川有吾　作画監督／松本朋之　美術／鷲崎　博

放映日
87.9.26
23.1%
視聴率

横山Pの鬼太郎コラム

夢工場へ行こう！
　ゲゲゲの森では、毎晩「鬼太郎音頭」に合わせて盆踊りが盛大に行われています。先日の仮装大会では、ネズミ男がナマズ男に変装して優勝。夢工場の入場券を手に入れました。おしかったのがヌリカベと一反木綿。もう少しなんとかならなかったものかと思われます。だって、ヌリカベはブロックに、一反木綿はシーツに変装したのですから…。
　ところで、夢工場の鬼太郎館には、もう行ってきましたか。特に「妖怪テレビの1日」がおもしろいと評判で、鬼太郎の家の居間はごったがえしています。演出の芝田くんの遊び心がうまくいかされ、そのダジャレの連発には脱帽。鬼太郎たちもオープニングに招待され、1日中みんなと楽しんできたようです。なかでも気に入っていたのが妖怪電話で、仲間たちと自由に話していました。いろんな妖怪がつぎつぎとテレビ電話に現れて、ビックリさせたり、笑わせたりしてくれます。東京と大阪で8月いっぱいやっています。みんなも楽しんできてください。／横山賢二（PD／東映動画）

●YANARI
家鳴
（声優名／平野正人
田中康郎
田中和実）

▲トミコ一家　ユメコの同級生

93話 進化妖怪かぶそ

脚本／武上純希　演出／芝田浩樹　作画監督／山口泰弘　美術／藤田　勉

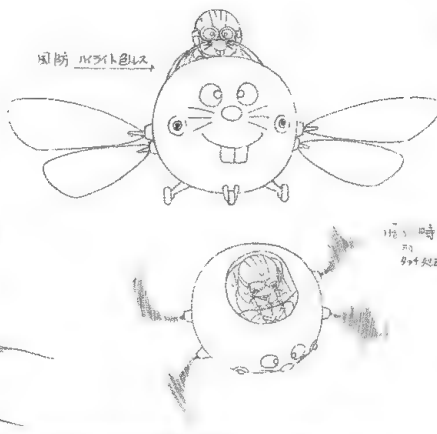
放映日
87.10.3
23.6%
視聴率

●AKAATAMA
赤頭
（声優名／西尾　徳）

▲かぶその「ハチャ」（左）と「メチャ」（右）

▼かぶその飛行船

◀知恵の樹

▶探検姿のユメコ「虎穴に入らずんば虎児を得ずよ！」と、勇ましくかぶそ城に侵入して捕われる

94話 高熱妖怪ぬけ首

脚本／星山博之　演出／白土　武　作画監督／清水　明　美術／田中資幸

横山Pの鬼太郎コラム

人気ナンバー1は伽楼羅

まだまだ暑さが続いていますが、元気ですか？「鬼太郎」もこのところ月1本の割でナイターが入り、ファンの方からお叱りの便りなど届いていますが、今月もまた、ナイターとリピートが入りますのでゴメン！　ゴメン!!

まずナイターは9月12日の予定。リピートは9月19日と9月26日。サブタイトルは「妖怪牛鬼」と「鬼太郎危うし！妖怪大裁判」です。この2作品を選んだのは、ある雑誌で1000人にアンケートをとった結果「妖怪大裁判」「妖怪牛鬼」に出てくる伽楼羅（かるら）が圧倒的に人気があったこと。そして「妖怪大裁判」には多数の妖怪が登場、大活躍するからです。それにも増して、この作品はいちばん鬼太郎らしい作品で、親子の情、友情、裏切り、烈しい怒り、仲間（チームワーク）の大切さ、自然（神）への賛歌などが、あますところなく描かれているからです。前に見落とした人は必ず見て！　以前に見た人も必見のこと!!（アンケートの結果は、2位油すまし、3位だるま。以下ざしきわらし、朱の盤、穴ぐら入道……とつづく）／横山賢二（PD／東映動画）

●NUKEKUBI
ぬけ首
（声優名／矢田耕司）

放映日
87.10.10
24.6%
視聴率

▲プロデューサー（左）とディレクター（右）

95話 笑い妖怪ヘンラヘラヘラ

脚本／大橋ふ吉　演出／今沢哲男　作画監督／平田かほる　美術／鷲崎　博

放映日 87.10.17 23.2% 視聴率

●KERAKERA ONNA
ケラケラ女
（声優名／青木和代）

▲ヘンラヘラヘラ

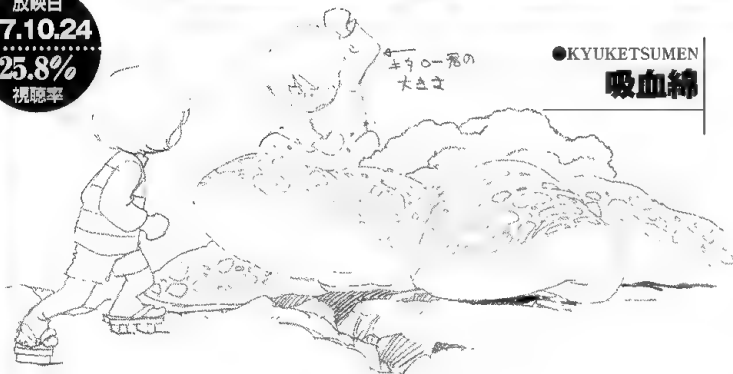
◀医者の振りをするねずみ男

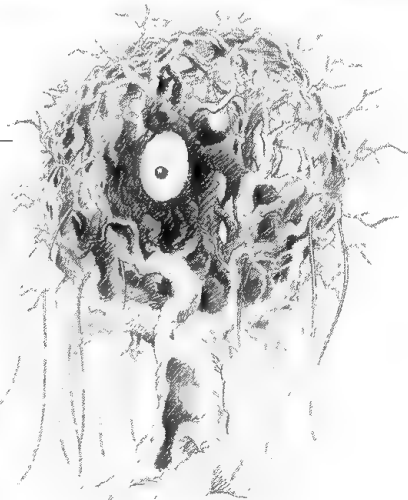
◀金太

96話 血戦!! 妖怪吸血軍団

脚本／武上純希　演出／芹川有吾　作画監督／稲野義信　美術／田中資幸

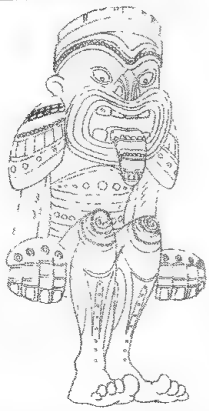
放映日 87.10.24 25.8% 視聴率

●KYUKETSUMEN
吸血綿

●YOUKAIJYU
妖怪樹
（声優名／郷里大輔）

▲妖怪樹の芽

●ASASABONSAN
アササボンサン

●RANSUBUIRU
ランスブィル

●KURABOKKO SENSEI
倉ぼっこ先生
（声優名／はせさん治）

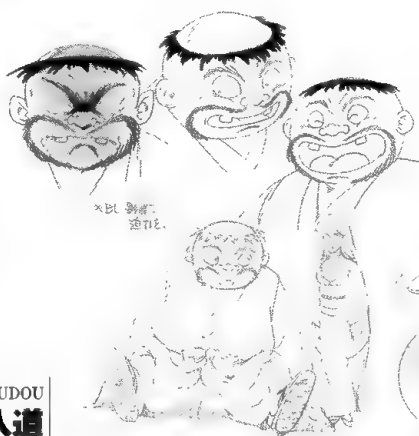
●YASYA
夜叉

▲島の子供。「治」と「里子」

97話 夫婦妖怪!? 皿数え

脚本／星山博之 演出／石田昌久 作画監督／松本朋之 美術／鷲崎 博

放映日 87.10.31 23.3% 視聴率

●SARAKAZOE
皿数え
（声優名／土井美加）

●OONYUUDOU
大入道
（声優名／大竹 宏）

▲皿にされた鬼太郎とねずみ男

98話 津波妖怪猛霊はっさん

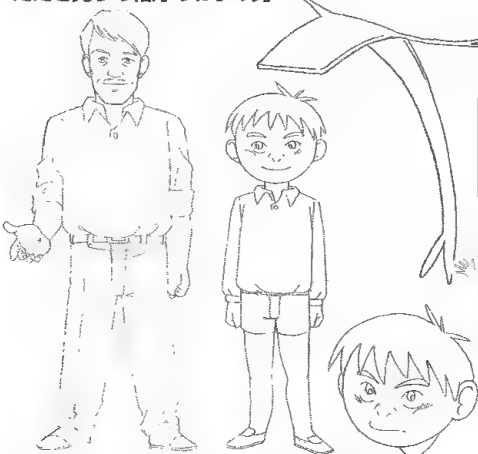
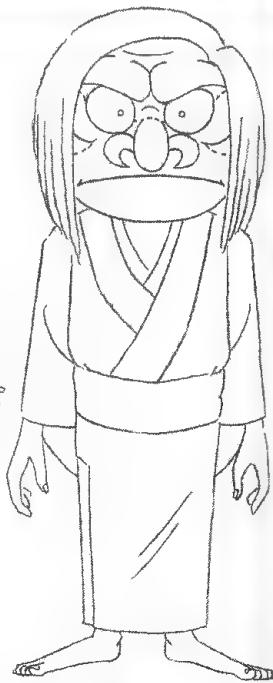
脚本／大橋志吉 演出／山寺昭夫 作画監督／高田耕一 美術／松本[illegible]治

放映日 87.11.7 25.0% 視聴率

◀ねずみ男のハッピの模様

●SUISEI NO OKINA
水精翁
（声優名／宮内幸平）

▲たたき売りの格好のねずみ男

●MOUREI HASSAN
猛霊はっさん

▲ユメコのおじさん ▲友彦

横山Pの鬼太郎コラム

1本でも多く放映する予定

街も秋らしく衣替えをしてきましたが、新学期がんばっていますか。おかげさまで「鬼太郎」も放映満3年を迎えました。そのためか、あるいは9月に野球とリピートが2本も入ったせいか、視聴者の方からたくさんの励ましとお叱りの便りを戴きました。「年内で『鬼太郎』が終わるのは本当か」「アイデアがなければわれわれが協力するから続けろ」「せっかくFCを作ったのに残念でたまらない」などなど……。しかし、安心してください。「鬼太郎」は年内で終わる予定はありません。1本でも多く放映する予定です。スタッフ、キャストともに新鮮な気持ちで、作品に取り組んでおりますので、この誌上を借りてお知らせしておきます。

それから「夢工場」の鬼太郎館をぜひ見たいと出かけたのに、3時間も待たされたのに見られなかったというファンの方、申しわけありませんでした。／横山賢二（PD／東映動画）

99話 はきもの妖怪化けぞうり

脚本／山崎晴哉　演出／芹川有吾　作画監督／松本朋之　美術／襟立智子

●BAKEZOURI
化けぞうり
（声優名／田中康郎）

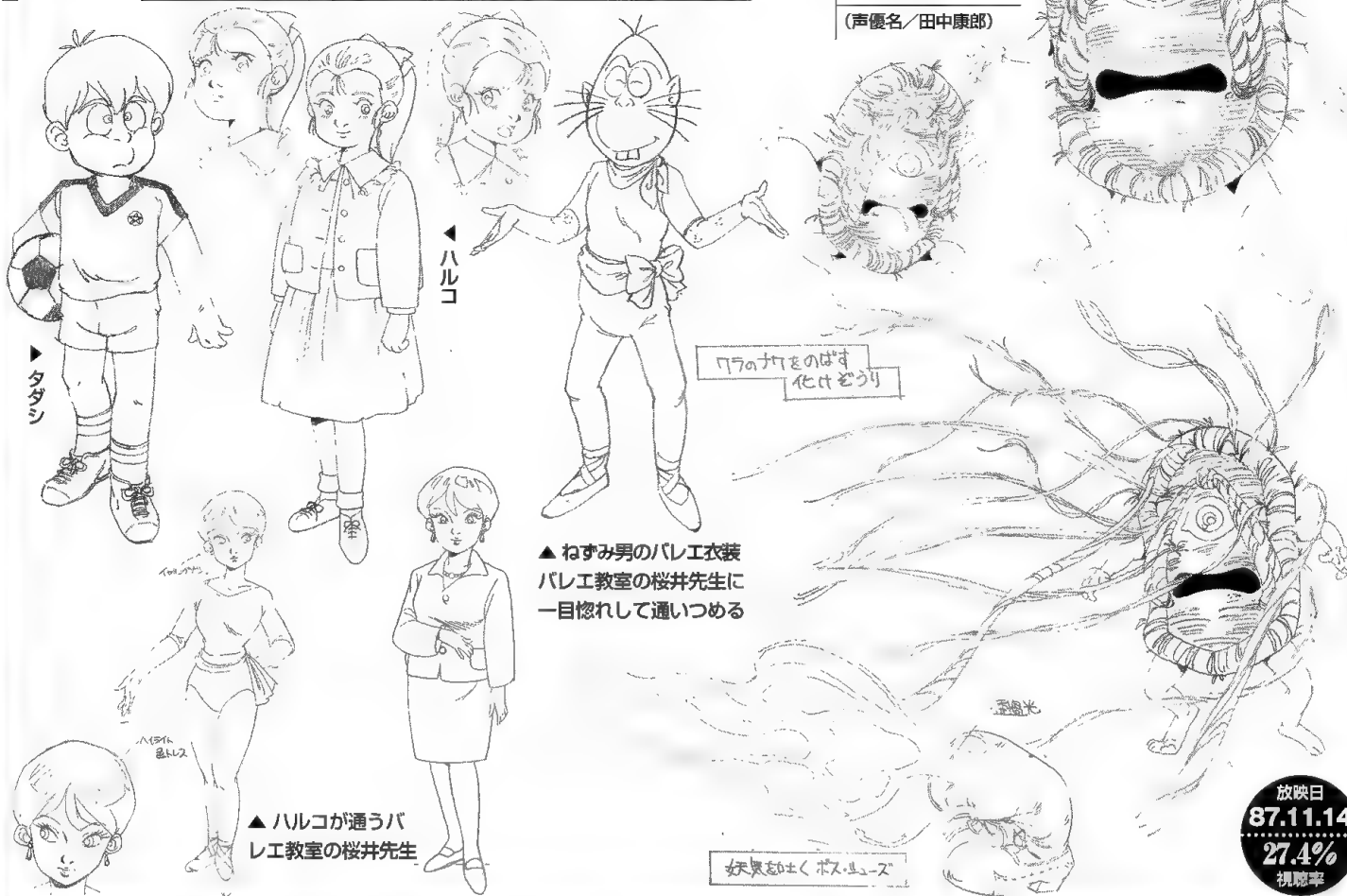
▶タダシ

◀ハルコ

▲ねずみ男のバレエ衣装
バレエ教室の桜井先生に
一目惚れして通いつめる

▲ハルコが通うバレエ教室の桜井先生

ワラのナワをのばす
化けぞうり

妖気を吐く ポス・ミューズ

放映日
87.11.14
27.4%
視聴率

100話 鬼巫女の鬼太郎抹殺作戦

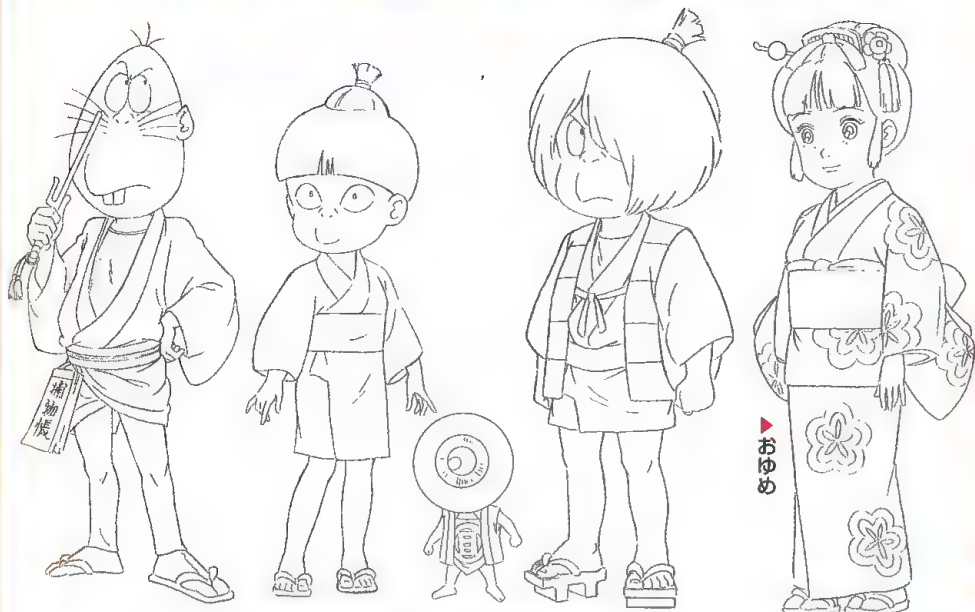
脚本／武上純希　演出／今沢哲男　作画監督／平田かほる　美術／金島邦夫

●YAOBIKUNI
八百比丘尼
（声優名／高島雅羅）

●JYOUOUNINGYO
女王人魚
（声優名／山野さと子）

▲鬼道衆
八百比丘尼
につかえる

●ONIMIKO
鬼巫女
（声優名／色川京子）

放映日
87.11.21
23.9%
視聴率

101話　妖怪捕物帖　猫騒動

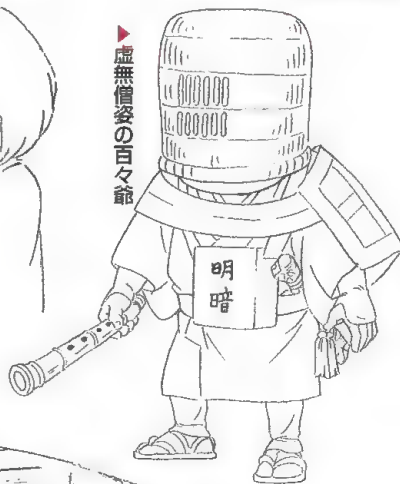
脚本／星山博之　演出／明比正行　作画監督／山口泰弘　美術／田中資幸

横山Pの鬼太郎コラム

もっとチャレンジ精神を

秋の新番組も出揃いました。アニメ・ファンのみな様には期待通りの作品も何本かあったと思いますが、まったく裏切られた作品も数本あったのではないかと思います。

私見を申し上げれば、ピカリ！と輝いている作品は、残念ながら見ることができませんでした。原作に頼り過ぎて「どうしてもこう作るのだ！」というチャレンジ精神がたりないのではないでしょうか？　みなさまはどう感じましたか？さて「ゲゲゲの鬼太郎」も3年目に入り、先月も述べた通り、もう原作も底をついて、年内で終わるのではないかと、多くの方から問い合わせの電話や励ましの手紙（原案やキャラクター付き）を頂きました。スタッフ一同恐縮していますが、改めて年内で終わるようなことはありませんので、これからもぜひ応援してください。

／横山賢二（PD／東映動画）

横山Pの鬼太郎コラム

鬼太郎時代劇が初登場

朝晩めっきり寒くなって、はやいところではスキーを楽しんでいるという便りもとどいています。カゼなんかひくなよ。

11月28日と12月5日はリピートになり、たいへん申しわけないと思っています。しかし、ついに待望の初の鬼太郎時代劇「妖怪捕物帖・猫騒動」が12月12日に放映されます。ネズミ男の十手片手の目明かし姿をはじめ、鬼太郎、目玉、子泣き爺、砂かけ婆たちが、それぞれの時代劇スタイルで登場しますので、アフレコのときは、声優さんが吹き出してしまう一瞬もありました。また、12月26日の「純愛ヌリカベとおしろい娘」は、視聴者のヌリカベの活躍篇を作ってほしいという要望に応えて、オリジナル。一途に少女を思い慕うヌリカベを描いていますので、必見！

それから冬休みに、劇場で公開した鬼太郎がフジテレビで放映されることが、ほぼ決定（本数は2本か？）しましたので、楽しみに待っていてください。

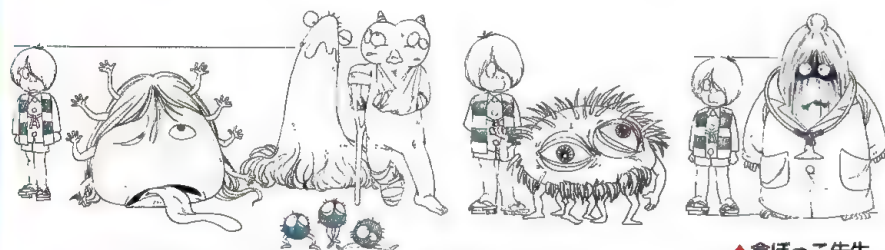
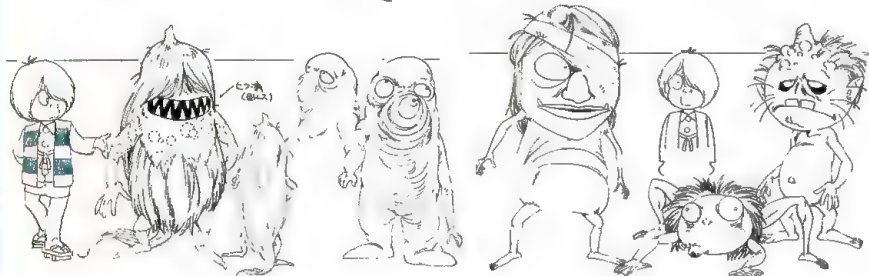
／横山賢二（PD／東映動画）

101話／解説

何の説明もなく舞台はいきなり江戸時代にタイムスリップ！天童家から鬼太郎ファミリーまで終始一貫してお江戸でござる！この大らかさが80年代の魅力であり、醍醐味です。

102話　おてんば魔女ジニヤー

脚本／大橋志吉　演出／葛西 治　作画監督／松本朋之　美術／池田祐二

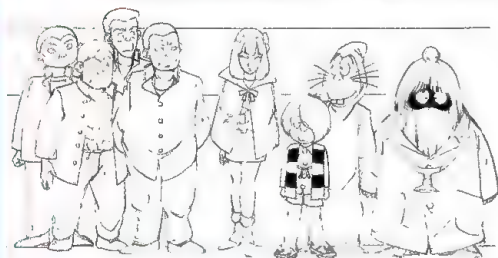
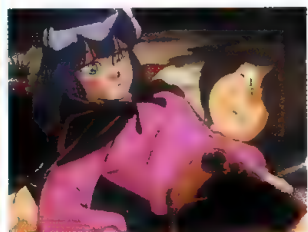
●JINIYA
ジニヤー
（声優名／冨沢美智恵）

▲妖怪病院の入院患者たち。個性豊かに描かれている

▲倉ぼっこ先生

▲召使い

▲比較表

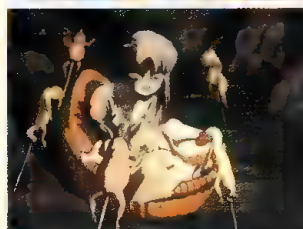
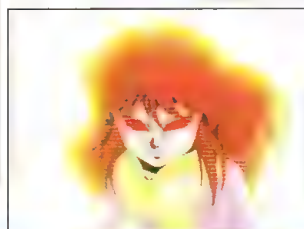
放映日
87.12.19
21.5%
視聴率

●JINIYA NO PAPA
ジニヤーのパパ(魔王)
（声優名／塩屋浩三）

103話 純愛ヌリカベとおしろい娘

脚本／武上純希　演出／葛西 治　作画監督／新岡浩美　美術／藤田 勉

放映日 87.12.26 22.8% 視聴率

▶紅子（声優名／小山茉美）

▶茂作じいさん

▶比較表

●OSHIROI BABAA
白粉婆
（声優名／弥永和子）

103話／解説
年上の美人に弱い鬼太郎、変装した白粉婆にコロっと騙されてぬりかべとの一騎討ちにまで発展！鬼太郎と互角以上に渡り合ったり、魚を取ったりと、ぬりかべ株が急上昇！

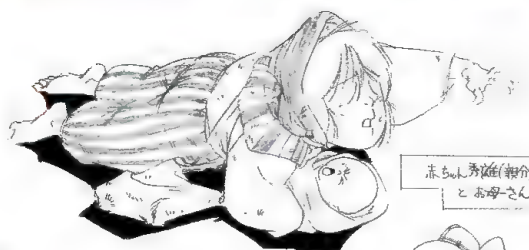
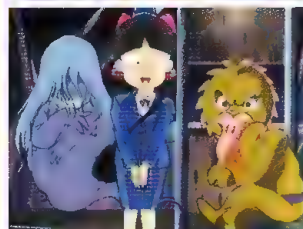
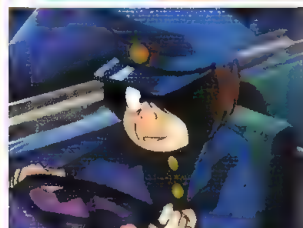
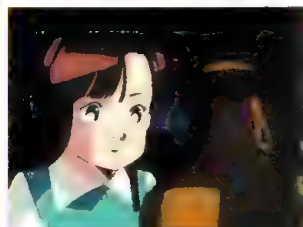
●美少女紅子には秘められた力が！スペクタルな作画で魅せます。

104話 謎の妖怪狩りツアー

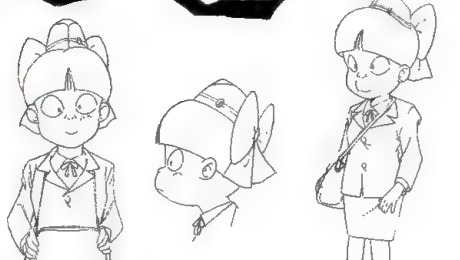
脚本／星山博之　演出／芹川有吾　作画監督／松本朋之　美術／小林祐子

●ROKURO KUBI
ロクロ首
（声優名／木下しのぶ）

放映日 88.1.9 24.4% 視聴率

▶水木老人とその妻

▶ネコ娘のバスガイド姿

▶親分(右)と親分の息子(左)

▲子分たち

●非道な人間共に罠を仕掛ける鬼太郎ファミリー。企んでます。

104話／解説
「怖い妖怪と怖がる人間」という構図が逆転。逃げまどう妖怪達を救う為、鬼太郎達が立ち上がる！第6話もそうですが、人間を懲らしめる時の鬼太郎は、本当に悪い顔をしますね。

105話 妖怪めんこ天狗

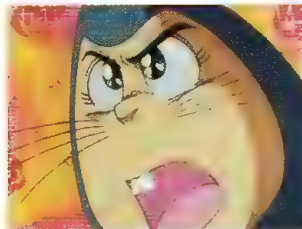
脚本／星山博之　演出／白土　武　作画監督／高田耕一　美術／吉田智子

放映日 88.1.16 24.0% 視聴率

●MENKO TENGU
めんこ天狗
（声優名／塩屋　翼）

▶幸一、星郎、宏

●鬼太郎がめんこにされて大ピンチ!?

●ユメコちゃんのために頑張ります！キラリ

横山Pの鬼太郎コラム

砂かけ婆と子泣き爺の純愛物語

あけましておめでとうございます。去年はボクと仲間を応援してくれて、ありがとう。

ボクはゲゲゲの森で、とうさんと仲間のネズミ男たち、それに遊びにやってきたユメコちゃんとタコ上げ大会をやっています。子泣き爺と油すましはコタツに入って将棋をやりながらお酒を飲んでいます。砂かけ婆とネコ娘は食事のしたく中です。

ところで、子泣き爺と砂かけ婆がおたがいに好きあっていたことが、第107話「ケムリ妖怪えんらえんら」（1／28放映）で見れるよ。砂かけ婆がピンチになったとき、子泣き爺が命をかけて「おまえだけを死なせはしない！」と愛の告白をするんだ。ボクはビックリしたが、愛に年齢は関係ないもんね。ボクも年をとっても好きな人といつまでも一緒にいたいな！

——鬼太郎より　／横山賢二（PD／東映動画）

106話 とうふ小僧と山神

脚本／大橋志吉　演出／芝田浩樹　作画監督／松本朋之　美術／小林祐子

放映日 88.1.23 23.3% 視聴率

●TENJYO NAME
天井なめ
（声優名／田中和実）

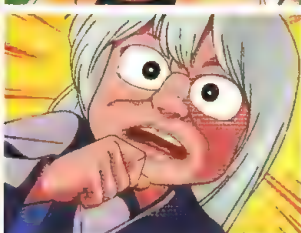
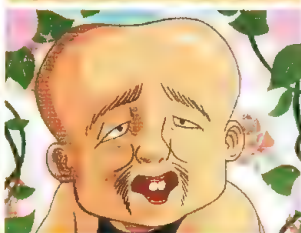
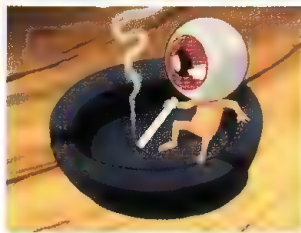
●TOHU KOZO
とうふ小僧
（声優名／難波圭一）

●YAMANOKAMI
山神
（声優名／北村弘一）

107話 ケムリ妖怪えんらえんら

脚本／武上純希　演出／岡崎 稔　作画監督／宮沢康紀　美術／吉田智子

●3人仲良く入浴あり、おやじの喫煙あり、老いらくの恋あり…と盛り沢山!!

◀ガスマスク姿のねずみ男

●ENLA ENLA
えんらえんら
（声優名／はせさん治）

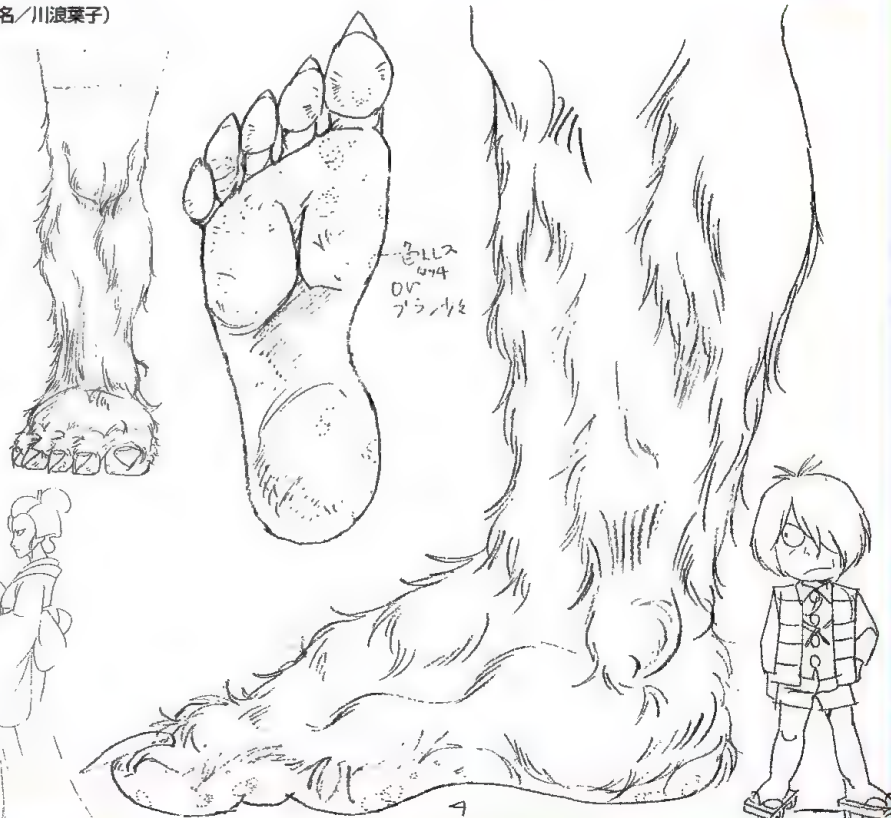
107話／解説
都会の有害な物質により、本来おとなしいはずだった妖怪が暴れてしまう…という展開は過去にも見られるが、それに、砂かけと子泣きの愛情を盛り込むという斬新さが！

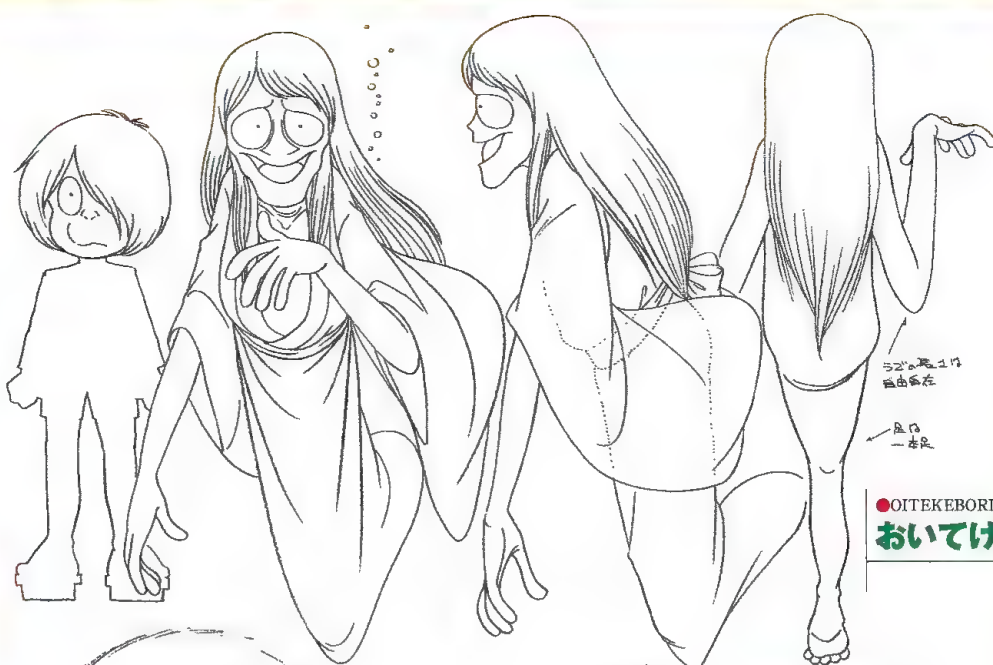
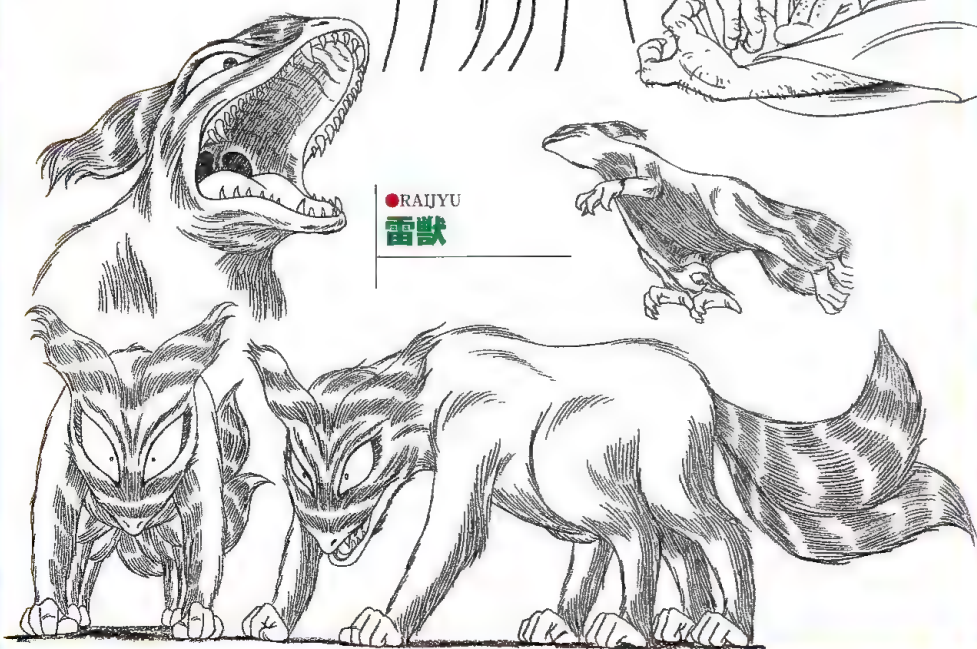
放映日 88.1.30
24.0% 視聴率

108話 鬼太郎ファミリーは永遠に

脚本／星山博之　演出／葛西 治　作画監督／新岡浩美　美術／小林祐子

●OKURI CHOUCHIN
送り提灯
（声優名／川浪葉子）

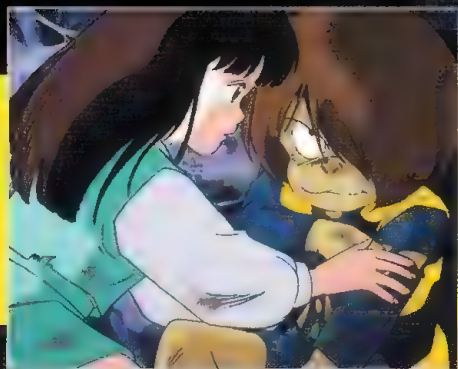
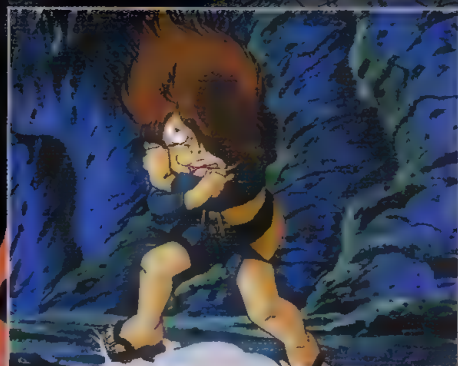
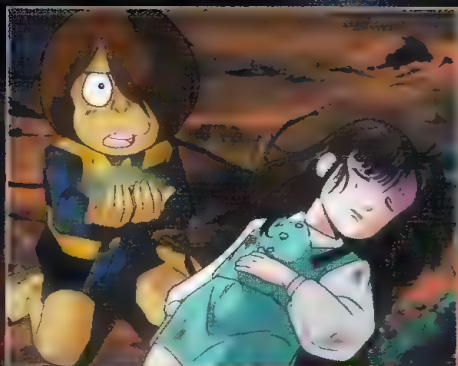
●ASI ARAI
足洗い
（声優名／銀河万丈）

放映日 88.2.6
24.1% 視聴率

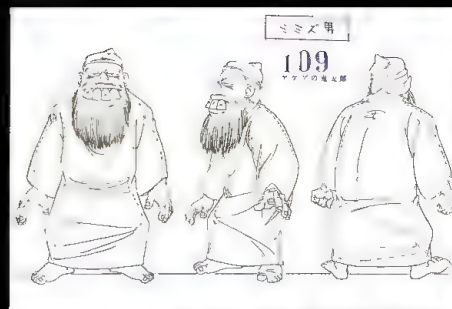
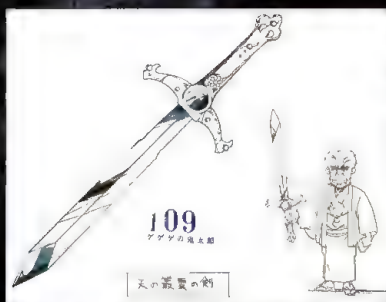
108話／解説
遂に本編最終回！　目玉おやじを人質に、本所七不思議の刑で鬼太郎を追いつめるぬらりひょん。　設定資料は入好さとる氏からご提供いただきました。　次のページにも続きます！

横山Pの鬼太郎コラム

新シリーズがスタート

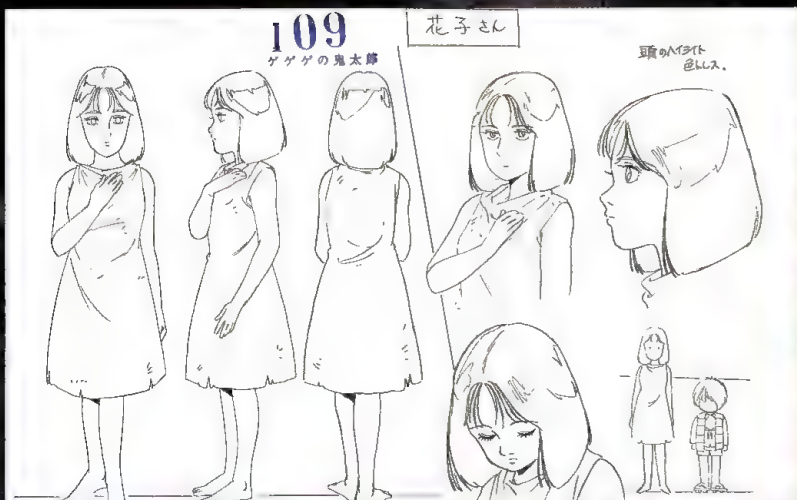
ボク鬼太郎。みんな元気ですか？　いまの鬼太郎シリーズは、2月6日（土）の108話をもっていちおう終わりましたが、引きつづき2月8日（月）夜7時から、新シリーズの「母恋地獄編」がはじまりました（なんだ知ってたのか）。

このシリーズは、ボクが母親を求めて地獄界を徘徊するストーリーのかたちをとっていますが、ぬらりひょんの陰謀や新妖怪がつぎつぎとあらわれて、ボクたちレギュラーを悩ませます。むろんレギュラーはいままでと同じですが、それに油すましが長老妖怪として参加します。人間界からはユメコちゃんが同行しますが、そのためにときどきネコ娘と衝突したり、ボクたちの足をひっぱったりします。それが逆にチームワークを強めていきます。そのなかで一番複雑な思いをするのがとうさんです。なにしろ自分の妻、ボクのかあさんと逢うんですから……。ボクも一刻も早くかあさんにあいたい!!

／横山賢二（ＰＤ／東映動画）

鬼太郎
地獄編
全7話の連続ストーリー形式で展開された鬼太郎地獄編！
設定資料を大掲載！
ゲゲゲの鬼太郎地獄編』
■放送期間：1988年2月8日～3月21日（全7話）
■毎週月曜日19：00～19：30／フジテレビ

▲首狩り3人衆の一人、サソリ女（声優名／上村典子）ねずみ男の母を騙り、鬼太郎を罠にかける

▲首狩り3人衆の一人、クモ男（声優名／屋良有作）口から吐き出す糸で鬼太郎を縛りあげた。

▲首狩り3人衆の頭領、ミミズ男（声優名／田中康郎）青龍刀を持ち、鬼太郎の首を刎ねようと襲い掛かる！

▲地獄界、地上界、天上界の3界を支配出来るという天の叢雲の剣

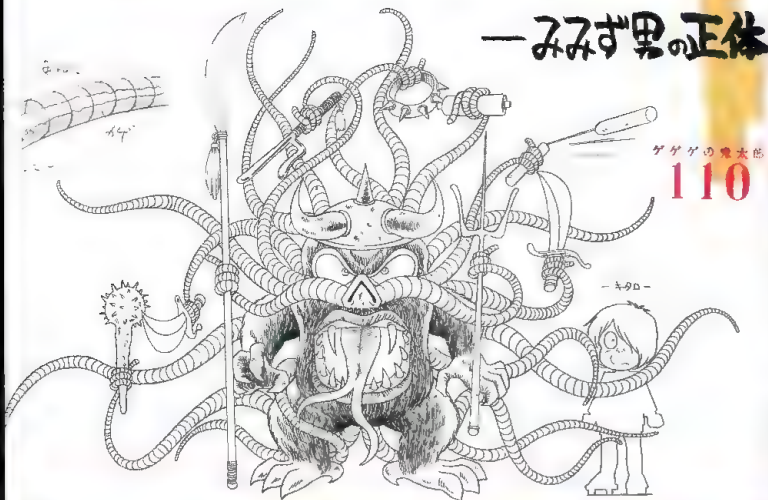
▲空とぶ魚。鬼太郎を誘い出すべく花子を攻撃していた

▲作画監督・松本朋之氏による、首狩り3人衆と鬼太郎のキャラ対比表。地獄編では、ぬらりひょんの刺客として魅力的な敵キャラが次々と設定された

▲花子（声優名／片石千春）／地上に生まれたばかりの赤ん坊を残したまま、死にかけている母親。鬼太郎の母を騙り誘い出せば、地上に戻してやるとミミズ男にそそのかされ鬼太郎を窮地に追い込んでしまう

109話 地獄編1話

母を求めて地獄旅

ユメコを追って地獄に向かった鬼太郎を待っていたのは、地獄界を支配した、ぬらりひょんの手下共だった。果たして鬼太郎は、数々の刺客を倒す事ができるのか!?

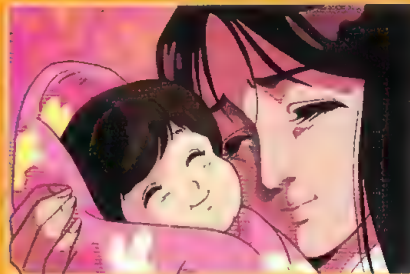
- ■1988年2月8日放映
- ■視聴率：13.2%
- ■脚本：武上純希
- ■演出：芝田浩樹
- ■美術：吉田智子
- ■作画監督：松本朋之

▲作画監督・入好さとる氏による十鬼設定資料。しかし実際には使用されることはなかったため、幻の設定資料となった

ミミズ男の正体。全身ミミズ状のグロテスクなフォルムとなっている。変身前と比べて動きが鈍くなった感もあり

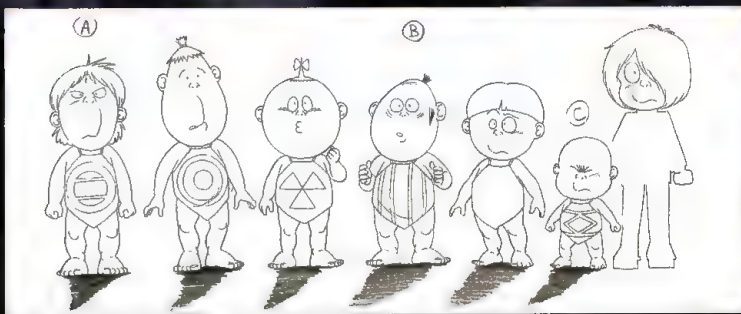
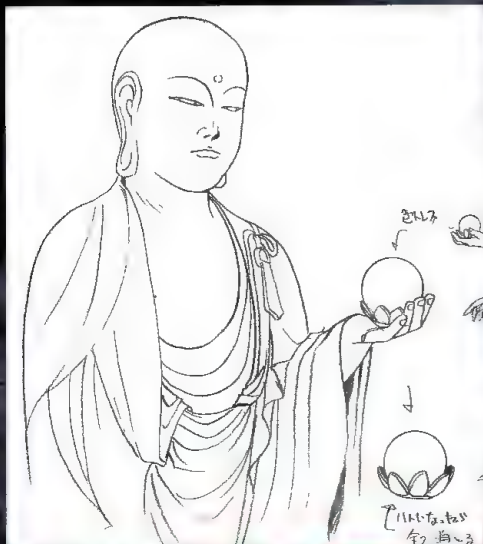
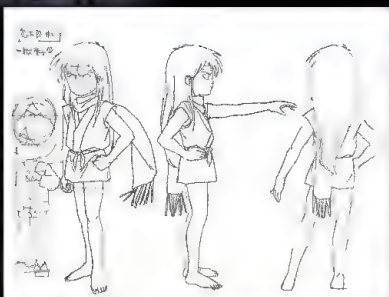
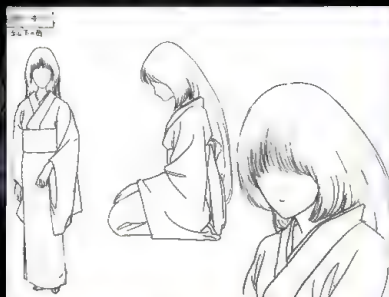
110話 地獄編2話

血戦三途の川

首狩り3人衆を倒した鬼太郎たち一行は、地獄からユメコたちを助け出す手がかり『サラメイヤの鳩』を探して賽の河原へと辿り着く。しかしそこにも新たな刺客の影！

- ■1988年2月15日放映
- ■視聴率：11.1%
- ■脚本：武上純希
- ■演出：葛西　治
- ■美術：金島邦夫、脇威志
- ■作画監督：入好さとる

首狩り3人衆に飼われている首たち。顔や表情も千差万別。

三途の川の子供達を救済し天上界へと連れていく地蔵菩薩（声優名／八奈見乗児）。

三途の川の子供達。親より先に死んだ報いを受けている

三途の川に住む大蛇。入好さとる氏による緻密なキャラ設定は、作画のクオリティを引き上げた

鬼太郎のライバルとしてデザインされた地獄童子（声優名／堀川　亮）。鬼太郎と同じで半分人間の血が流れている。悪ぶっているが心優しい少年である。

エンマ大王庁の鬼達。エンマ大王同様、彼等もぬらりひょんの支配下に。

鬼太郎が夢の中で見た、母親の面影。くじけそうな鬼太郎を励ました。

火山を噴火させユメコ達を救おうとする鬼太郎。それを防ごうとする地獄童子。二人は互角の戦いを演じるが、ぬりかべの協力で無事火山を噴火させる事ができた。

111話 地獄編3話

鬼太郎vs地獄童子

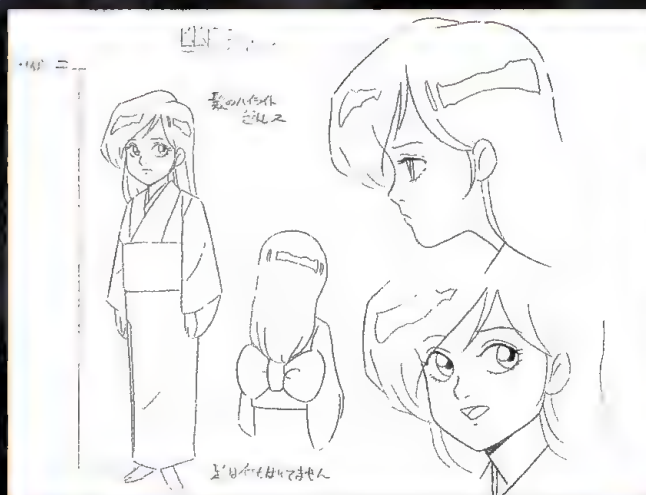
エンマ大王庁に辿り着いた一行。しかし、そのエンマ大王もぬらりひょんの支配下に！一度は牢に入れられた鬼太郎だったが、なんとか抜け出し仲間達を救う為、背後の火山へと向かった！

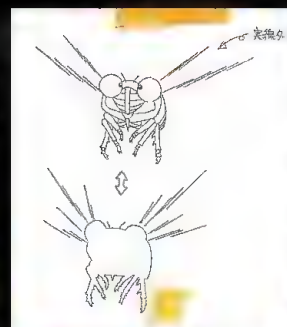
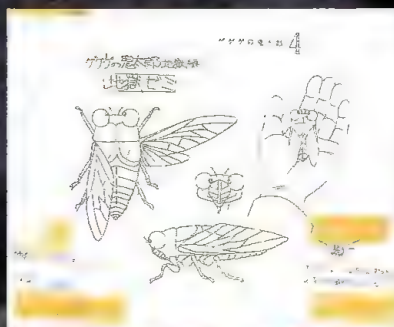
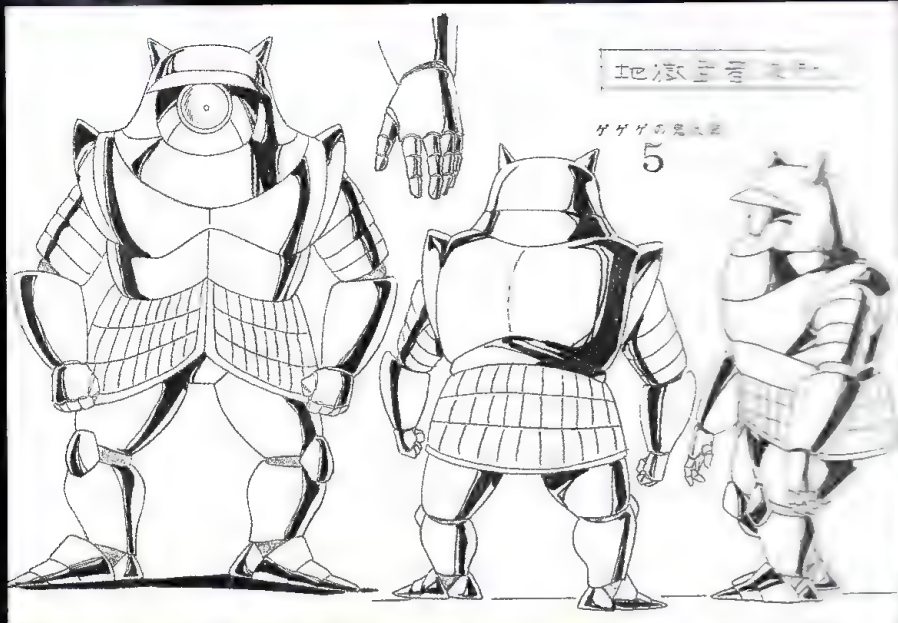
■1988年2月22日放映
■視聴率：11.1%
■脚本：武上純希
■演出：岡崎　稔
■美術：藤田　勉
■作画監督：宮沢康紀

112話 地獄編4話

二大妖怪の罠

洞窟の中を進んでいると、突然の地震が！洞窟は崩壊し、仲間達はバラバラになってしまった。それは、鬼太郎を殺そうとする、五徳ネコと鉄鼠の策略であった…！

■1988年2月29日放映
■視聴率：11.3%
■脚本：大橋志吉
■演出：白土　武
■美術：金島邦夫
■作画監督：高田耕一

地獄童子の恋人・幽子（声優名／江森浩子）。長らく未公開のままでしたが、入好さとる氏の御協力により、本誌に掲載する事ができました。

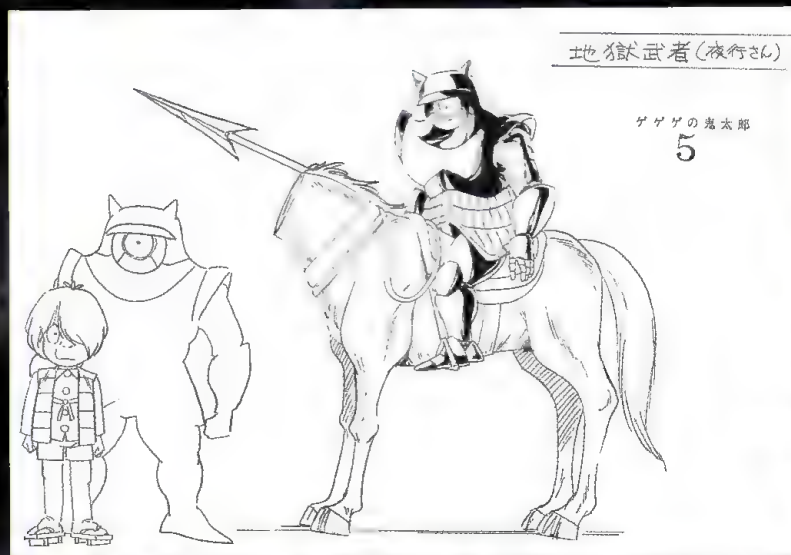
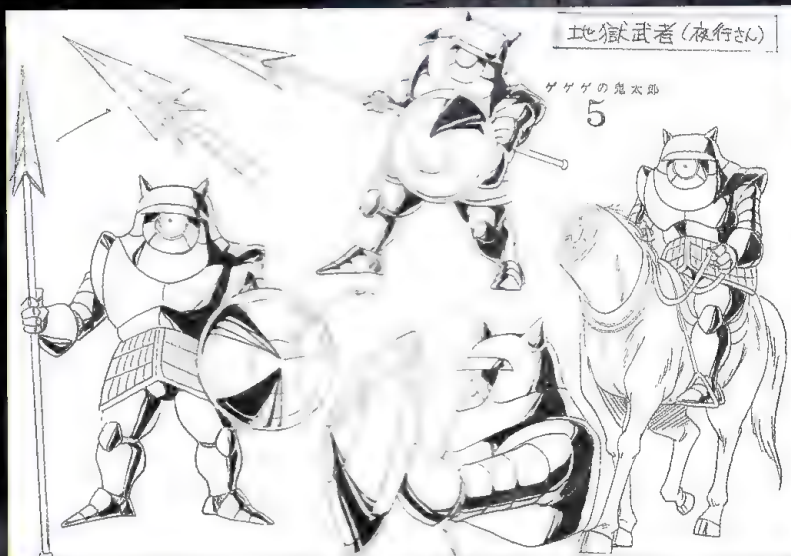
鬼太郎達を母親の元に導く地獄セミ。その正体は謎のまま…。

地獄武者の手下・餓鬼。地獄武者の命令に従い、天童家の幻覚で鬼太郎達を罠にはめようとする。

餓鬼道に君臨する地獄武者（声優名／大竹　宏）。ユメコとねずみ男を餓鬼にしようとする。その正体は地獄に里帰りをしていた夜行さんだった。

113話　地獄編5話

地獄武者の処刑作戦

突然鬼太郎達の前に現れた、人間界と天童家。しかし、それは、地獄武者に仕える餓鬼が見せた幻だった！鎧に身を包んだ地獄武者の電撃攻撃の前に、鬼太郎も倒れてしまう…！

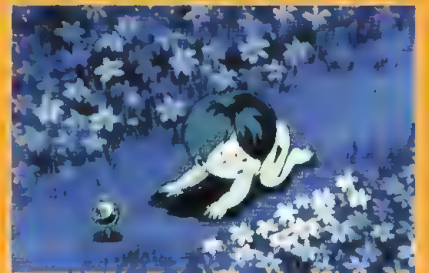
■1988年3月7日放映
■視聴率：12.0%
■脚本：武上純希
■演出：芹川有吾
■美術：丸森俊昭
■作画監督：松本朋之

紛失したと思われていた地獄編第5話の設定資料は、全てスタジオ座円洞の松本朋之氏の御協力により掲載する事ができました。地獄武者の西洋的なたたずまいや首無し馬の無気味さは、今までの鬼太郎シリーズに登場した敵役とはひと味違い、地獄編ならではの雰囲気を醸し出しています。

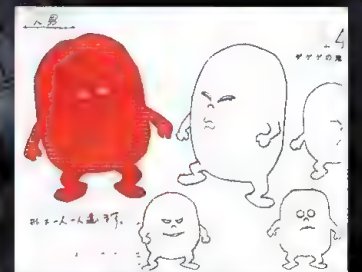
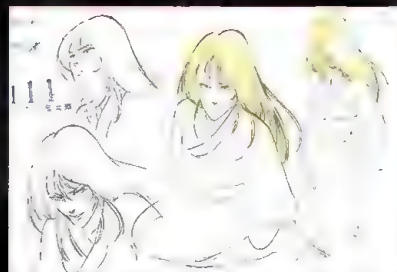
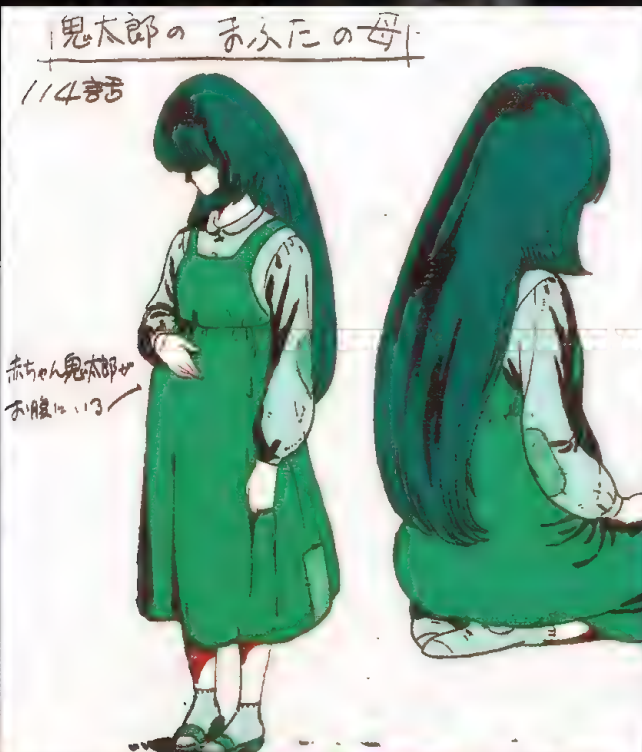
目玉おやじの昔話で登場する、生まれたばかりの赤ちゃん鬼太郎。鬼太郎の誕生シーンを映像化したのは、80年代版が初めてとなる。

血の池地獄に住むヌルリ坊（声優名／塩屋浩三）。弾力あるぬるぬるした身体で、鬼太郎の攻撃を全て無効化してしまうという強敵だ！

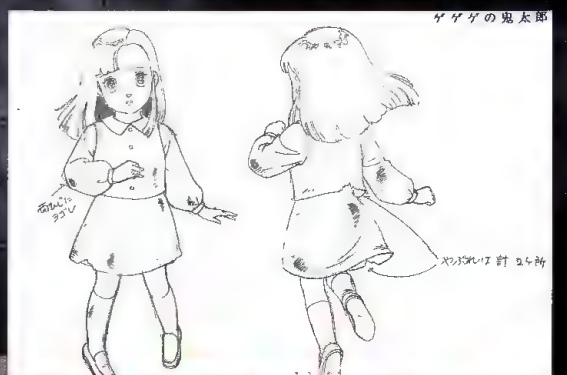
114話 地獄編6話

血の池妖怪ヌルリ坊

地獄の奥の院にまで辿り着いた鬼太郎達だが、血の池地獄で仲間とバラバラになってしまった。偽物の母親に騙されながらも、地獄ゼミの導きで、遂にぬらりひょんとの最後の戦いに挑む！

■1988年3月14日放映
■視聴率：12.1％
■脚本：武上純希
■演出：芝田浩樹
■美術：田中資幸
■作画監督：西城隆詞

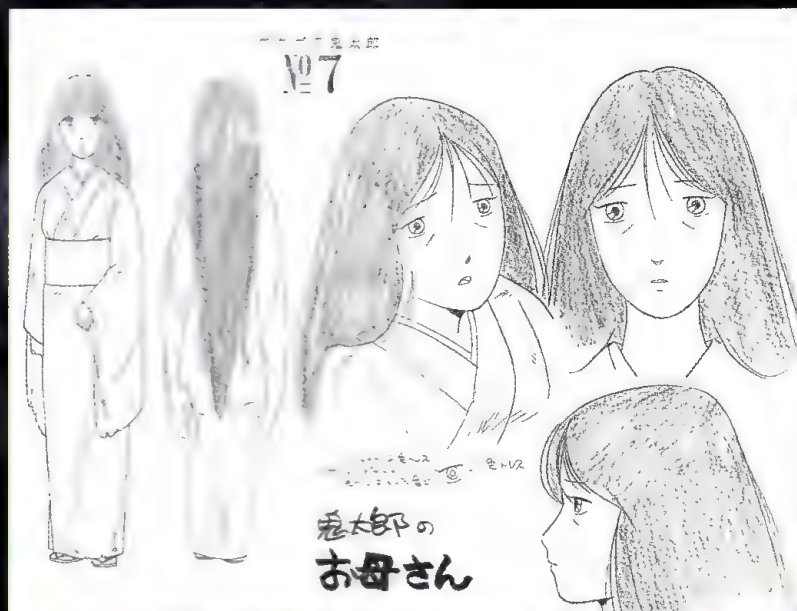
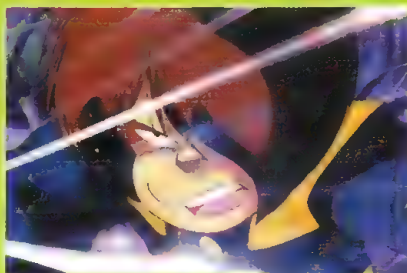
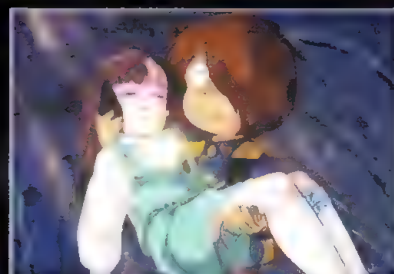
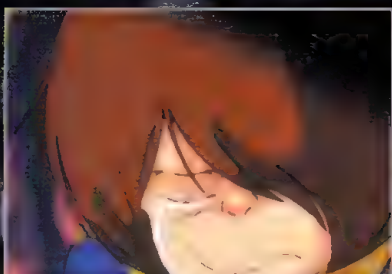
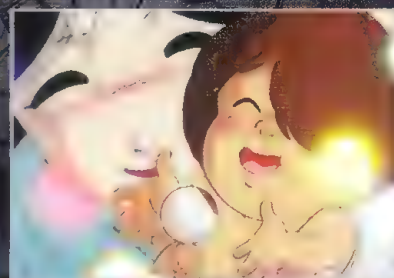
目玉おやじの昔話に登場する、鬼太郎のお母さん。お腹の中には鬼太郎が…。

何度も仕掛けられる偽物の母親の罠。地獄ゼミのおしっこで正体を暴かれた

音に反応して身体を高温にし、鬼太郎たちを追いつめた火男。

ユメコの服の汚れ具合や、やぶれの場所までも、詳細に設定されている。

115話 地獄編7話

鬼太郎最後の出会い!!

ぬらりひょんの持つ「天の叢雲の剣」に、力及ばず倒れてしまう。仲間達も次々とぬらりひょんに捕まってしまう。絶望的な状況の中、みんなの思いが鬼太郎に力を与える！

■1988年3月21日放映
■視聴率：13.2%
■脚本：武上純希
■演出：葛西　治
■美術：金島邦夫
■作画監督：入好さとる
　　　　　　新岡浩美

入好さとる氏提供による、鬼太郎のお母さん（声優名／坪井章子）の設定資料。遂に登場した本物のお母さんは、とても優しい鬼太郎思いのお母さんでした。

エンマ大王からもらった命を、不慮の事故で命を落としたユメコに差し出す母。そこには、かつて三途の川でサラメイヤの鳩を花子にあげたユメコと同じく、見返りを求めない純粋な善意が込められている。

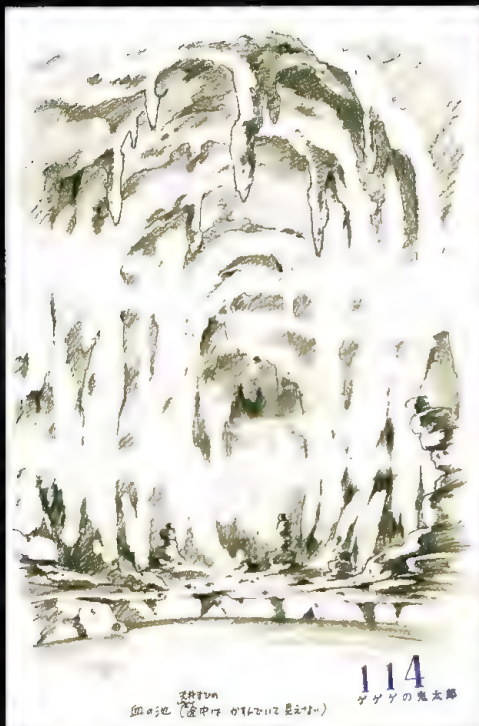
信じる心をもつ人にだけ鬼太郎の姿は見えてくる

鬼太郎や妖怪たちは、ぼくらの日常生活のいたるところに、いつも存在している。ただ、それが見える人と見えない人がいるんだ……。これは水木しげる先生の言葉でもあるわけですが、最終話のラストシーンには、そんな思いをだぶらせてみたつもりです。

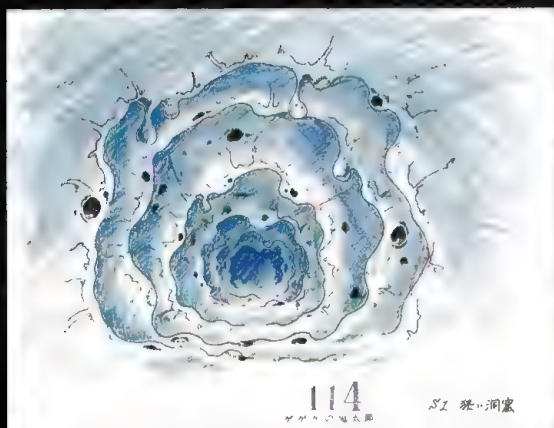
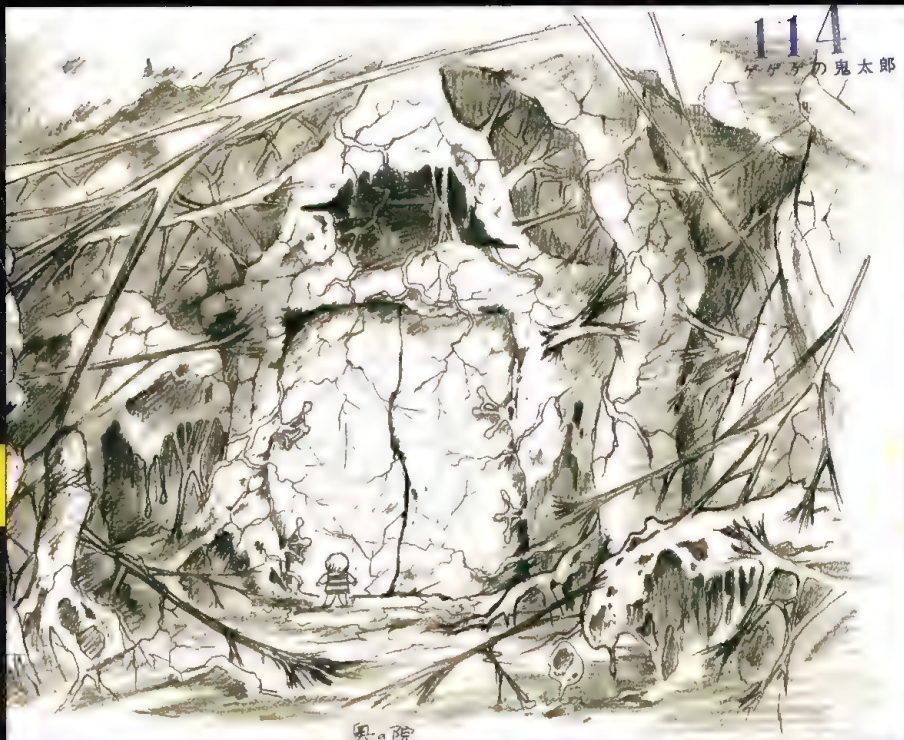
鬼太郎たちとの体験の数々は、じつは夢だったのか？　いや、決して夢であってはならない！　そう思えた瞬間、ユメコの目には鬼太郎たちの姿が見えてきたんですね。

●シリーズ・ディレクター／葛西治●「アニメージュ」（徳間書店／88年4月号）より再録

未公開設定資料集

現在までほとんど日の目を見る機会が無かった、地獄編の設定資料。それらをまとめて大公開！壮大で緻密な資料の数々によって、80's鬼太郎、最後の大冒険に相応しい世界とストーリーを演出したのである！

血の池地獄。ここから、物語はクライマックスに向けて一気に加速しはじめていく。

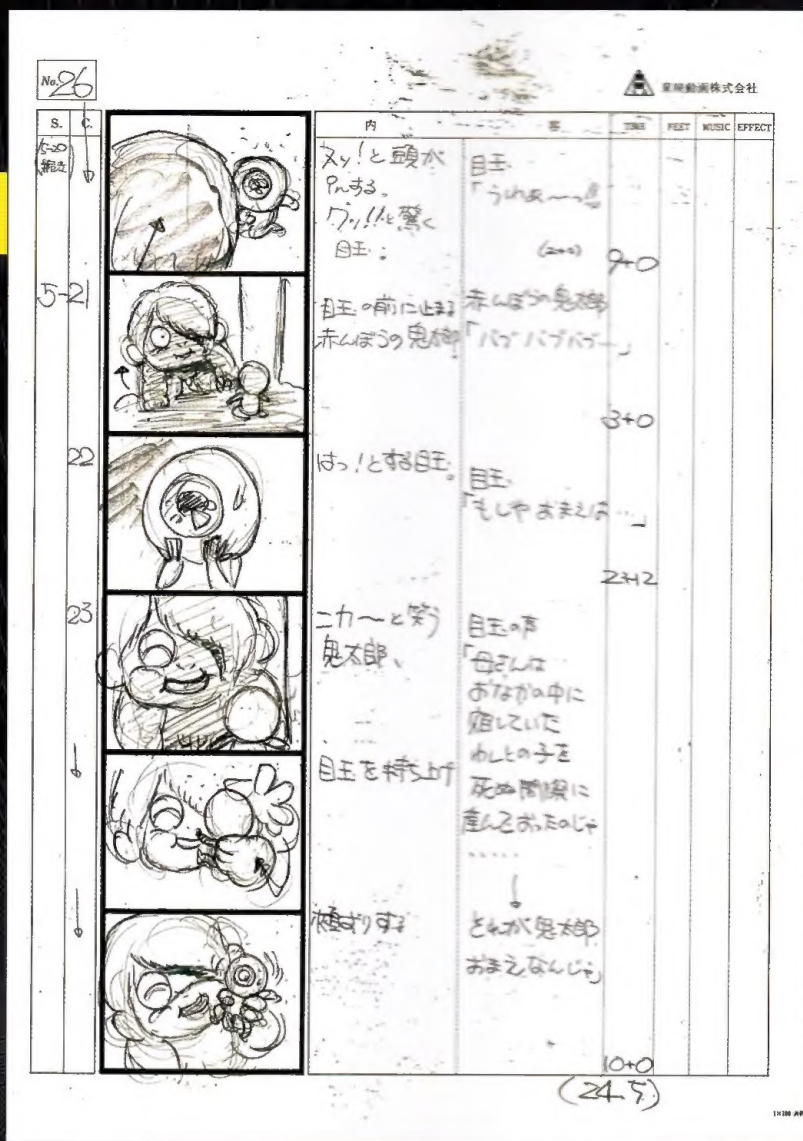
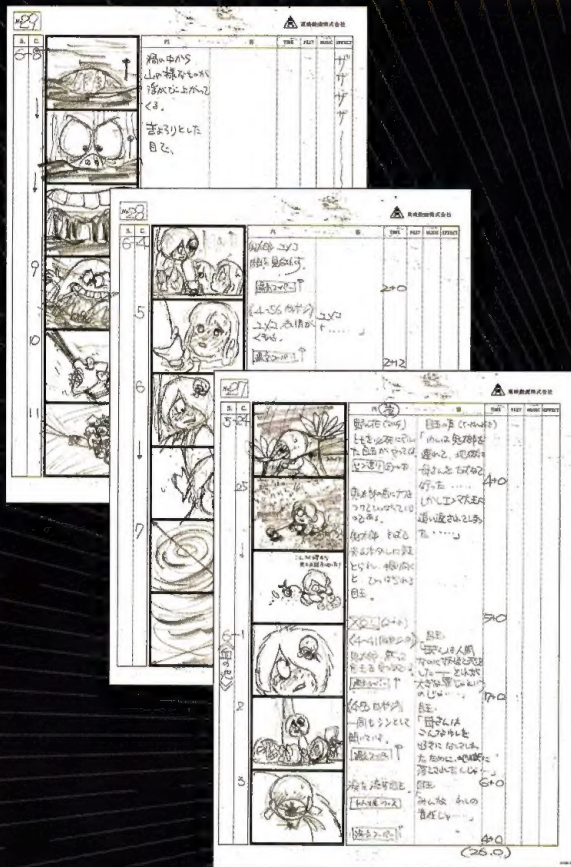
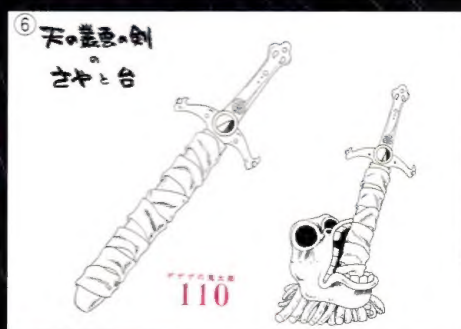
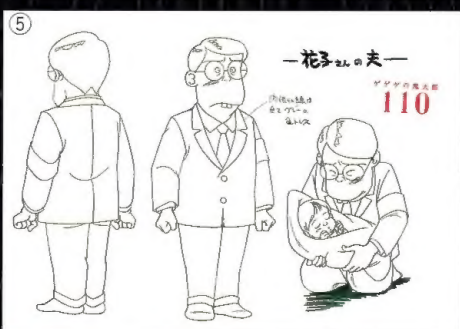
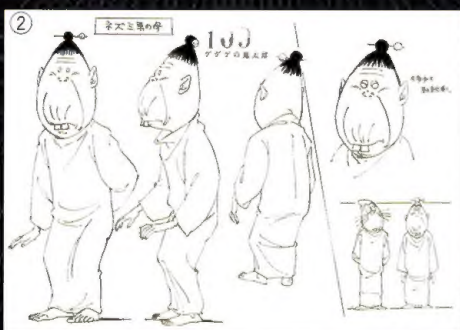
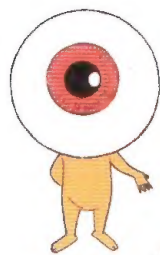
●美術ボード

天の叢雲の剣を手に入れたぬらりひょんが待ち構えている奥の院。この門の向こう側で、最後の一騎討ちを迎える。まん中やや下に描かれた鬼太郎との対比で門の大きさが分かる。

胎内道へと続く洞窟。ただ、ゴツゴツしているだけの無機質な洞窟ではなく、曲がりくねって、まるで生き物の身体の中のような、無気味な洞窟である。

首狩り三人衆の根城「首狩り砦」、中央の石台に鬼太郎がとらわれている。

首狩り砦の門のアップ。一つの舞台でも、様々な角度からの設定を必要とする。

地獄編6話『血の池妖怪ヌルリ坊』の演出を担当された、芝田浩樹氏による絵コンテ。鬼太郎の誕生シーンを、暖かみあふれる優しい情景として細やかに描いている。

●絵コンテ

●ゲストキャラ設定

地獄編各話解説では紹介しきれなかった設定資料…①天の叢雲の剣を探すぬらりひょんの前に立ちふさがる鬼。　②サソリ女が化けたねずみ男の母親の偽物。　③ねずみ男の村に住む男達　④空き缶を帽子にした召使い　⑤花子さんの夫　⑥天の叢雲の剣とそれをおさめるさやと台座。

資料提供：入好さとる
地獄編最終回『鬼太郎最後の出会い!!』原画より

メディアボーイMOOK
『おい！鬼太郎　甦るゲゲゲの鬼太郎80's　アニメ完全設定資料集』

■発行日：2007年9月15日
■発行人：石橋愼嗣
■編集人：河辺としこ／猿田正和

■発行所：株式会社メディアボーイ
〒170-0002　東京都豊島区巣鴨4-26-10
営業：TEL 03-3576-4051　FAX 03-3576-2511
広告：TEL 03-3576-4053　FAX 03-3576-2522

■印刷・製本：株式会社光邦

Printed in Japan
ISBN 978-4-903946-10-8
C9476 ￥2000E

※落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

■STAFF
◎表紙デザイン
私市倫太郎（ハイテンション）
◎編集・取材協力
大竹　太（レバンテ）
原口正宏／道原しょう子
大久保一光（バッドテイスト）
三村・F・賢司／ハイテンション
◎SPECIAL THANKS
葛西　治／芝田浩樹／兼森義則
山口泰弘／松本朋之／稲野義信
入好さとる／新岡浩美／松下健吉

© 水木プロ・東映アニメーション
© 東映・東映アニメーション

★描きおろしイラスト多数掲載!!

兼森義則、山口泰弘、松本朋之、稲野義信、入好さとる、新岡浩美氏による本誌だけの描きおろし80'sイラストを一挙大掲載！

★充実のスタッフインタビュー!!

シリーズディレクターから演出、作画監督らスタッフが語る鬼太郎80'sとは!? 今だから語れる制作現場の肉声からナイショの話まで、大いに語ってもらいました！

★マニア必見の完全設定資料集!!

映画版＋本編108話＋地獄編7話の現存する全ての設定資料を大公開！ キャラクター設定、妖怪設定、美術設定に至るまで未公開の資料もお蔵出し！

★劇場版4作品巻頭特集!!

ゲゲゲの鬼太郎劇場版DVDボックス『ゲゲゲBOX THE MOVIES』発売記念！ 80's劇場版『ゲゲゲの鬼太郎』から『激突!!異次元妖怪の大反乱』までの4作品の魅力に迫ります！

ISBN978-4-903946-10-8
C9476 ¥2000E
定価：本体2,000円＋税
雑誌 60601-11